

# 異世界転移してゼカと

特濃 めちやハメ♡♡♡

下 (妊娠編)

基本CG20枚、本編209枚、  
文章なし、効果音なしの  
差分合計446枚

ゲームの憧れのヒロインと  
ついに種付け孕ませSEX！  
それも複数回の子作り！



## 前回のあらすじ 1

主人公の男は身寄りもなく、リストラされ絶望している。  
ド○クエ8が好きでゼシカでオナニーするだけが生きがい。  
ある日繁華街で謎の老婆の店に入るとそこで異世界転移を申し込むことに。  
転移した先はド○クエ8の世界だった。

真っ先にゼシカに会いに行くが、本物に感動したのもつかの間、  
顔がラグサットというゼシカがすごく嫌っている男に  
似ているという理由だけで軽蔑されてしまう。



## 前回のあらすじ 2

なんとか召使いとして潜り込むが、侮蔑される日々。  
そんなある日。ゼシカの部屋の前を通りかかった時、  
男はゼシカのオナニー声を聞いてしまう。

ゼシカは性欲だけが暴走してオナニーばかりしていた。  
男はオナニーを見てしまい激怒したゼシカに魔法で怪我を負わされる。  
男は怪我をいいことに、加害したゼシカにエッチなお願いを始める。



## 前回のあらすじ 3

お願いはエスカレートし、ゼシカも嫌悪感に包まれながらも性欲に抗えない。  
ある日ついに全快した男が屋敷を去ることに。  
だがゼシカのムラムラも頂点に達す。ゼシカは盗賊と偽って男を襲う。

ゼシカから、1回だけという条件でのセックスが始まるが、男はペニスを抜かず、  
挿入したまま32回も交尾をするのだった。(避妊具使用)



リーザス村。

ただでさえセックスで疲れている中  
必死に走り、ゼシカ宅に着いた俺を待っていたのは  
召使いや母親のアローザさんの驚きの表情、

そしてゼシカの

「こいつのこと、死ぬほどこき使っているから。」  
ということづてだった。



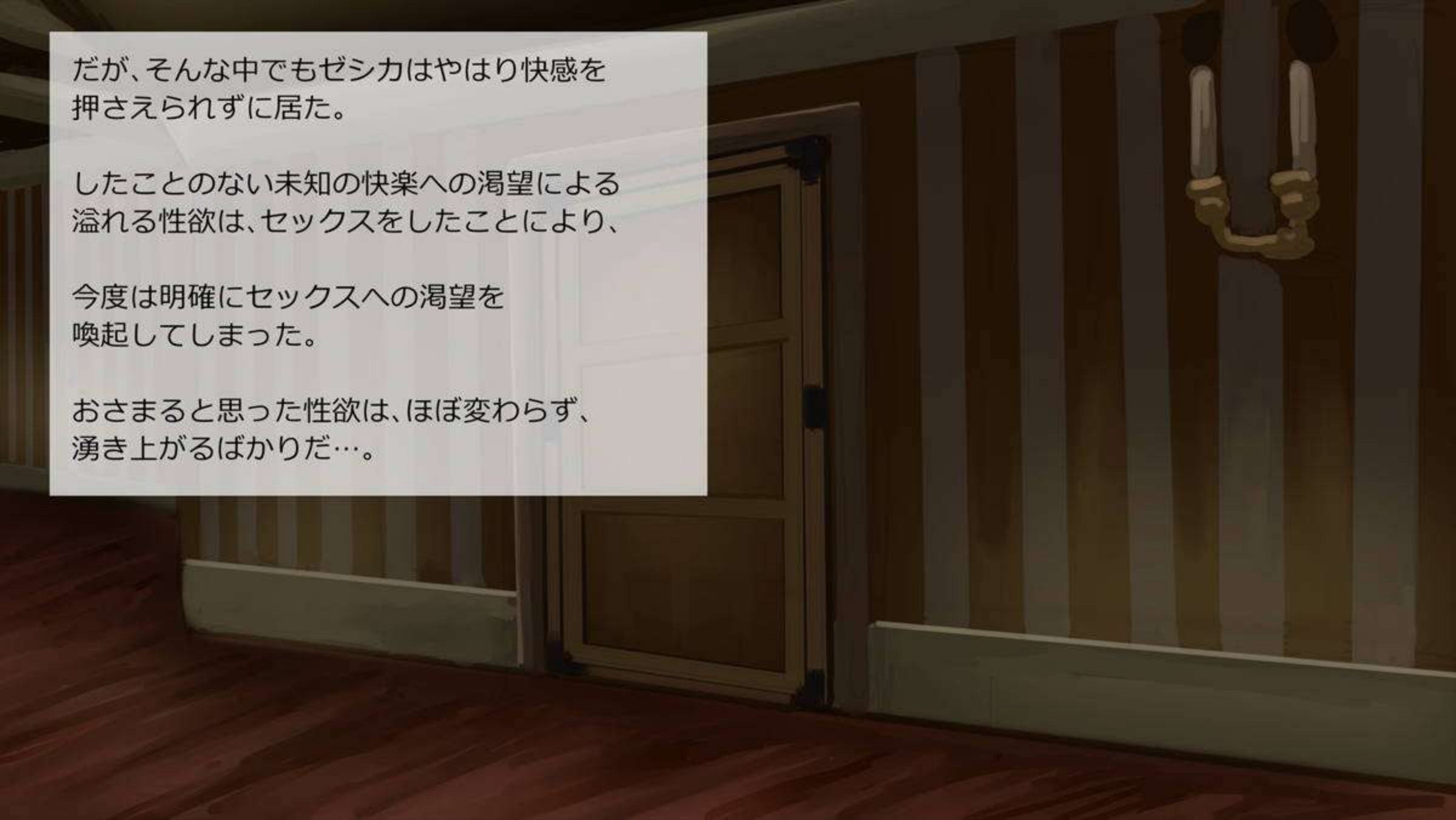
それから案の定、俺は以前よりも遥かに  
厳しく働かされた。

ゼシカのそばに居れること、  
何よりあんなにセックスした記憶だけで、  
その辛さには耐えられたが。

ゼシカの言うお仕置きは、今のところ  
性的な何かも、SM的な何かもなく、

それこそセックスしたのも嘘のように、  
ただただ厳しく働かされるだけであった。





だが、そんな中でもゼシカはやはり快感を  
押さえられずに居た。

したことの無い未知の快樂への渴望による  
溢れる性欲は、セックスをしたことにより、

今度は明確にセックスへの渴望を  
喚起してしまった。

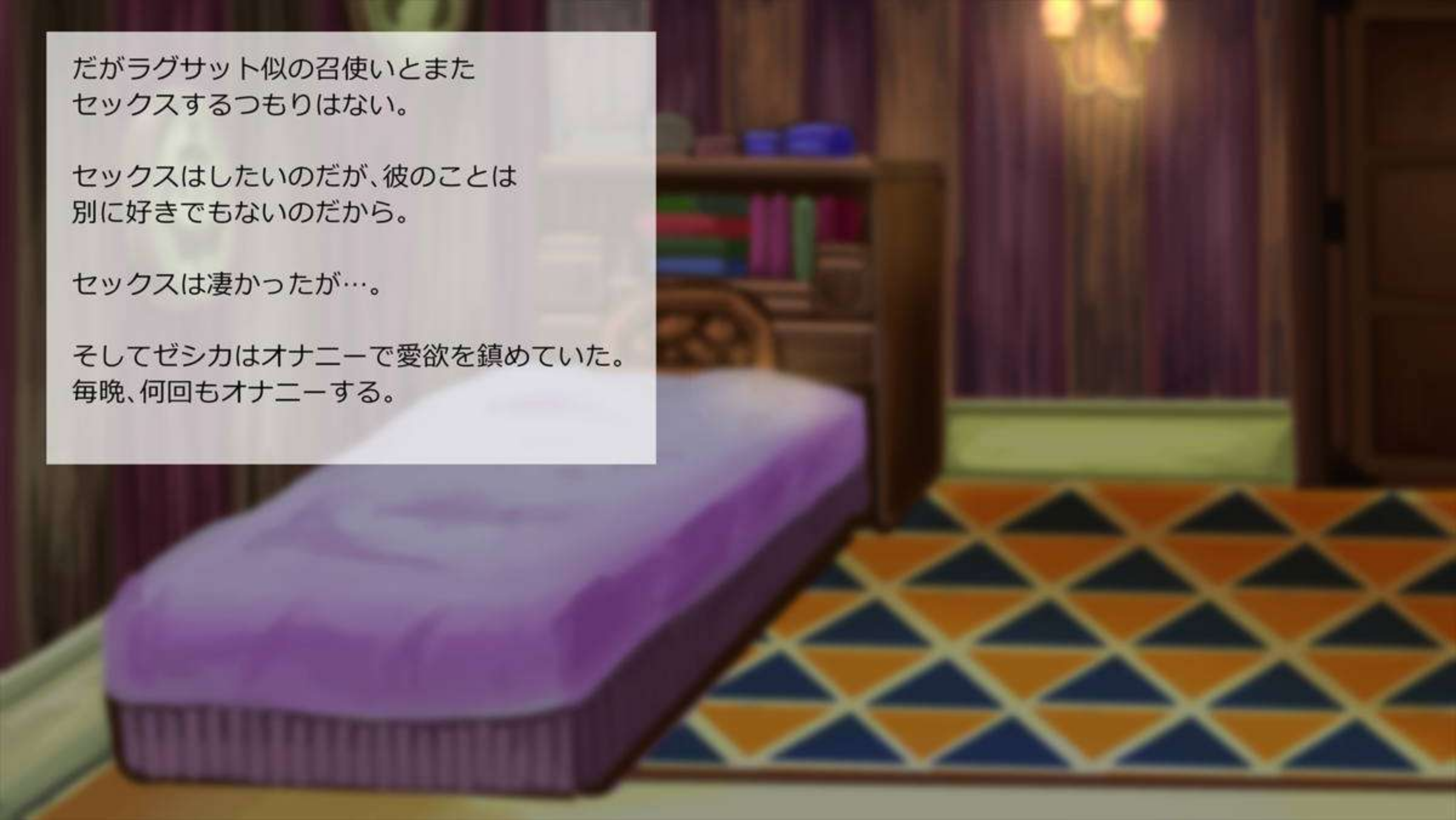
おさまると思った性欲は、ほぼ変わらず、  
湧き上がるばかりだ…。

だがラグサット似の召使いとまた  
セックスするつもりはない。

セックスはしたいのだが、彼のことは  
別に好きでもないのだから。

セックスは凄かったが…。

そしてゼシカはオナニーで愛欲を鎮めていた。  
毎晩、何回もオナニーする。





「あぁっ…あ…！ん…！これっ…  
こ…オナニーしないと…あん…！」

不本意ながら、もう処女膜を守る必要は  
なくなってしまったので熱い愛液で  
煮えたぎっているまんこに指を挿入する。

「指じゃちょっと物足りないけど…  
中に違うものが入ってくる感触っ…♡」

「はうう…いやらしい音…熱い…！いやらしい匂い…！」

「あああ…！気持ちいいっ…ひっ…！  
あああはあぁっ…！！あんっ、あっ、あっあっ！」

思い出すのはあの夜の光景。そのイメージ、  
感触を必死に打ち消すがそれは快感を助長するばかり。

「はううん…っ！んっ！ああ！はあ…あ！」

「あっ！あああ！んうっ！あ！はあっ、は！  
気持ちいいっ…あふあっ、ふあああうっ！」

「はあああああっ…ひいいいいあっ…あ…！」

「はうっ！はうう！気持ちいいっ…！  
あ…！あ…あうああっ！  
あ！んううううっ！出っ…出ちゃあ…」

激しくなる指使い。指を出し入れする度に体が跳ね、  
巨乳、腰、巨尻が揺れる。指の動きが激しくなる。  
クリトリスも激しくこすりながらゼシカは絶頂してゆく…！

「はああっあ！気持ちいいっ…もっとうっ…あっ…あ…！あ！  
んあああっああはあああ！」

「ひああああっ！はああああ！  
あっ！ああふううああああっ！  
出っ…出ちゃう…！ああ！」

「んんんっ！ああああ！はあ！  
はあ！はあ！ああん！」

ドポッ♡♡

ブル  
ブルッ

ゴ

あーっ！！  
あーっ！！  
あーっ！！

女の愛欲の匂いがいやらしい水音と共に  
深夜の部屋を満たしていく。

膣口から溢れるドロリと熱い愛液、愛液以外の  
液体も少し漏れる。汗と愛液にまみれた女体…。

「は…！は…は…！はあ…！」

「あうっ…！あ…ああああんっ…あ…  
気持ちよかった……！  
はあ…はあ…は…！！」

まだ絶頂でゼシカはガクガク震えている。  
口の端からよだれが垂れる。  
はち切れそうな巨大な胸がたぶんと跳ねる。

愛液がベッドを湿らす。染みが広がっていく。  
生っぼく、甘い匂いが部屋に漂い続ける。

そんなオナニー生活が1ヶ月続いた。

いよいよ、ゼシカも性欲がオナニーだけでは我慢できなくなってきた。

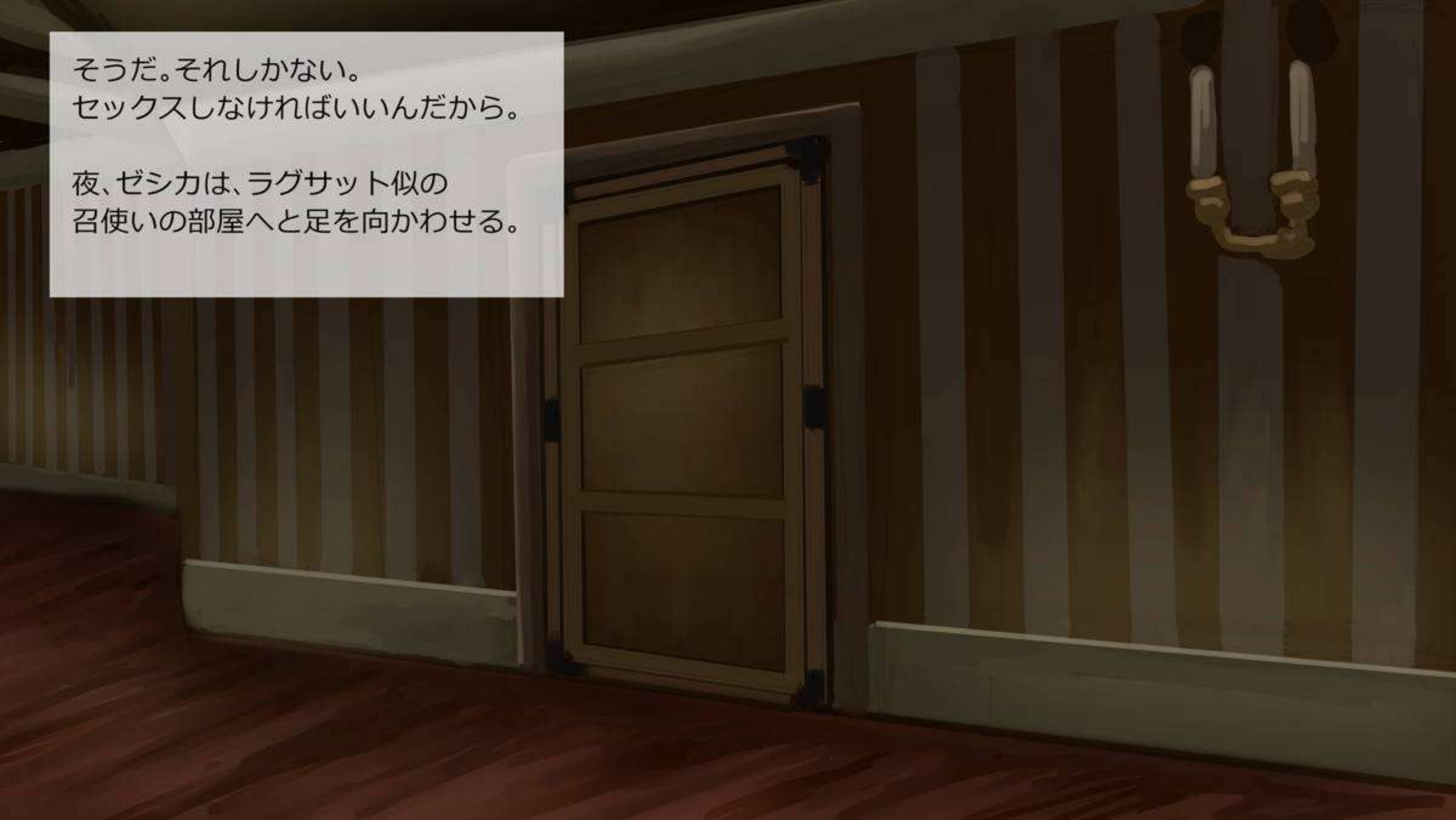
ラグサット似の召使いにも、さんざんこき使ってなかなかいいお仕置きが出来ていると思うが、

やはり無理やりセックスしまられた恨みは、それこそ性的なお仕置きで晴らさなければいけないんじゃないのか。



そうだ。それしかない。  
セックスしなければいいんだから。

夜、ゼシカは、ラグサット似の  
召使いの部屋へと足を向かわせる。



A bedroom scene with a bed in the foreground, a window with red curtains in the background, and a door on the right. The room has a green frame around the window and door.

「はっ！！ゼシカ様！！！」

ドアを開けたその姿に胸は高鳴り、  
チ○ポは勃起する。

いつか来ないかと思っていたが一向に来ず、  
もう諦めかけていたところだったが…。

「なによその にやけた顔は  
言っとくけど何かいいことしに  
来たんじゃないから。  
お仕置きに来たのよ」

「ありがとうございます！！」

「……多分本気でつらいやつよ？」

と、ゼシカはゴムのような  
リングを取り出す。

「これは私のムチのスキルと  
魔法を使って加工した特殊な  
ゴムのリングよ

これをあんたの汚いおちんちんの  
根本につけてあげるわ」

「ありがとうございます！」





「そんなこと言われるのも今のうちよ  
私 あんたが結局毎日オナニーばかり  
しまくってる事  
他の召使いから聞いたんだから

そんなオナニー大好きなあなたに  
プレゼントよ  
はやく装着しなさい」

「はっはい！」

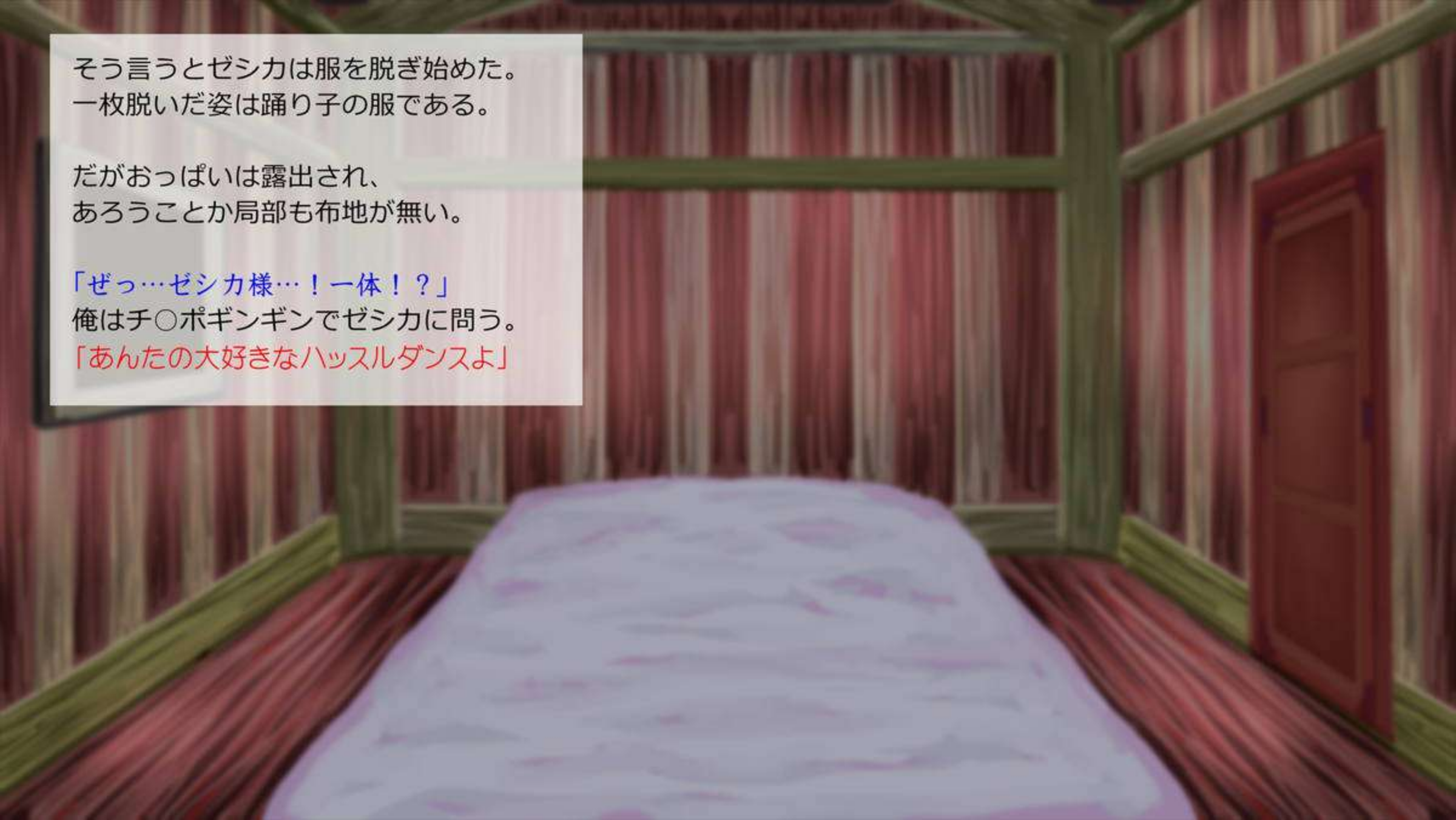
俺は大急ぎでそのリングを  
チ○ポの根本につける。



「勃起してないときでも大きさに合わせて  
固定されるようになってるから  
魔法を解除できるのは私だけよ」  
「えっ…え…ええ！??」

「じゃあドスケベなあんたにきつつ～い  
お仕置きをしてあげる  
お仕置きはここからが本番なのよ！」

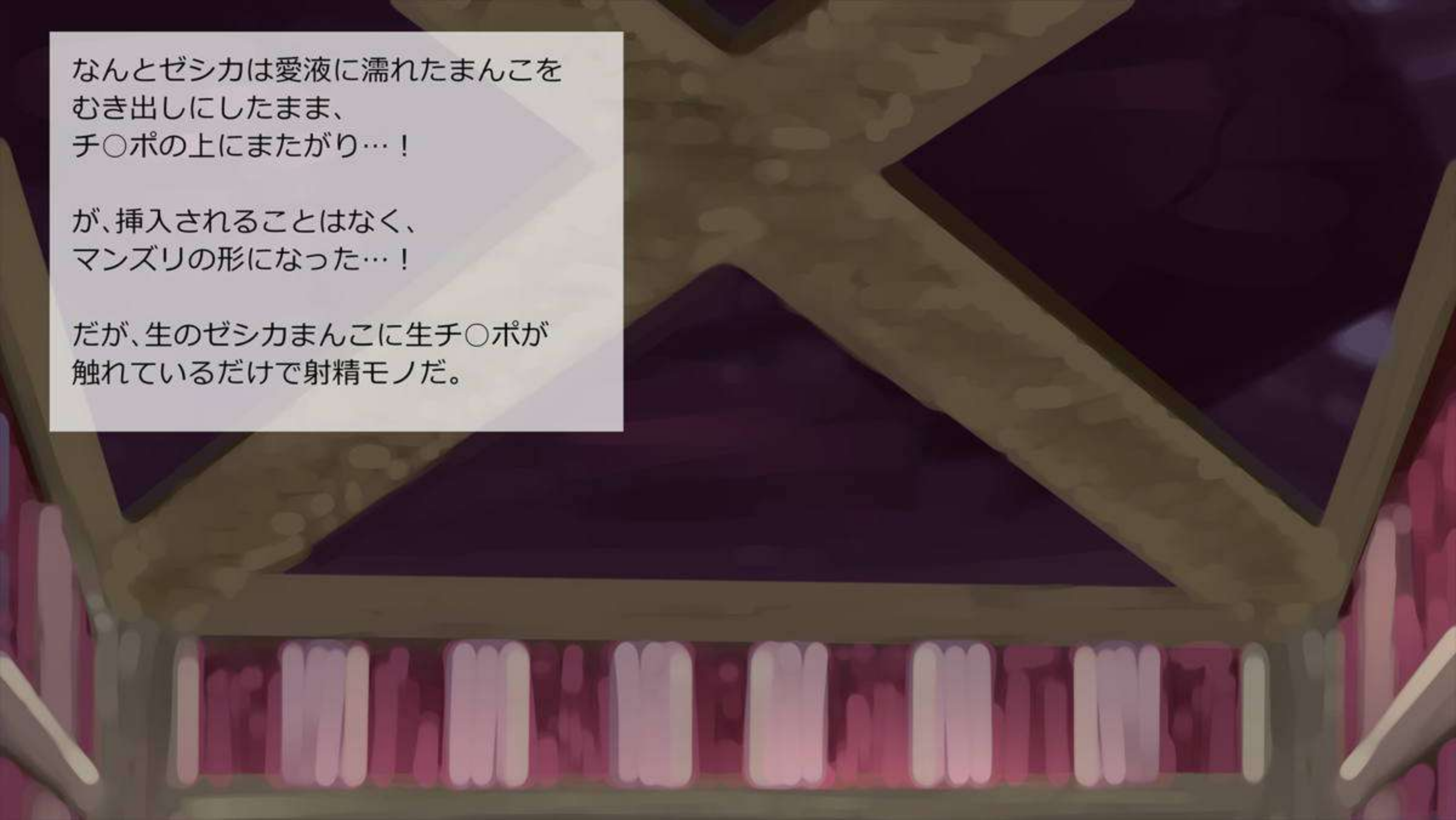


A 3D-rendered room with a bed in the foreground, a door on the right, and walls with vertical red and white stripes. The room is lit with a warm, reddish glow.

そう言うとゼシカは服を脱ぎ始めた。  
一枚脱いだ姿は踊り子の服である。

だがおっばいは露出され、  
あろうことか局部も布地が無い。

「ぜっ…ゼシカ様…！一体！？」  
俺はチ○ポギンギンでゼシカに問う。  
「あんたの大好きなハッスルダンスよ」



なんとゼシカは愛液に濡れたまんこを  
むき出しにしたまま、  
チ○ポの上にまたがり…！

が、挿入されることはなく、  
マンズリの形になった…！

だが、生のゼシカまんこに生チ○ポが  
触れているだけで射精モノだ。

「ゼシカ様これはご褒美では!?!」  
「ご褒美? 違うわよ! まあすぐに理解るって!  
あっそ~れ! ハッスルハッスル!」

おお…リアルハッスルダンス…!  
だがマンズリしているので…

「はっ♡ほっ♡はっ♡あんっ♡私が気持ちよくっ…♡」  
「あ…あああ…ゼシカ様…!」

いや、無理だ。こんなのもう。興奮しすぎる。  
射精しよう。ただでさえまたゼシカと  
エッチなことが出来る興奮で限界なんだ。

生のゼシカのおまんこに  
精液をぶっかけよう。あわよくば膈内に  
何匹か精子が入り込んで妊娠するかも…!  
と思い、即射精しようとしたその時。

根本がギチッ、と強く締め、俺が射精していた尿道、精管が完全に締め付けられてしまった。

「ううっ! ???」

「そういうこと…んっ♡

あんたもう射精出来ないのよ… 二度とね」

「えっ…! ?ええっ!! ??」

「んひいっ♡あ…♡あ…♡」

ゼシカは軽く絶頂している。

俺はまた射精しようとする。

ゼシカはクリトリスを俺のチ○ポに強く押し付けてオナニーするようにグイグイといやらしく動かしている。

「あっそ〜れ♡ハッスルハッスル〜♪  
んんっ♡あ…♡んっ!♡」

また射精しても…無理。  
「やっぱり射精出来ない！」

ゼシカだけは絶頂している。  
「あふっ…あううん！♡  
あっ♡あ♡あ…♡」

愛液がドロンと漏れ、ペニスに愛液がつたう。  
しかしそんな物凄い状況でも射精だけは出来ない。

「ゼシカ様！はううう！…ぐっ!!!」  
「あぁ♡あっ♡あ～っ！♡huh…っ♡！」

ゼシカが絶頂を繰り返し、  
こちらがどんなに射精しようとしても  
どうしても射精することができなかった。

「あっ！ああ！出したい！射精したいのに！」

「はっ♡あ♡は～♡…あははっ！  
すごい悔しそうね！良いお仕置きでしょ？」

「ああ…なんてことだ…  
オナニー出来ない時も辛かったけど…」

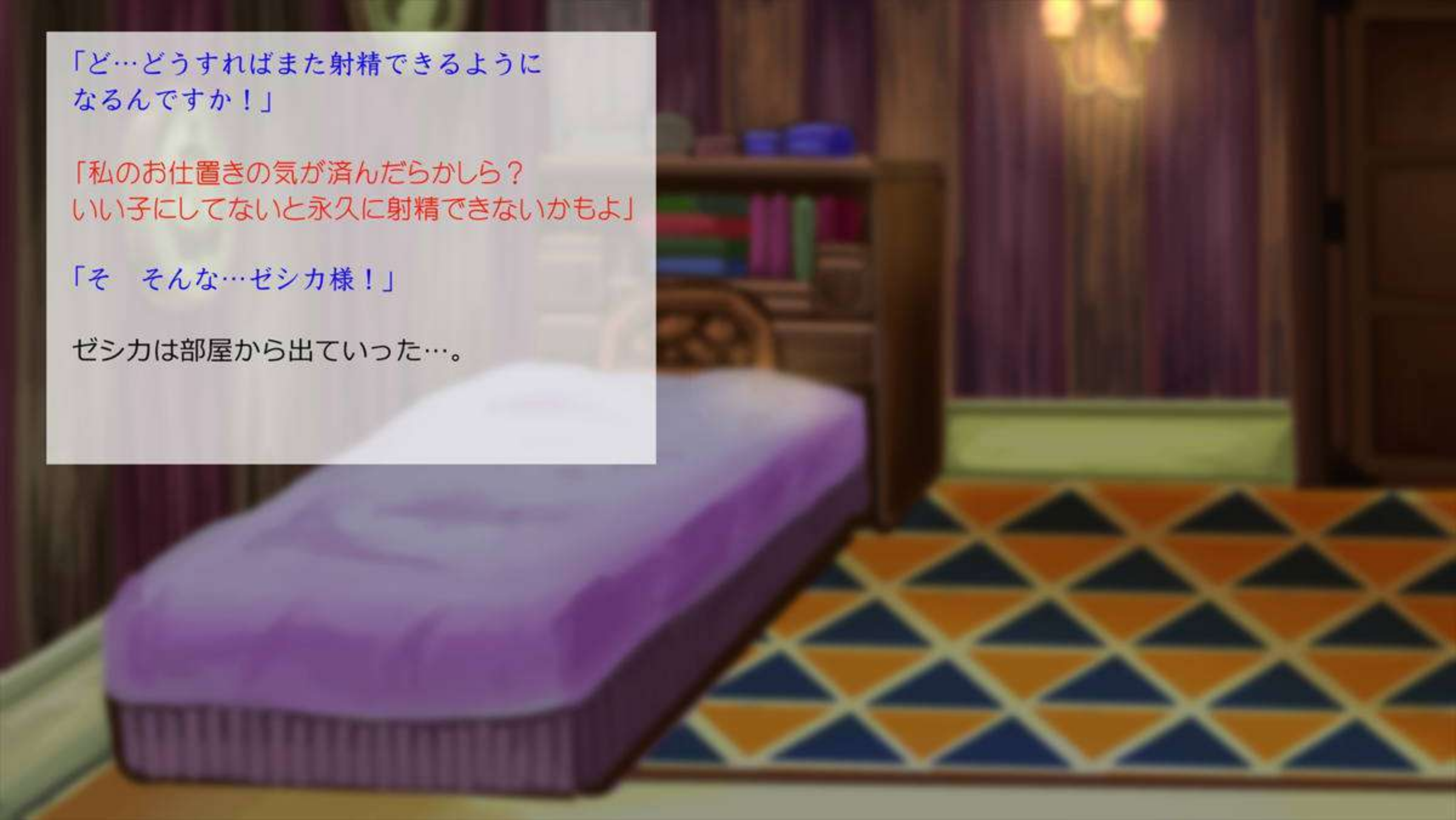
こんなエロエロな状況なのに…  
射精できないなんて…辛いつ！」  
「はうっ♡ああ♡いいでしょ…あっ♡あん…♡」



俺は1回もまるで射精できないまま、  
何回も絶頂したゼシカが俺の上から降りた。

「んん～楽しかったわ どう？  
このお仕置き あんたには  
効果てきめんのようね」

「ゼシカ様…めちゃくちゃ辛いです…！」  
「あ！排尿は出来るから安心して。  
射精だけは絶対にできないようになってるの」



「ど…どうすればまた射精できるようになるんですか！」

「私のお仕置きの気が済んだらかしら？  
いい子にしないと永久に射精できないかもよ」

「そ そんな…ゼシカ様！」

ゼシカは部屋から出ていった…。

それからがまた地獄だった。

それまで、もちろん手でオナニーしても  
射精出来ないので、俺はずっと生殺しの  
地獄を味わっていた。

相変わらず召使いの仕事は激しいまま。

毎晩毎晩…オナニーの出来ない辛さを  
味わっていた…。



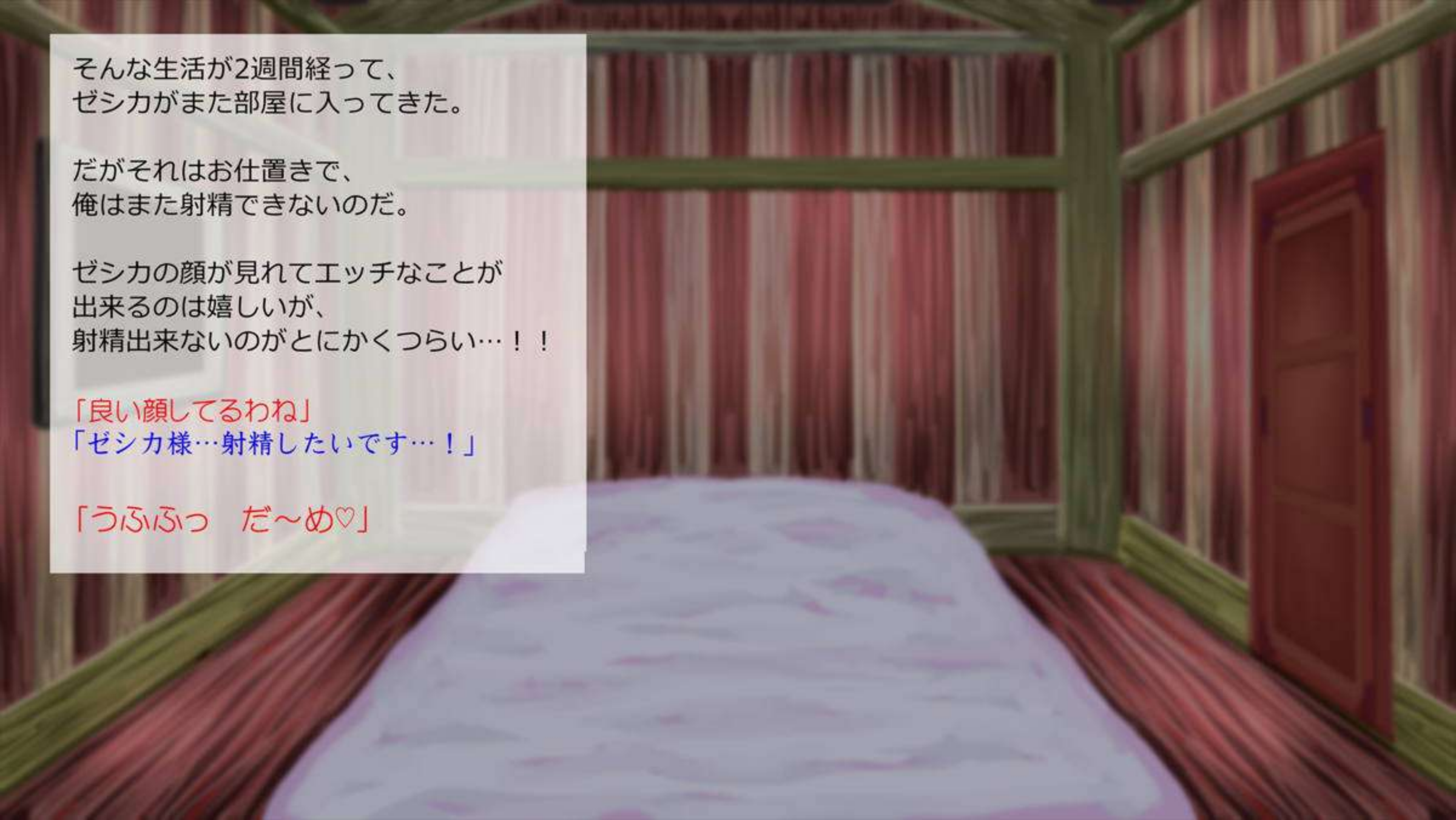
ゼシカはゼシカでオナニーしまくっていた…。

そして効果てきめんのお仕置きで勝ち誇って、  
気分が高揚していた。



ラグサット似の召使いは、  
ゼシカと対照でオナニー出来なくて  
辛い生活が続いた…。



A bedroom scene with a bed in the foreground, a window with red curtains in the background, and a wooden door on the right. The room has a warm, slightly dim lighting.

そんな生活が2週間経って、  
ゼシカがまた部屋に入ってきた。

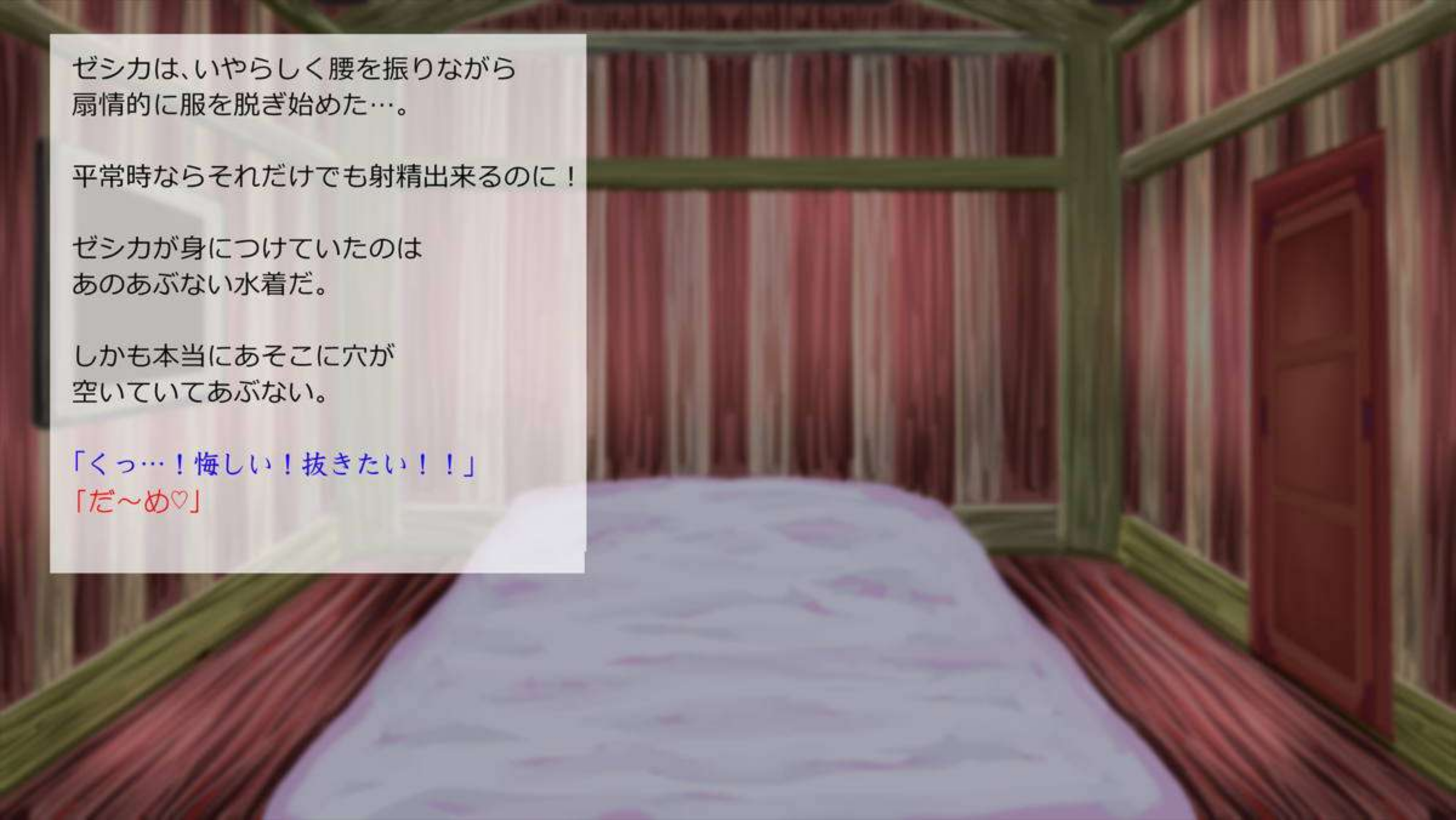
だがそれはお仕置きで、  
俺はまた射精できないのだ。

ゼシカの顔が見れてエッチなことが  
出来るのは嬉しいが、  
射精出来ないのがとにかくつらい…！！

「良い顔してるわね」

「ゼシカ様…射精したいです…！」

「うふふっ だ~め♡」

A bedroom scene with a bed in the foreground, red and white striped curtains in the background, and a wooden door on the right. The room is dimly lit.

ゼシカは、いやらしく腰を振りながら  
扇情的に服を脱ぎ始めた…。

平常時ならそれだけでも射精出来るのに！

ゼシカが身につけていたのは  
あのあぶない水着だ。

しかも本当にあそこに穴が  
空いていてあぶない。

「くっ…！悔しい！抜きたい！！」

「だ～め♡」

「はっ♡あ♡あ♡あんに  
舐められるなんて嫌だけど…  
れるっ…お仕置きのためだから…♡」

「ゼシカ様ああ！パイズリいい！おっぱい柔らかい！  
んぶ！んうっ！むぐ！ゼシカ様のお尻とまんこお…！」

やはりご褒美じゃないかと思ったのもつかの間、ゼシカは  
足を締め付けて…天国のような地獄のような。

「顔に感じるゼシカ様のお尻！呼吸よりも舐めてたいまんこっ！  
爆乳でもらえるパイズリっ！あああああ！♡」

「あんに舐められるなんてイヤだけど…♡じゅぽっ♡  
でも気持ちよくてもあんたは射精出来ないのよ…！」



「あああゼシカ様！気持ちいい！  
こんなパイズリクンニっ！出したい！  
出したいです！出したいのに！」

「あああ！私が…あっ…気持ちよくなっちゃって…♡  
出っ…潮…噴いちゃう…♡れろっ…ああ！ああ…ん！♡」

「はあああ！ゼシカ様！限界です！もう限界！  
出させてください！出したい！射精したい！」

「だめよお♡もっと苦しみなさい！あんっ♡べろべろっ…♡  
まだお仕置きが足りないわ！はううん♡あああ！  
♡潮っ♡出るっ…ああああ！」

「はぁぁぁぁぁ♡あぁ♡きもっ…ちいっ…!♡」  
「あぁあ!ゼシカ様!ゼシカ様の潮!あぁあ!  
俺の顔がゼシカ様の液体まみれで…!  
気持ちいいいいい!」

ゼシカは潮を吹くが、こちらは全く射精できない。  
「れろれろっ♡んあぁあ♡んふふう♡きもちいいでしょお…♡  
びくびくしてつらそう…♡」

「はうっ♡はあ!はあ♡れろお♡んううもっとお…  
もっと気持ちよく…なるのよ…」

「最高なのに!地獄!温かい!温かくて甘い!  
最高に気持ちいいです!でも出せないっ!あぁ!」

ゼシカのパイズリと足締め付けはまだまだ続く。

「ああ♡ん♡いくっ♡あ♡ペろっ!♡  
気持ちいい♡ああ~!♡」

「あああ…ゼシカ様…あ…辛いです…苦しい…  
でも…まんこ舐められて幸せ…でもつらい…」

「はっ♡はあ♡れろお…どお? 苦しい?  
あああ…♡いっちゃう…!」

「はあ…♡びくんびくんして本当につらそう…!!  
じゅぽっ♡じゅぽっ♡」

「ああ…おっぱい柔らかい…  
これだけでも射精できるのに!」

俺は、その最高に幸せで最高に辛い地獄を  
そのまま何時間も味わった…。

その後も…ゼシカによる俺の射精管理…  
というか、  
完全に射精強制禁止生活は  
ずっと続いていた…。

ゼシカとセックスに至らない  
エロエロな日々、しかし地獄。

自分の意志と反するその悶絶の日々に  
俺は限界をとうに越していた…。



「はああ…ゼシカ様…もう…まんこ最高です…  
足コキされているだけで…んぶっ」

「…ほら…射精できない苦しみを味わいなさい」

「あああ♡ゼシカ様！まんこ美味すぎて射精…  
もっと射精したくなるのに！！じゅるっ！」

「足コキも好きよねえ？気持ちいい？  
ねえ？もっとおまんこ舐めなさいよお♡

ほらあ♡もっと舐めて私を気持ちよくしてえ♡  
私の気持ちいい顔見るの好きでしょ♡ああ…  
また漏れちゃいそう…出ちゃうよお…♡」

「だぁ〜め♡舐めさせてあげて足コキも  
してあげてるんだから我慢しなさい♡」

俺はゼシカの膣のつぶつぶ、ヌルヌル、  
隆起、やわらかさ、天井部分などの良さを舌で感じて  
その気持ちよさで射精したいのに！

「はぁぁぁ…♡あ…おまんこ…  
気持ちいい…あぁっ…！あ…！  
出るっ…潮…噴いちゃう…♡あ…！」

「ああ！出したい！出させて  
ください！僕も！あああ！」

「んっ♡あ…すごっ…！気持ち良っ…♡  
あ…♡出ちゃうっ！♡」  
「うぁっ…ああああ！」

「あああ！ゼシカ様！ゼシカ様ああ！  
あったかい！あああ！」

「ひあうっ♡！あああああ♡  
気持ち良いっ…！♡ああ♡」

「おおおお！ゼシカ様のスケベ潮おおおお！  
あったかいですうう！じゅるじゅるっ！」

「ああっ♡はあ♡おちんちん  
ビクビクしてるうう♡」



「はあはあ…ふぶん 気持ちいいのね…  
もっと気持ちよくなる…？」

「はあ…はあ…ゼシカ様…  
もう無理です…本当に…出したいんです…！  
限界なんてもうとっくに過ぎていて…！」

げんげん！

げんげん！

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅ

ぬちっ♡

じゅるっ！  
じゅるっ♡♡♡

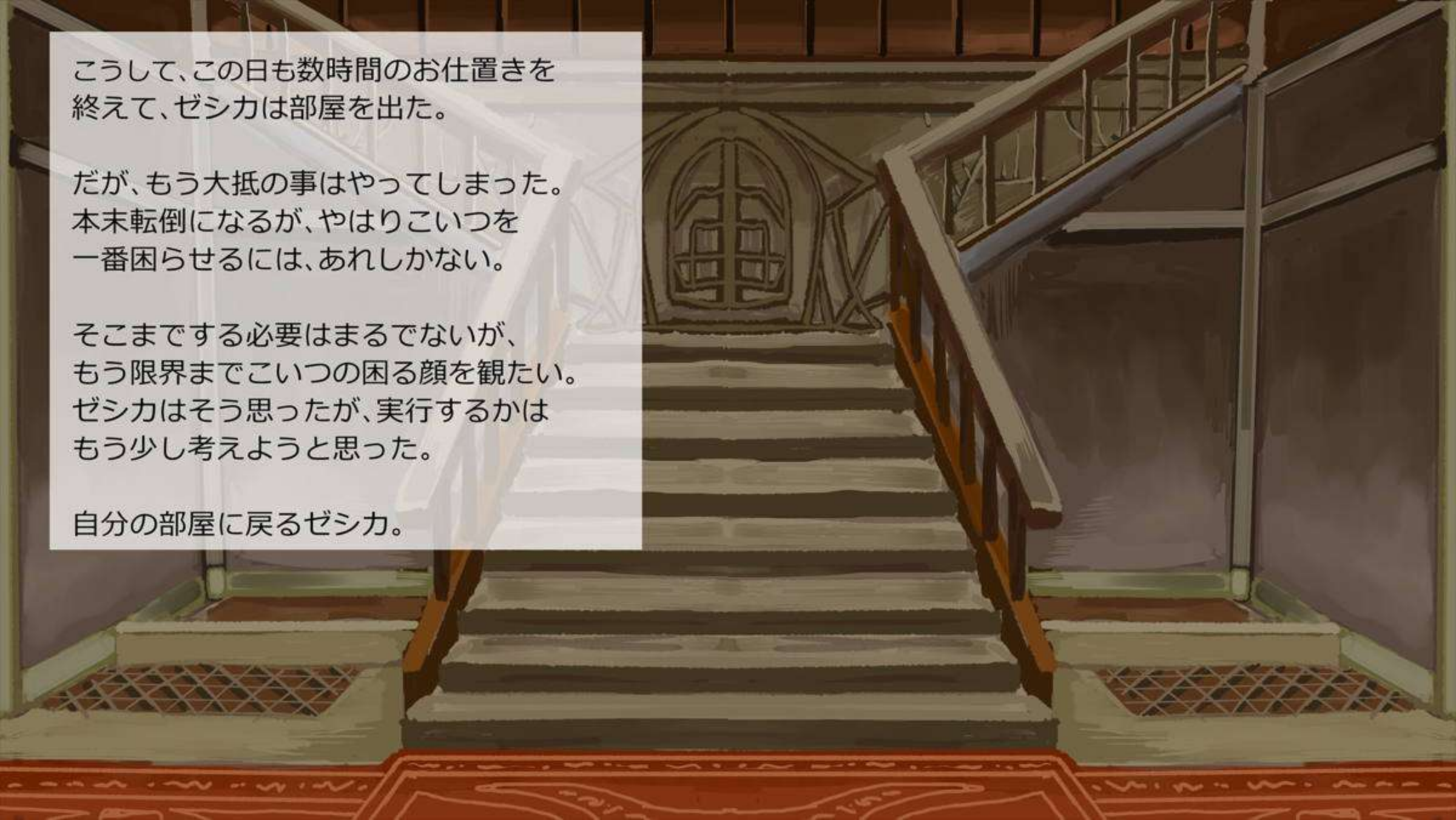
じゅるっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡

はあ♡  
はあ♡

「だったら尚さら やめない…♡」  
「ああ…ゼシカ様あああ！」

地獄…やはり天国だけど地獄だ…





こうして、この日も数時間のお仕置きを終えて、ゼシカは部屋を出た。

だが、もう大抵の事はやってしまった。本末転倒になるが、やはりこいつを一番困らせるには、あれしかない。

そこまでする必要はまるでないが、もう限界までこいつの困る顔を観たい。ゼシカはそう思ったが、実行するかはもう少し考えようと思った。

自分の部屋に戻るゼシカ。

数日後。

夜、ゼシカは部屋で考えていた…。

(あれから毎日お仕置きをしに行って  
あいつの苦しそうな表情を見た。

もちろん自分も何度も絶頂したが、  
射精できない生殺しは本当につらそう。

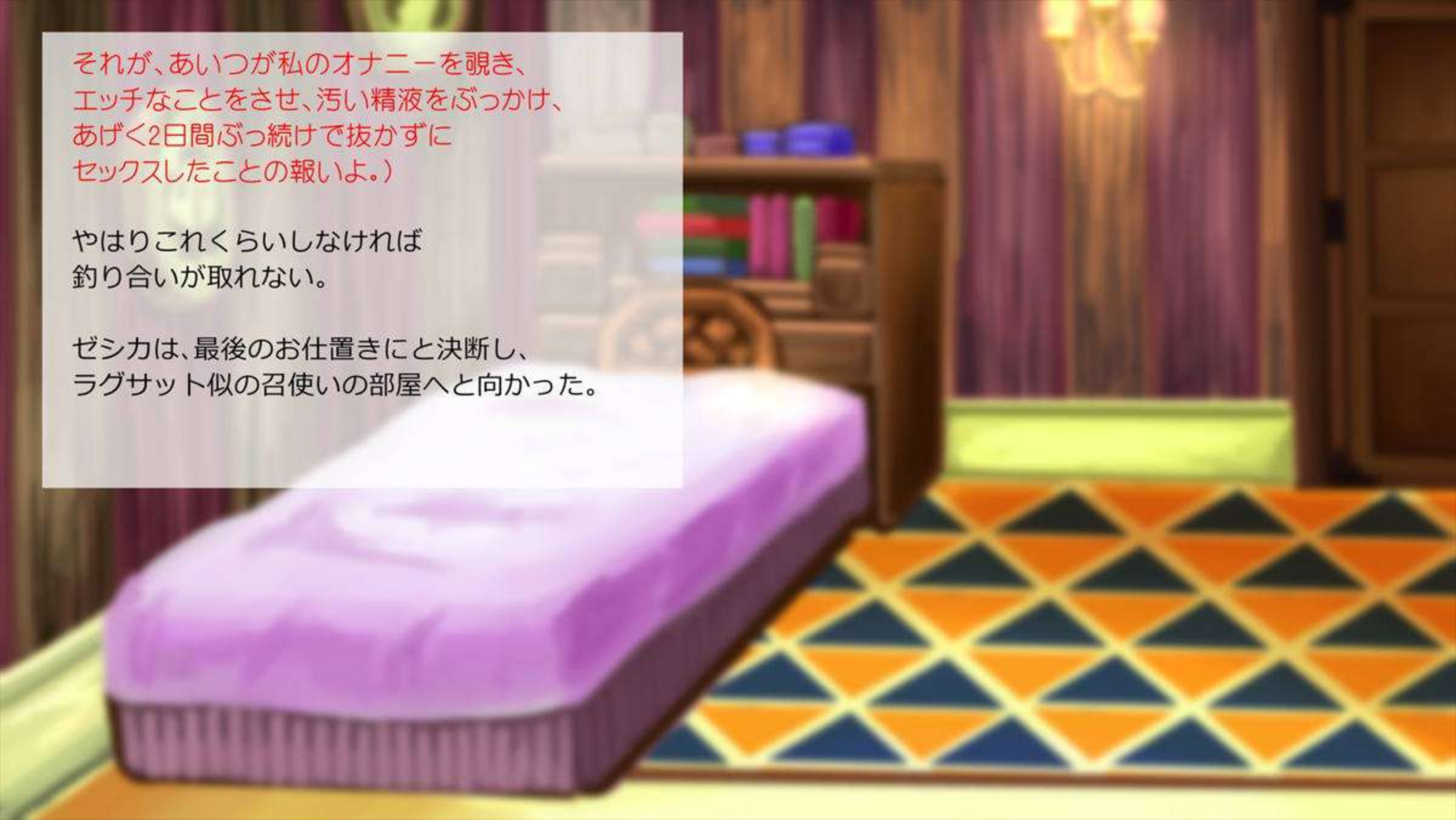
もういいかな、もう許してあげようかな。  
でも最後に、一番苦しませて終わらせてあげよう。

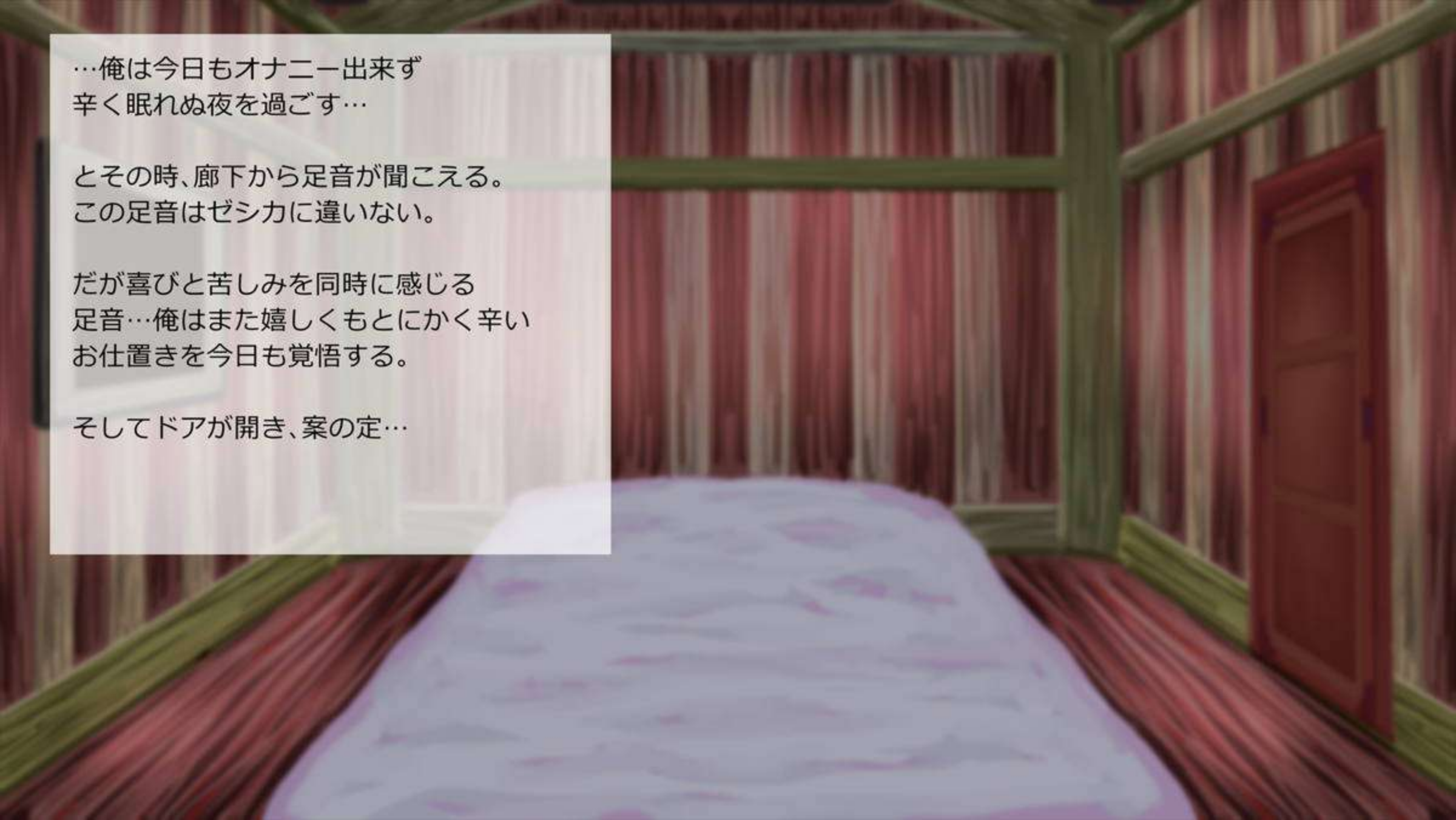


それが、あいつが私のオナニーを覗き、  
エッチなことをさせ、汚い精液をぶっかけ、  
あげく2日間ぶっ続けで抜かずに  
セックスしたことの報いよ。)

やはりこれくらいしなければ  
釣り合いが取れない。

ゼシカは、最後のお仕置きにと決断し、  
ラグサット似の召使いの部屋へと向かった。



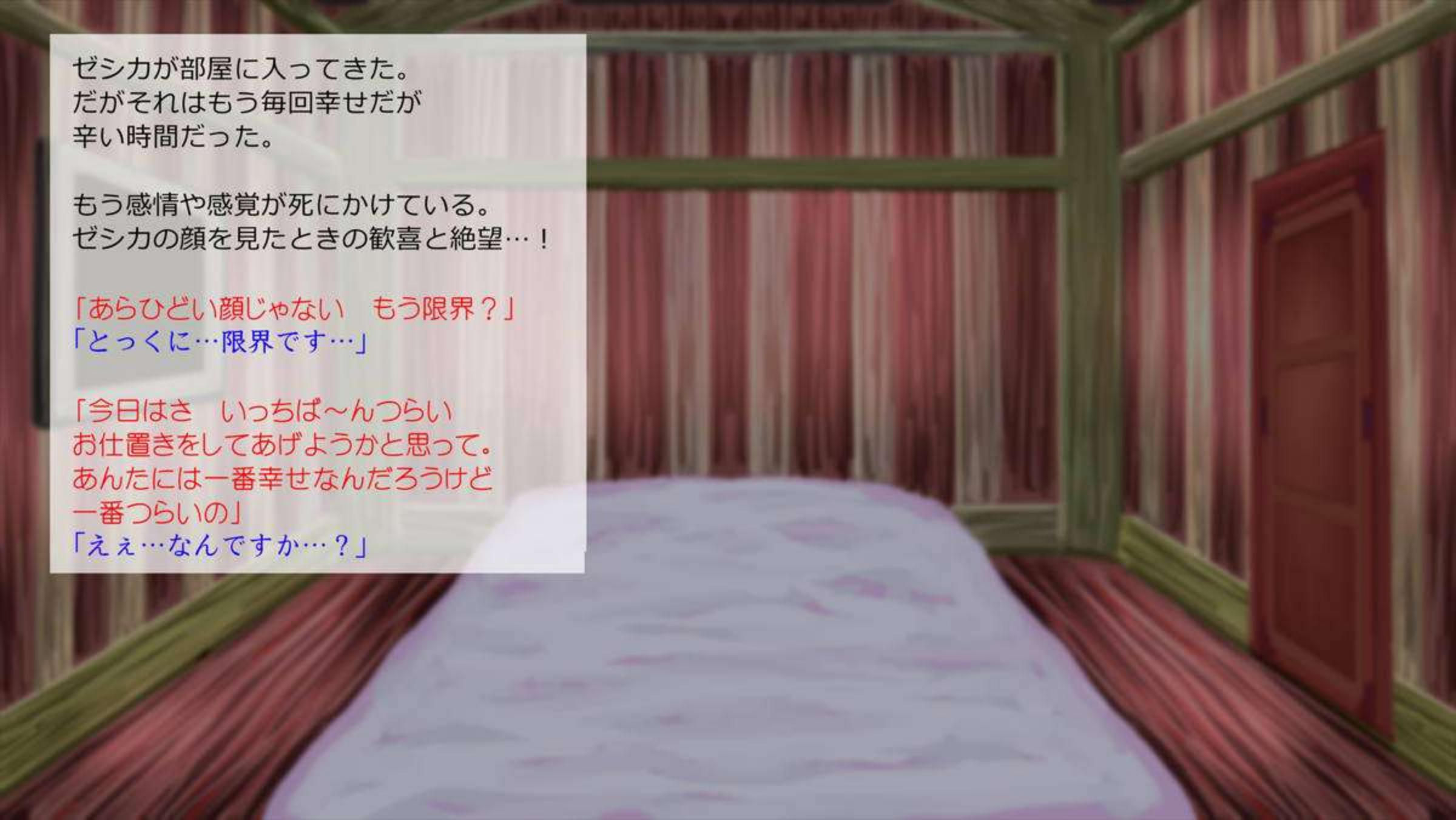


…俺は今日もオナニー出来ず  
辛く眠れぬ夜を過ごす…

とその時、廊下から足音が聞こえる。  
この足音はゼシカに違いない。

だが喜びと苦しみを同時に感じる  
足音…俺はまた嬉しくもとにかく辛い  
お仕置きを今日も覚悟する。

そしてドアが開き、案の定…



ゼシカが部屋に入ってきた。  
だがそれはもう毎回幸せだが  
辛い時間だった。

もう感情や感覚が死にかけている。  
ゼシカの顔を見たときの歓喜と絶望…！

「あらひどい顔じゃない もう限界？」  
「とっくに…限界です…」

「今日はさ いっちは～んつらい  
お仕置きをしてあげようかと思って。  
あんたには一番幸せなんだろうけど  
一番つらいの」  
「ええ…なんですか…？」

ゼシカは服を脱ぐ。

相変わらずの爆乳が露出される。  
スカートの下は何も履いていない！  
あの見慣れた  
戦闘服の下の裸が眼前にあり興奮する…！

俺の上にまたがったゼシカを見て  
また素股か、顔面騎乗か…  
と思ったが、なんとそのままペニスに向かい  
腰を下ろしてきた。

「え…ちょ…ゼシカ様！???」

「これがここまで頑張ったから  
一番つらいお仕置き」

「ええっ…ああ…！はううう  
ああああ！??」  
「ああああ…あああ…んっ!!!♡」

実に数カ月ぶりのゼシカの膣内の暖かさ。  
事態を一瞬飲み込めなかった。

まさかまたセックスできるとは！  
しかも…生で!??

シブッ♡

「ぜっ…ゼシカ様!? な…生…!」

「そうよ嬉しい? でもあんた  
射精できないのよ 絶対に!  
生でやってるのに! 射精出来ないのよ!」

ぬち♡  
ぬち♡

「あああ…！気持ちいいですゼシカ様…!  
めちゃくちゃ…ああ…まさか生で  
出来るなんて…っ!!!」

生でゼシカの膣と自分のチ○ポが触れ合う感動。  
愛液も、子宮口も全て直だ。熱い。熱さもダイレクトだ。

「そうよお思う存分楽しみなさい  
その分お仕置きできるんだから…あんっ♡」

「ああ！出したい！  
ゼシカ様に  
生で出したい…！」

「いいわよお！出さない…  
出せるものならね…！！」

ピストンが速くなる。  
ゼシカの巨乳が揺れる。

「はあっ！出ます！出ますゼシカ様！  
出ます！あっ！あ！あーっ！！」  
「はああんっ♡あっ♡いいわよお♡ああっ♡」

ふるん♡

ふるん♡

キゅん♡

キゅん♡  
キゅん♡



「く…！ああ…くそっ…  
出せない…出せないっ…！！」  
「ふふ…おし…おきよ…  
つらいでしょ…ふふふふ…♡あんっ…♡」

こんなに気持ちよく、生中出しなんて  
もっと気持ちいいだろうに、  
俺は射精することができない、  
だがゼシカは数回絶頂していた。

「うふふ…あうっ♡あはあ…♡」

生なのに絶対射精できない  
最大級のおしおき…

「はあっ！あああ…くっ…出せない…！」

だがそれは、吐精による体力の急激な  
消耗もない事を意味していた…。



3時間後。

「ちよっ…ちよ…もおっ…！こんな…激しすぎるって…！  
こんな…ひやあああああ…！♡」

「ゼシカ様っ！ゼシカ様！生のまんこ  
気持ちよすぎるんですよ！  
こんなのやめられませんよ！」

「ちよっ…すとっ…ストップ…！ちよ…  
ああん…！♡だめっ…こんな…！ああああ…！」

「ゼシカ様…もうやめませんよ！射精できないなら  
やめる理由もないんですからね！！」

「だめっ…！あ…！ああああ！」  
衰えないのを良いことに、俺はゼシカを絶頂させまくった。  
前回どころではない、あれ以上の快感を与えて…そして…

12時間後。

「ひっ…はひっ…も…もう駄目っ…

こんな…連続でいったことなんて…あの時よりも…」

あの時はそれこそ射精によるインターバルがあったが、  
今回は射精なしのノンストップなのだ。

今度はゼシカが地獄。連続絶頂地獄を味わっていた。

「じゃあこの魔法のゴムリングを  
ほどいてくださいよ！  
射精すれば終わりますから！」

「そ…それは一番だめええ…そんなことしたら…  
そんなの一番ダメええ…！あうっ！♡」

「じゃあやめませんよ！このままイかせつづけますよ！」  
「あんっ♡あああ！はううああああ！♡」

24時間後。

「あう…あ…あ…！」

もうゼシカは意識も絶えだえだった。  
絶頂しすぎておかしくなっている。

こちらも体力の限界だが、ゼシカから  
言葉を引き出すまでやめる訳にはいかない。  
まんこは白濁した本気汁で濁っている。

「はやく！はやく解いて下さいゼシカ様！」

「だめっ…それは…それはあ…あんっ♡  
あ…気持ちいい…！！でも…

どうすればいいのおお…！！あふうん♡」

「ゼシカ様！言うまで  
やめませんかからね！本気ですよ！」

「あああ…イクっ…！  
またイクううっ♡」

じゃあ♡♡

たれん

ドチュッ！

にゃん♡♡

じゃあ♡♡

じゃあ♡♡

じゃあ♡♡

48時間後。

「ゼシカ様！もういいでしょう…  
もう魔法を解いて下さい」

「あんっ…はうっ…あう…解いたら…  
はあ…あんた…絶対中に出すでしょ…はあ…！」

「いえ…僕は…セックスを  
終わらせるだけです！…はあっ」

「あうっ♡あ♡なかに…中に出さないって…  
約束できる？はあ♡」

「それは…！それは保証できません！  
…はあっはあっでも大丈夫です！

僕みたいな召使いの精子で  
ゼシカ様は妊娠しませんから！」

「なによそれ…あんっんうっ♡  
中に出すなら駄目よお…！  
絶対に魔法は解けないわ！…ああああっ♡」

ドズッ！

ドズッ！

ギョポッ！

ギョポッ！

ギョポッ！

あひ♡  
あ♡

あひ♡

ブルン♡

ブルン♡

72時間後…。

本気汁は更に白濁する。

もう二人共完全に限界、ゼシカは絶頂しすぎて、  
疲れすぎて、気持ちよすぎて…。

そしてついに…

「ゼシカ様！お願いします！  
出させて下さい！妊娠しませんから！大丈夫です！」

「ふわあああ…だい…大丈夫なのお…？」

「大丈夫ですっ！召使いの精子だから  
大丈夫です！ご主人様は妊娠しません！」

あ♡  
あ♡あ♡♡♡  
きもちいい♡  
あ♡あ♡♡♡

「あああっ！ああ！気持ち良いつ！  
ああああああ！♡  
あっ…！あ…！あああああ…！！！！」



「はぁあぁううあっ！あぁあぁ！出してっ…  
出して…終わらせてえ…！駄目けどお…！  
中でも良いから…あぁあぁ…！」

ついに、ゼシカが魔法を解いた。

「今…解除したからあぁあぁあ…！  
もうこれで終わりにいいい…！あぁあぁ！」

「ぜ…ゼシカ様…！ゼシカ様っ！！  
ゼシカ様っ！あっ！」

今なら射精できる感触がある！  
射精できる！

「いいんですね！？いいんですねゼシカ様！  
出しますよ！ゼシカ様の膈内に  
精子出しちゃいますよ！！！」

魔法  
解くから♡  
♡

あぁあぁ♡

いいからあぁ♡

ドズッ！

ドチュッ！

ドッ！

ドチュッ！

ジッポッ！

ジッポッ！

ゼッ！  
ハッ！



「出します！出しますよ！終わらせてますよ！  
ゼシカ様の中に！出しますよ！」

「ああああ♡早く出してえええ♡  
駄目だけど出してえ！  
はやく終わらせてえええ♡」

「ゼシカ様！出します！中に！溜まりまくった  
精液出しますよ！！今！出しますよ！」

「駄目っ！駄目ええ！駄目だけど！出して出してえ！  
精液っ…あっ！あああああああああ！♡」

「駄目だけど出してっ♡  
出してっ♡♡♡♡♡

「あああ♡♡♡♡♡

「ドチュッ！ドチュッ！  
ドチュッ！ドチュッ！  
ドチュッ！ドチュッ！」

「ビクッ！ビクッ！  
ビクッ！ビクッ！」

「フルッ！」



「おおおおおっふあああああああっ！」

「あああああああっ！ひゃあああああ  
あああっ！！あああああ！」

「ゼシカ様っ！ああああああ！ゼシカ様！  
気持ちいいっ！あああああああ！」

「あああっ！すごおおおっ熱っ  
あああああ！あああああ！」

あああ  
あああ

ド  
ホ  
ゴ  
ホ

ド  
ゴ  
ホ

びちっ!!  
びち  
びち

ついに、本物のゼシカに精液を生で注ぎ込んでしまった。  
あのゼシカに、ついに生で。  
想像を絶する快感で、声を上げずにはられない。

「まだ…まだ出るっ…！」

「おおおお…！あああああああ！」 「ひいやああああっ♡ああああ♡こんなっ…

ああああ♡気持ちいいっ♡

あああああ！駄目なのがいいい！」

「ゼシカ様っ！ああああ気持ちいいですううう！

気持ちよすぎるううう！」

「はううううっ！あああああああ！」

尿道が裂けるんじゃないかというほどの勢いで、  
ゼシカの誰にも許していないきれいな子宮に、  
俺の精液が流し込まれる…！

「おふっ！おおおっ…！  
うぐおおお…！  
気持ち良いいい…！」

「ああああ♡こんなああ…♡  
こんなのお…やばすぎるう…♡」

「ゼシカ様…！ああ…全部…  
中に入って…！ああああ♡」

「あつつ♡こんな…精子があああ♡  
いっぱい感じっ…！♡」

最後の一滴まで子宮に放出し切る…！

子宮口が生のペニスに吸い付き、子宮に  
精液を注ぎ込んでいる感覚がたまらなかった。

子宮に精液をダイレクトに出している感覚が  
マジでわかる。そして恐ろしく気持ちいい。

「はあっ！はあ！ああ！あっ！ああ！」

「はあうううっ！あううう！あああああ！」


「あっ！おっ…！おおおお…！あ…ゼシカ様…！」

「ひいううんんんあああっ♡あああああ♡」

射精を終えたあとでも、体に快感が残っていて、  
お互い黙っていることが出来ないほど。

ゼシカの子宮には、満タンになるほど  
間違いなく大量の精液が注がれていた。



A bedroom scene with a bed, a bookshelf, and a patterned rug. The bed has a purple blanket and a white pillow. The bookshelf is filled with books. The rug has a blue and orange diamond pattern. The room has wood-paneled walls and a doorway in the background.

3日にも及ぶセックスが終わった。  
ゼシカは身なりを整えて部屋から出ていく…。

「もう生で出すんじゃないわよ…」

「…も…もう…？」

「おしおきよ…もう許さないわ

あんたにはまだお仕置きが必要みたいだから…」

どういふことだろうか。だが、またゼシカと  
セックスは出来るのだろうか…

「いい？お仕置きだからね  
もう2度とあんな間違いはしないわ…  
中に出した罪は重いわよ…  
本当にもうあんな射精できなくするわよ…」

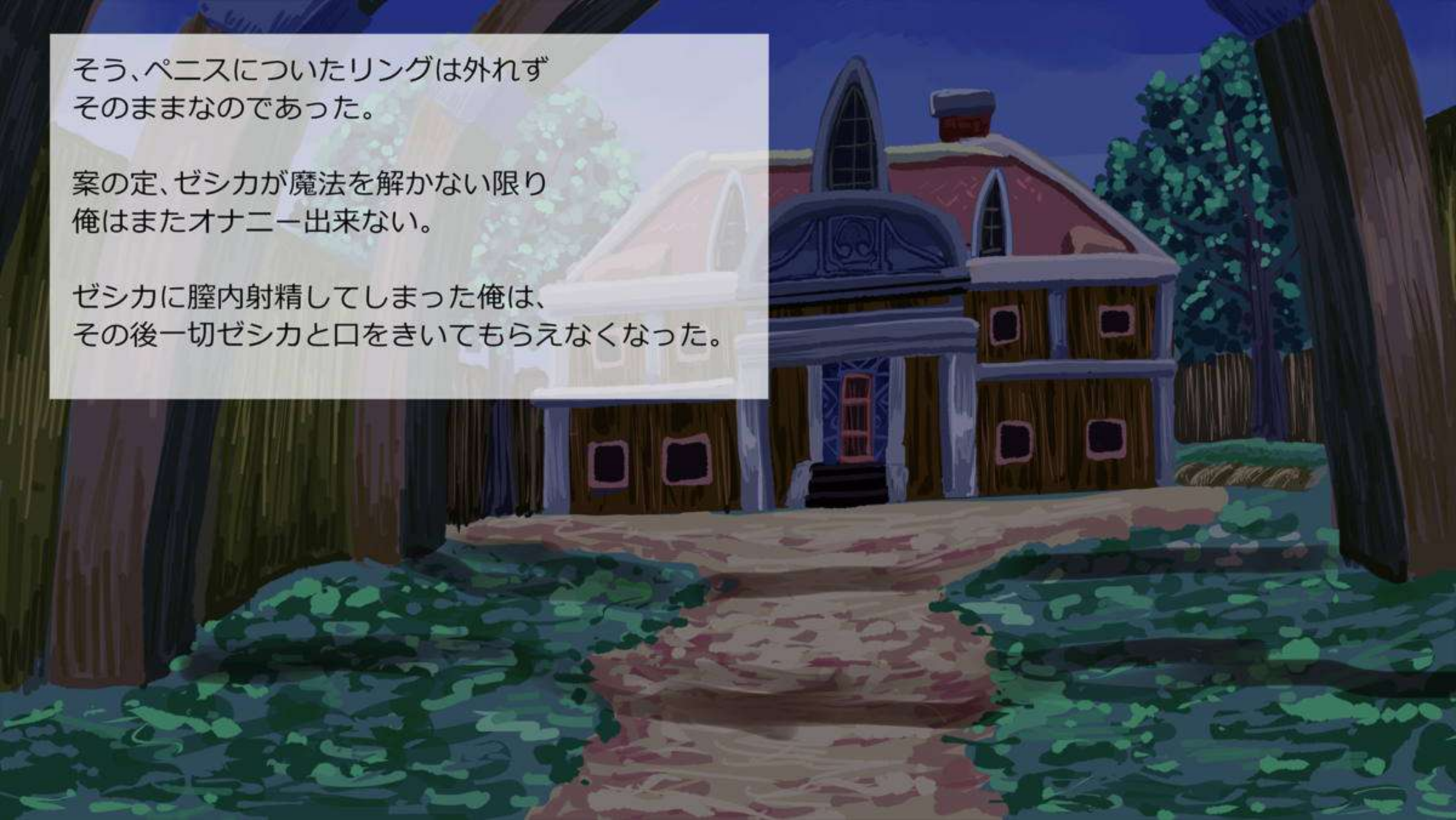
ふと下に目をやると。またゴムリングが  
きつく締まっていた…。



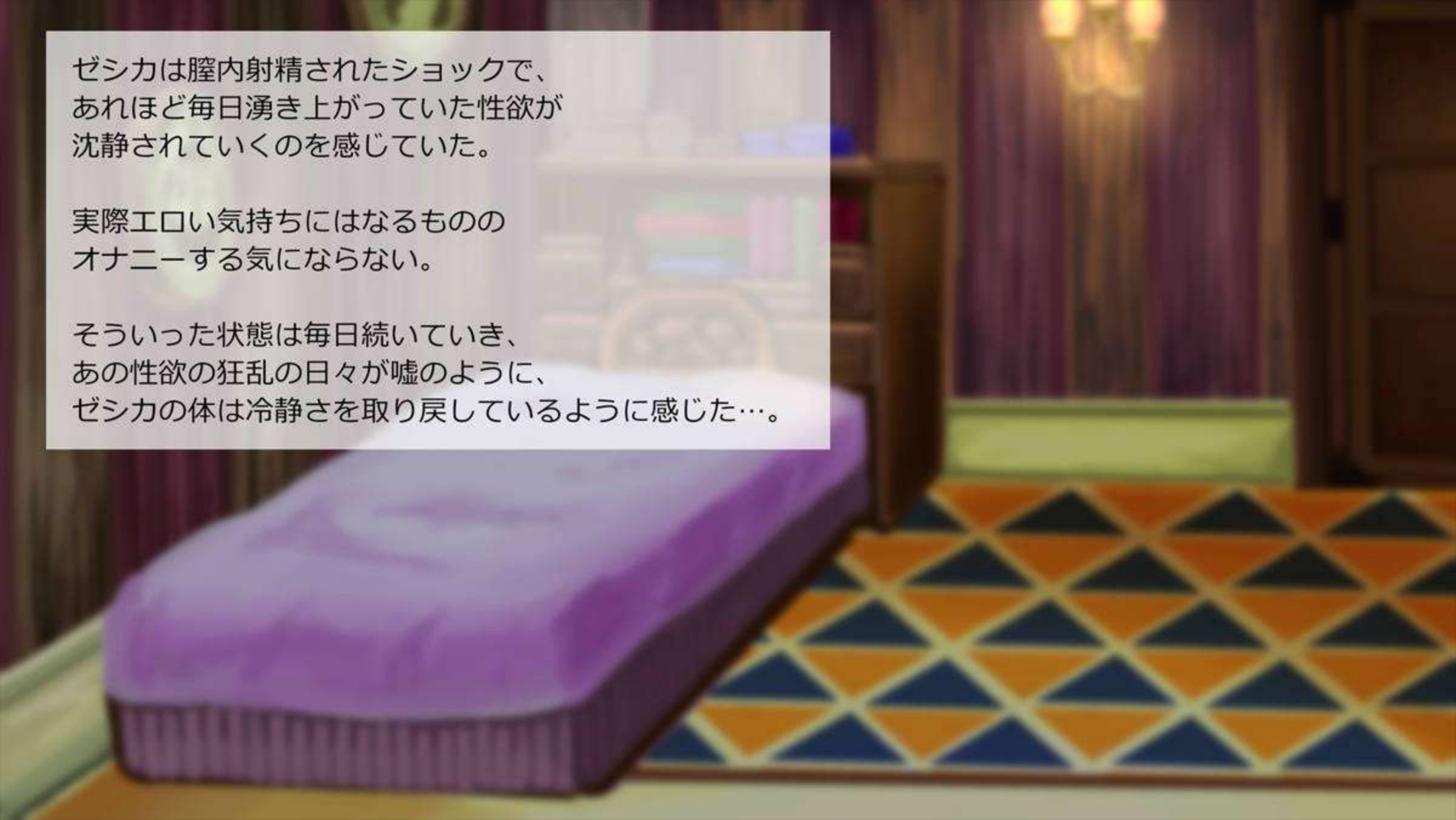
そう、ペニスについてリングは外れず  
そのままなのであった。

案の定、ゼシカが魔法を解かない限り  
俺はまたオナニー出来ない。

ゼシカに膣内射精してしまった俺は、  
その後一切ゼシカと口をきいてもらえなくなった。





A bedroom scene with a bed and a patterned rug. The bed has a purple blanket and a white pillow. The rug has a blue and orange diamond pattern. The room is dimly lit with a lamp in the background.

ゼシカは膣内射精されたショックで、あれほど毎日湧き上がっていた性欲が沈静されていくのを感じていた。

実際エロい気持ちにはなるもののオナニーする気にならない。

そういった状態は毎日続いていき、あの性欲の狂乱の日々が嘘のように、ゼシカの体は冷静さを取り戻しているように感じた…。

だが男に対しては、膣内射精した罰として一切射精できないようにした。

男を家から追い出してこそいないが男の射精を管理した。

男にとっては一番好きな人が近くにいる状況である。

しかも中出しまでした人と同じ屋根の下にいる状況。

そこで一切オナニーできない辛さをゼシカはよく知っていて、男を家から追い出さず射精を管理している。



それから2ヶ月。

ある日ゼシカは吐き気を催し、  
屋敷のかかりつけ医を部屋に呼んだ。

すると……。



「お腹に赤ちゃんが居ますよ」

「えっ!??」

ゼシカは仰天した。  
まさか妊娠しているなんて。

心当たりはあの1回だけだ。  
だが、1回だけで、まさか…。

しかし他は何もない。

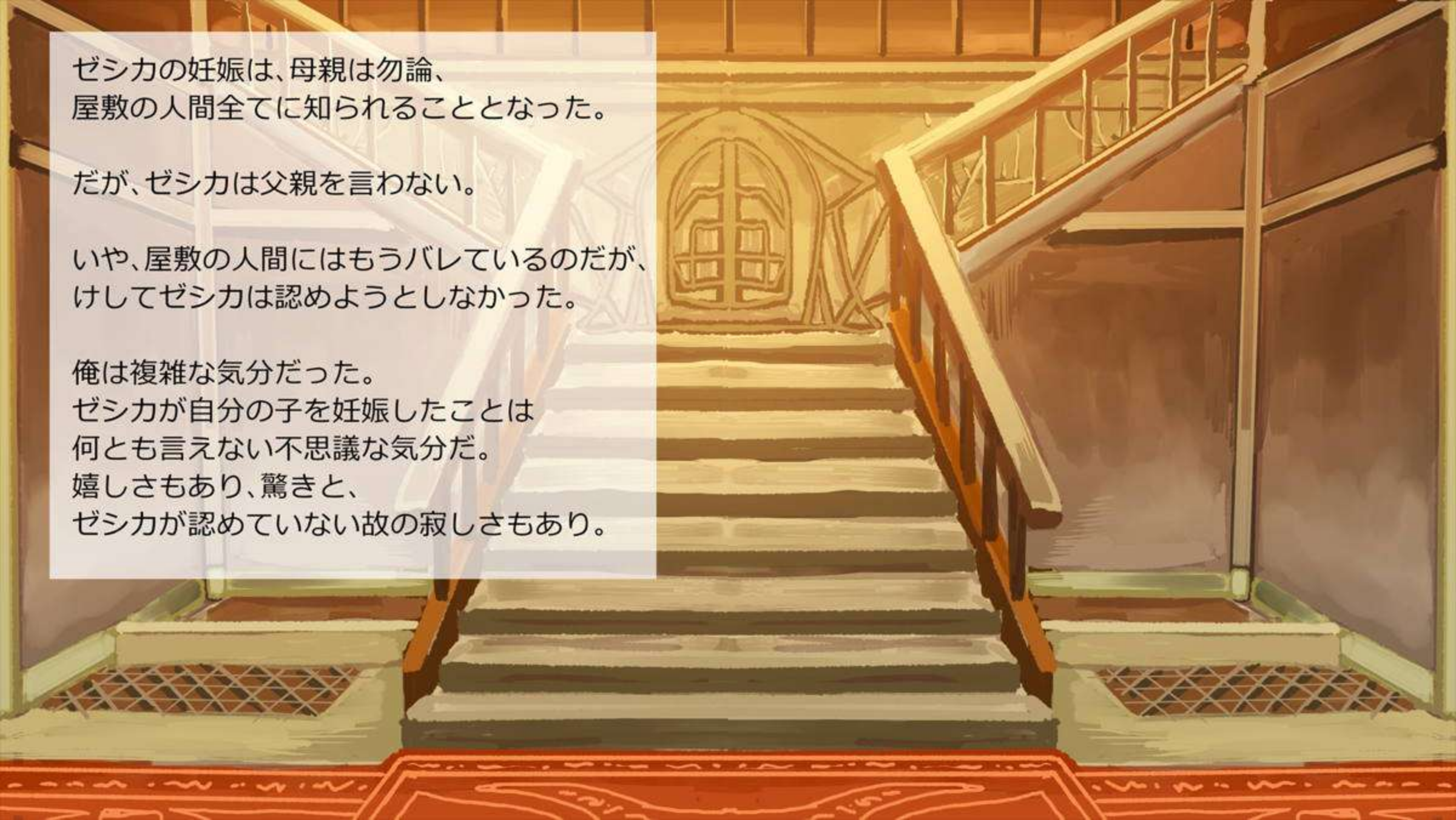


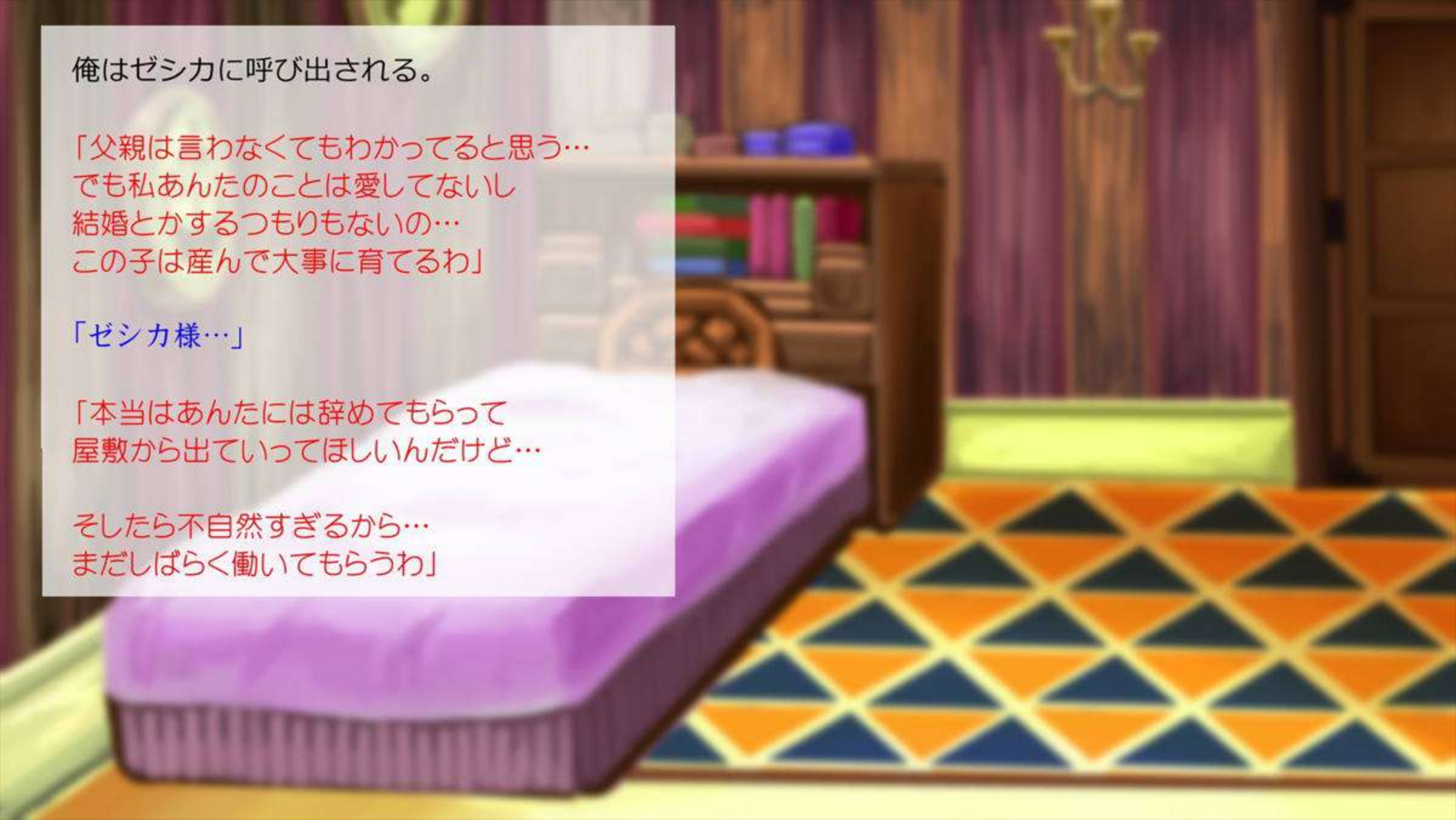
ゼシカの妊娠は、母親は勿論、  
屋敷の人間全てに知られることとなった。

だが、ゼシカは父親を言わない。

いや、屋敷の人間にはもうバレているのだが、  
けしてゼシカは認めようとしなかった。

俺は複雑な気分だった。  
ゼシカが自分の子を妊娠したことは  
何とも言えない不思議な気分だ。  
嬉しさもあり、驚きと、  
ゼシカが認めていない故の寂しさもあり。



The background is a stylized illustration of a bedroom. In the foreground, there is a bed with a purple blanket and a white pillow. Behind the bed is a wooden bookshelf filled with books. To the right, there is a doorway with a green mat. The floor is covered with a patterned rug featuring orange and blue triangles. The overall lighting is warm and soft.


俺はゼシカに呼び出される。

「父親は言わなくてもわかってると思う…  
でも私あんたのことは愛してないし  
結婚とかするつもりもないの…  
この子は産んで大事に育てるわ」

「ゼシカ様…」

「本当はあんたには辞めてもらって  
屋敷から出て行ってほしいんだけど…」


そしたら不自然すぎるから…  
まだしばらく働いてもらうわ」



「あとそれからお仕置きは…  
今はお腹のこと考えても出来ないし  
安定期になっても…  
もうあんたにお仕置きすることはないわ」

「お言葉ですがゼシカ様は  
それでいいんですか」  
「なっ…なにがよ！別にセックスなんか  
しなくても大丈夫よ…」

「本当はムラムラしてるんじゃ」

A bedroom scene with a bed, bookshelf, and patterned rug. The bed has a purple blanket and a white pillow. The bookshelf is filled with books. The rug has a blue and orange diamond pattern. The room is lit with warm, yellow light.

「もう中に出されたあれっきり性欲がないの…  
それもあんたのせいよ」

「……………」

「リングの魔法は当分解いてあげないから  
…早く仕事に戻りなさい」

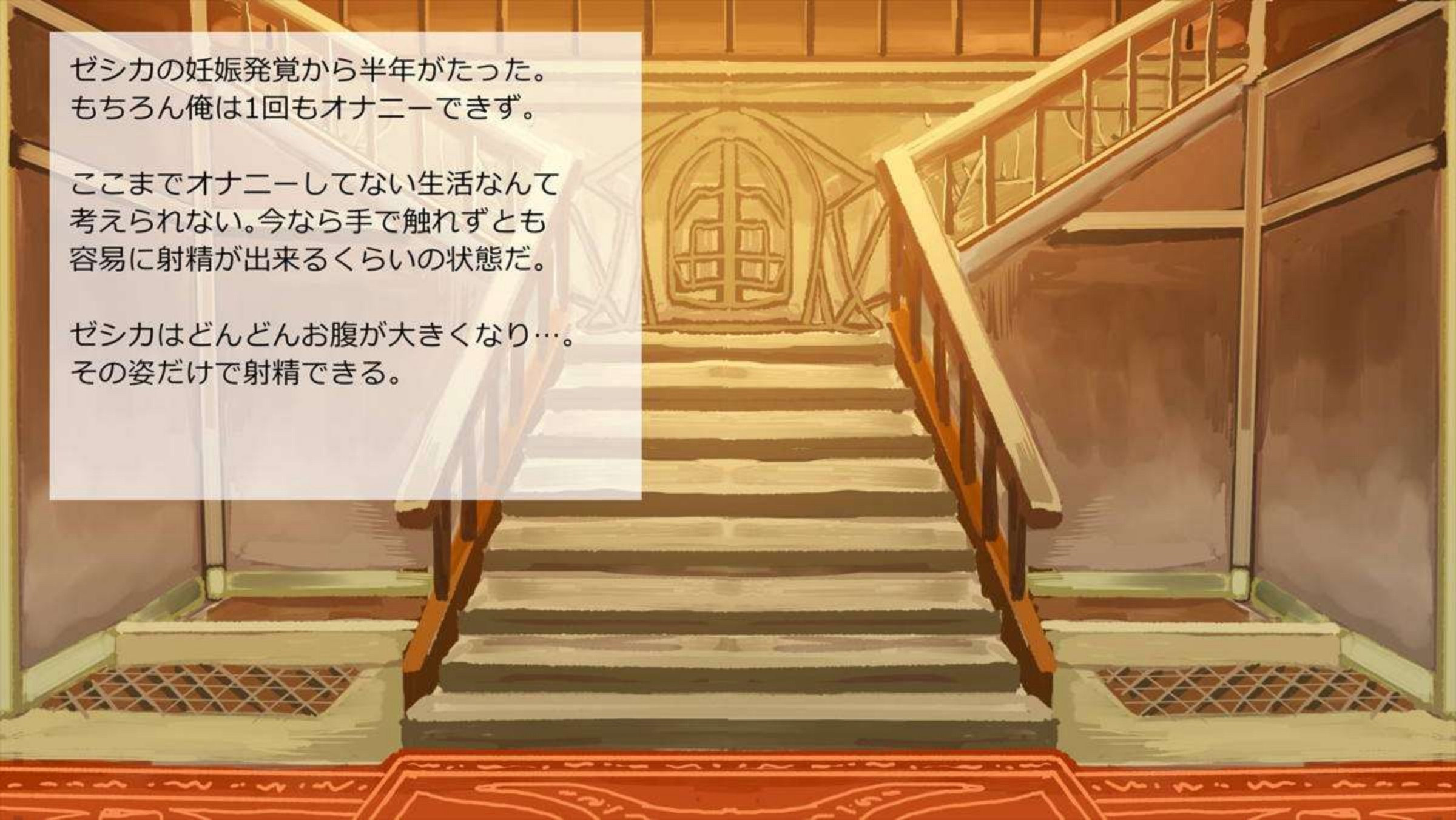
「…はい…ゼシカ様…」



そして俺は、次にオナニーできるのは  
いつなのだろうと絶望しながら…

毎日を過ごしていく…。

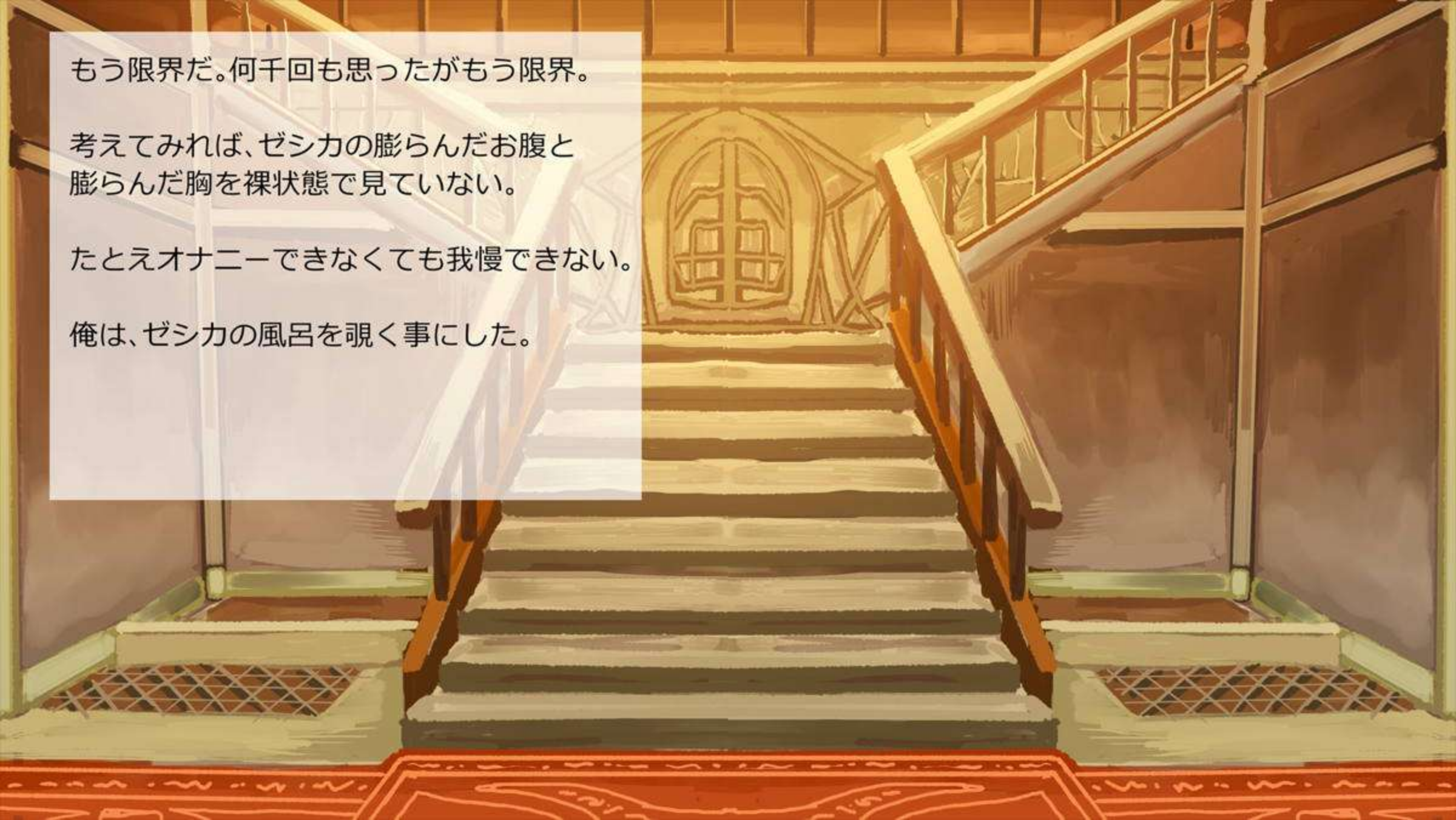




ゼシカの妊娠発覚から半年がたった。  
もちろん俺は1回もオナニーできず。

ここまでオナニーしてない生活なんて  
考えられない。今なら手で触れずとも  
容易に射精が出来るくらいの状態だ。

ゼシカはどんどんお腹が大きくなり…。  
その姿だけで射精できる。



もう限界だ。何千回も思ったがもう限界。

考えてみれば、ゼシカの膨らんだお腹と  
膨らんだ胸を裸状態で見ていない。

たとえオナニーできなくても我慢できない。

俺は、ゼシカの風呂を覗く事にした。

風呂場の鍵を使い、入浴中のゼシカの元へ。

すでに裸は何度も見ているが、  
8ヶ月ぶりの生の体に興奮を隠せない。

俺はすでにフル勃起している。

仕切りはカーテンだけだ。  
湯気が立ち込めている。

俺は気づかれぬよう  
こっそりと隙間から覗く…。





「うっ…!!!」

母乳準備のために2サイズほどサイズがアップしているゼシカの爆乳。

乳首も色素沈着してエロい…。  
そしてお腹の膨らんだ稜線…。

「はあはあ…あのお腹を…俺が膨らませたんだ…」  
そう思うだけでもう射精せずにはいられない。

「ゼシカ…ゼシカ…ゼシカあ…！」

俺は高速で手を動かす。魔法が効いてなければもう射精しているはずの興奮。  
と、その時…




「何見てるのよ」  
「はっ!?!」

「なに覗いてるの」  
「ぜっ…ゼシカ様!」

「何しに来たの オナニー?」  
「そ…それは…!」

「私の体をオカズにするために覗きに来たの?」  
「…は…はい!」  
ゼシカは扉を開放する。

ズン!

A woman with long brown hair is in a shower, looking surprised. She has a glowing red ring on her finger. A hand is visible near the ring. The scene is brightly lit with water spraying.

「ふ～ん…魔法、解いてあげよっか」  
「えっ!？」

「今だけ、魔法解いて  
あげよっかって言ってんの」


「い…いいんですか！」

「いいわよお～そのかわり  
いっぱい出してよねえ～」

「はっはいいいいゼシカ様っ！」  
ゼシカが指を弾くと、リングから光が消えた。

「こ…これは！」

ついに、ついに8ヶ月ぶりに射精できる！  
俺はチ○ポを握りしめ、ゼシカの裸体を  
オカズにオナニーを開始した！



「はあ…はあ…ゼシカ様…  
ゼシカ様…私が…孕ませて…  
膨らませた…お腹っ…！おっぱいっ…！！」

「そうよお～あんたが孕ませたお・な・か…」

「ああああ～たまらんっ  
ゼシカ…出るっ…出るうう！  
8ヶ月ぶりのっ…射っ…！あっ！」

「おっぱいだってさあ～誰かさんに  
孕まされちゃって大きくなっちゃったし…  
一層ナイスボディになっちゃったじゃない  
これから母乳が出るのよねえ～」

「ゼシカああああ！もう出るっ！  
出っ！あああああ！」



ポウッ...

「あああああっ!？」

「あっ!？」

ビク!!!

今にも、まさに射精できる、そう思ったが  
まるで精液は発射されない。

ビクン!!!  
ビクン!!!

ペニスこそ激しく動いているが、  
リングは光ってきつく絞られていた…!

「うふふ…」  
「ゼシカ様…」

「ざあんね〜ん こおんなエッチな体見ても  
オナニー出来ないなんてねえ〜」  
「ひどいですゼシカ様…」

ビーン!

ビーン!

「私が魔法解くわけ無いでしょ!  
お仕置きよお仕置き! 喜びなさいよ」  
「うう…!」

射精の快感はまったくないものの  
激しく動くペニス。

「ほらあ あなたに孕まされてますます  
スケベになったボディよお  
どんどんオナニーしてえ?」  
「ぜ…ゼシカ様…」

俺はまたペニスをこすったが  
やはり射精できるはずもない。

「ゼシカ様…では一体いつになったら  
射精させてくれるんですか！」

「さあ 気が済んだらね まだ気が済まないもの」

「うう…ゼシカ様…このままでは…辛くて辛くて…」

「駄目よ お仕置きってことをもっと自覚しなさい」

俺はやはり射精できず…

またつらい日々を繰り返すのだった…。

そしてゼシカは無事、女兒を出産。

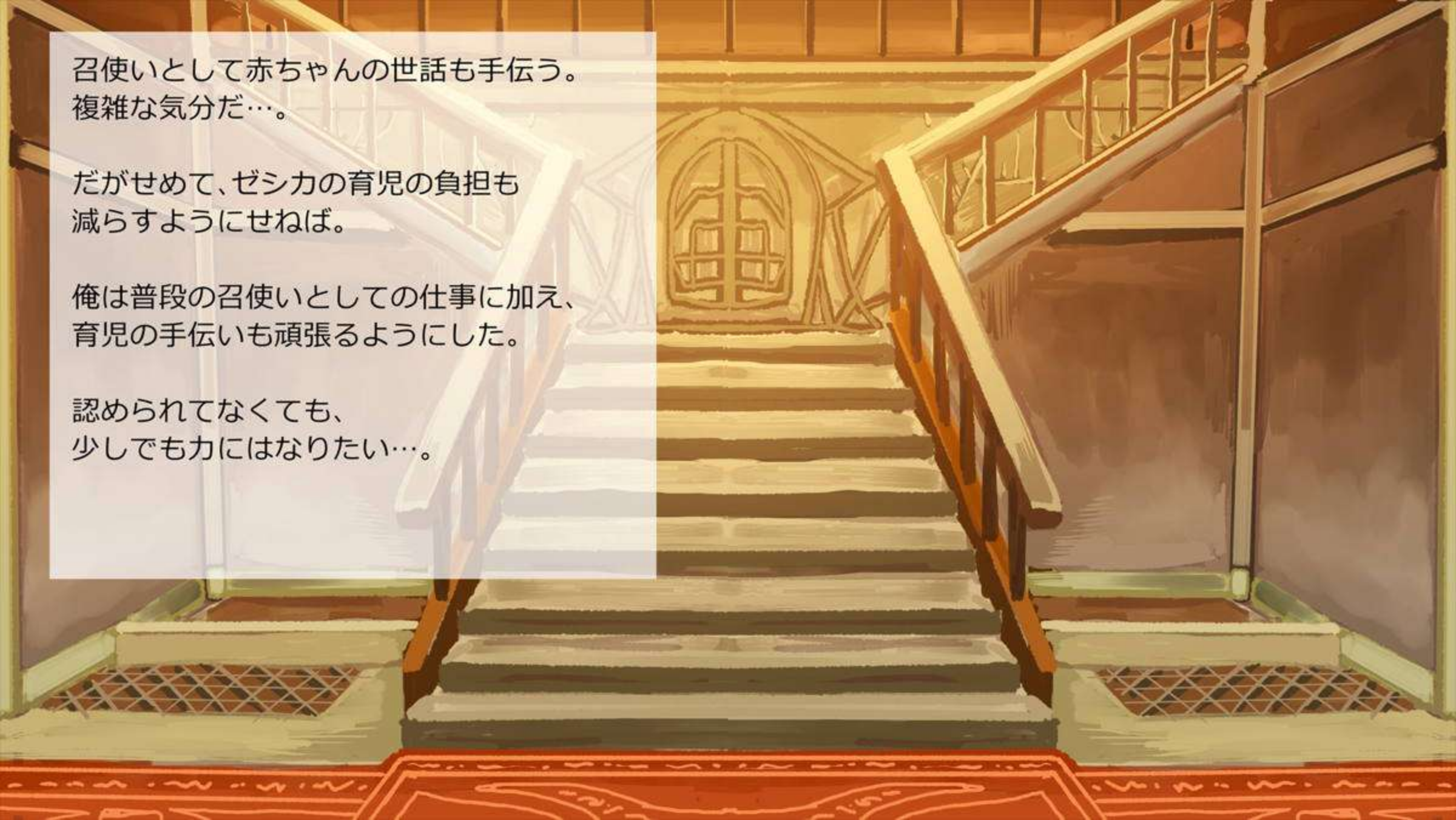
だが俺と結婚…などということはなく、  
ゼシカは気丈に子育てに勤しんでいる。

召使いも手伝いながら。

もちろん自分もゼシカとの子を抱くが、  
それは父親としてではなく  
あくまで召使いとして…。

感動したが、やはり淋しい…。





召使いとして赤ちゃんの世話も手伝う。  
複雑な気分だ…。

だがせめて、ゼシカの育児の負担も  
減らすようにせねば。

俺は普段の召使いとしての仕事に加え、  
育児の手伝いも頑張るようにした。

認められてなくても、  
少しでも力にはなりたい…。

そんな中、俺はゼシカの母親の  
アローザさんに呼び出される。

「あの赤子があなたとゼシカとの  
子であることはわかっています…  
ゼシカがそれを認めていないことも…  
それゆえ頼みがあるのです」

「何でしょうか」



「次の子を種付けしてもらいたいのです」

「はっ!？」

俺は勃起してしまった。

「あの赤子は女の子です…勿論女の子で  
問題はないのですが出来れば…出来れば  
家としても男の子がほしいのです…」

「は…はあ…」

「あの子は第2子を望まないかもしれませんが…  
あの子にも一応この事は言っておきました」



親の干渉…家…

色々思うところはあったが口には出さない。

勃起してしまっている自分の状態。


出産から1ヶ月は過ぎ、もうゼシカは  
また妊娠できる状態だろう。

だが俺のペニスにはまだリングが  
着いていてオナニーが自由でないのだ。

とにかくどうすればいいのか  
一度ゼシカには会ってみなくては。





A child's bedroom with a bed, crib, and shelves. The room is dimly lit, with a warm glow from a lamp. The bed has a purple blanket and a white pillow. The crib is wooden and contains a white blanket. The shelves are filled with colorful books and toys. The floor has a patterned rug with orange, blue, and yellow triangles.

夜。子供を寝かしつけたゼシカの部屋に入った。

「…私のお母さんから何か聞いた？」

「…はい…」

「…私するつもりないから」

「…しかしゼシカ様」

「私これ以上お母さんに  
どうこう言われたくないの」

「…ですがアローザ様のお願いですし」

「…無理よ…」

「ゼシカ様…」

「うるさいわね…また…  
お仕置きするわよ……」

俺は、股間のゴムリングが、  
緩んだのを感じた。

すぐさま勃起するチ○ポ。


「ぜ…ゼシカ様!？」



「…これは私の意思じゃないわ…  
”作業”よ…  
感情は存在しないの。

私はただ生物のメスとして…  
あと1回だけあんたというオスに  
子宮を許すわ…だから1回だけ…」

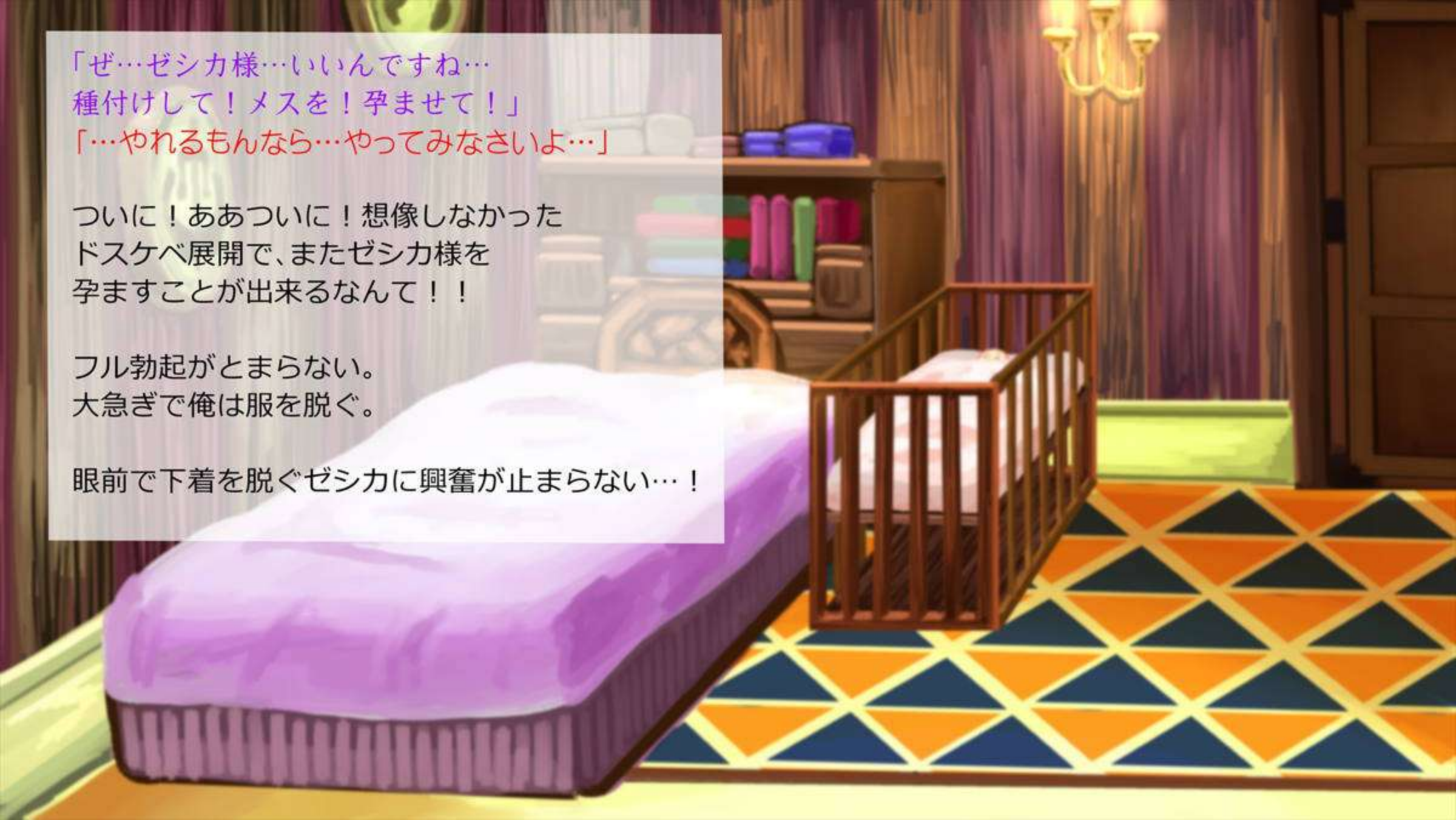




愛情がない、ただの行為だと伝えることで、  
余計にいやらしさが増していることに  
ゼシカは気づいているのだろうか。

「ゼシカ様それって私は種馬になって…  
ゼシカ様に種付けを…  
今から交尾するってことで」

「あんたいちいちスケベな単語に  
するんじゃないわよ！これは作業なの！  
あんたなんて居ないの！ただの人間のオス！  
愛してもない！孕んでも結婚もしない！」

A bedroom scene with a bed, a crib, and a bookshelf. The bed has a purple blanket and a white pillow. The crib is wooden and has a white blanket. The bookshelf is wooden and has books and other items on it. The room has a patterned rug and a chandelier.

「ぜ…ゼシカ様…いいんですね…  
種付けして！メスを！孕ませて！」  
「…やれるもんなら…やってみなさいよ…」

ついに！ああついに！想像しなかった  
ドスケベ展開で、またゼシカ様を  
孕ますことが出来るなんて！！

フル勃起がとまらない。  
大急ぎで俺は服を脱ぐ。

眼前で下着を脱ぐゼシカに興奮が止まらない…！


「ゼシカ様！ゼシカ様！一年ぶりにっ！」  
1年ぶりの射精にドキドキが止まらない。  
本当にして良いのか！

「うるさいわね変態…  
さっさと終わらせてよね…」

と言いつつ、ゼシカのまんこは  
濡れに濡れていた。

俺は再び生のまま、ゼシカの女穴に  
一年ぶりにペニスをぶちこむ。





「あと1回だけして…それで妊娠したら  
それはもう運命っていうか…  
そういうことなんだろうと思うの

お母さんの話も認めるわ  
別にあなたのことはどうとも思っていないから。  
ただ作業を一緒にする相手ってだけ」

「ぜ…ゼシカ様…」





「はあっ！ゼシカ様に！ゼシカ様に  
射精できる！こんなに興奮するなんて！」  
「妊娠しなかったら…もうそれで終わりよ…」

「いえっ絶対妊娠させますっ！僕の精子で  
ゼシカ様は絶対第2子を孕みますから！」

「あんっ♡ああ♡孕まないわよ…絶対に…！あ…♡  
やっぱり…んあぁっ♡生って…すごおっ…」

まさに孕むためにしている行為なのに  
それでも気持ちでは拒んでいるゼシカ。  
だが何が何でも俺はゼシカを…！

ぶるっ♡  
ぶるっ♡

じゃほ！

じゃほ！



2時間後。生の快感に耐えまくりながら、  
我慢に我慢を重ねて、いよいよもう限界。

「ゼシカ様っ！もっ…もう…出ますよ！種付けしますよ！  
数カ月分の精子！出しますよ！！」

「はぁぁあ♡はぁぁああっ♡あっ♡あっ♡  
しょうがないから…1回だけ…受け入れてあげるわ…  
はやく…出しっ…♡あ♡出しなさいっ…♡あ♡気持ちいいっ！！」

「孕ませますよ！妊娠してください  
ゼシカ様！あっ！あ！あー！！！」

「ひぁぁぁああっ♡出してえええっ♡出しなさいっ…！  
孕ませてみなさいよ…！無理だろうけど…！  
あぁ…♡あ…！♡あぁぁあああっ♡」



「おうっ！お！おおおおおっ！！  
ゼシカ様！あああああ！」

「んっあああああああ♡あああ！  
熱いっ！熱いのがっ♡ああああ♡」

「ゼシカ様！おおおああああ！  
気持ちいいっ！気持ちよすぎる！おおお！」

「はああああ♡あうううあああああ！！♡」





「おおおっ♡おおおっ♡入ってる！  
ゼシカ様の子宮に精液入ってる！  
種付けしてるっ！おおおっ♡おっ♡」

「あうううう♡気持ちいい♡あぁ♡  
すごっ♡…いっぱいいいいい…！」

「ゼシカ様！孕んで下さい！  
妊娠して下さい！」

「ああああ…ああああ…こんなに  
注がれたら…ああああ♡」

「はあっ！はあ！気持ちよかった！  
気持ちよかったあああ…  
まだ出てますよお…♡」  
「あうっ♡あ…まだ…入ってくるのお…♡」

「おっ♡」

あっ♡

あ…

入ってくるの♡

♡♡

ビョッ…♡

♡

♡

ビョッ…♡

♡

「ゼシカ様っ…はあ…はあ…  
キスしていいですか…」


「それは駄目よ…召使い君…」

結局キスも母乳も駄目、セックス自体も  
これ1回で終わりにさせられてしまった。



それでも、このときの一発で  
ゼシカは第2子を妊娠した。



A bedroom with a bed in the center, a door on the right, and a window on the left. The walls are covered in red and white striped wallpaper. The bed has a white sheet with a pink floral pattern. The door is dark wood. The window has a white frame and a dark interior.

が、懐妊しても俺が  
射精できることはなく。

俺は我慢地獄の日々を送るのだった。

そして、ゼシカは第2子を出産。  
女兒だった。

それでも何も問題はないのだが、  
周りの空気が何とも言えないものがあった…。

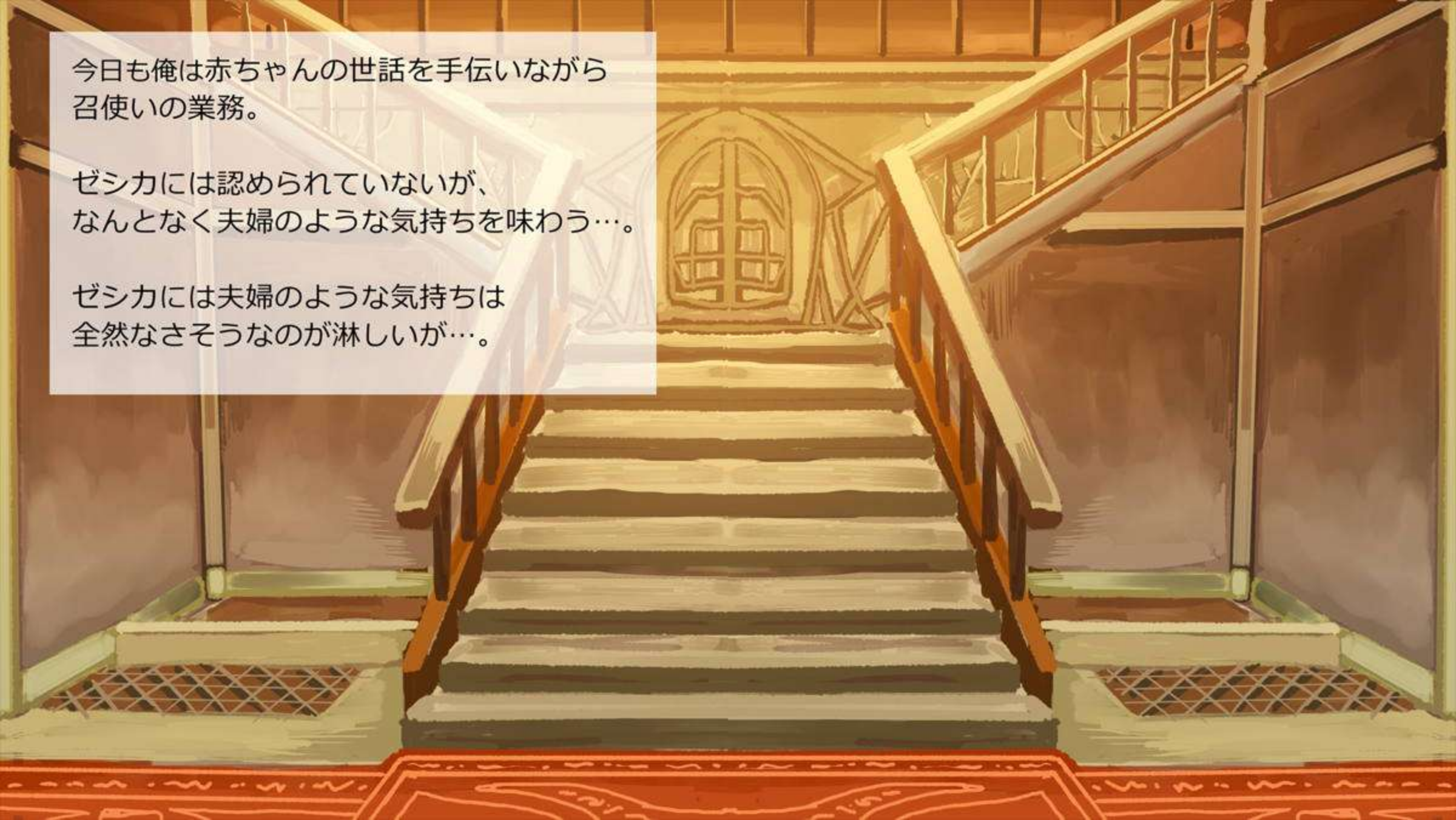




だがその後も俺がゼシカの  
育児を手伝っても、

ゼシカは俺をやはりあくまで  
召使いとしての扱いのままだ…。

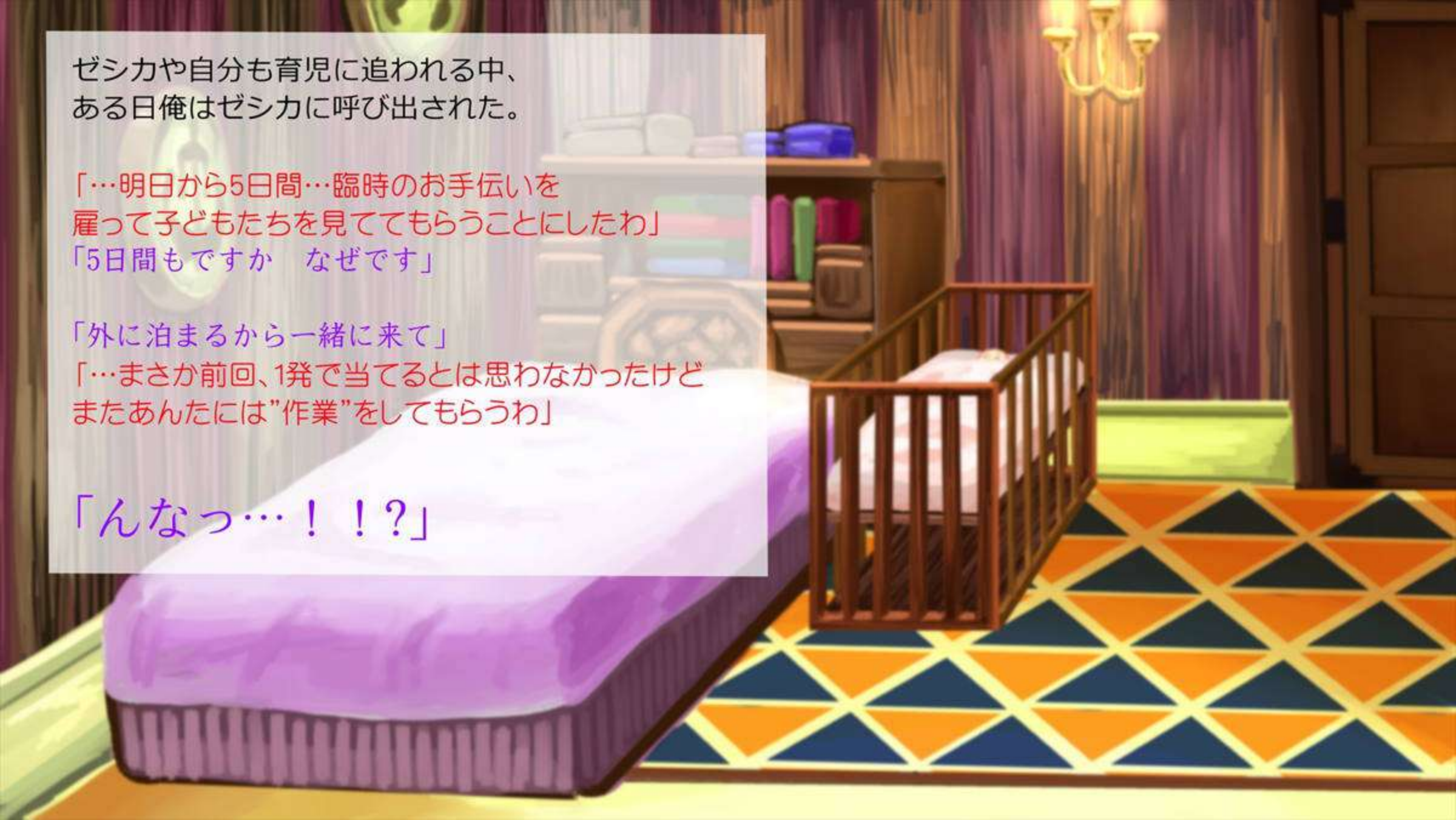




今日も俺は赤ちゃんの世話を手伝いながら  
召使いの業務。

ゼシカには認められていないが、  
なんとなく夫婦のような気持ちを味わう…。

ゼシカには夫婦のような気持ちは  
全然なさそうなのが淋しいが…。



ゼシカや自分も育児に追われる中、  
ある日俺はゼシカに呼び出された。

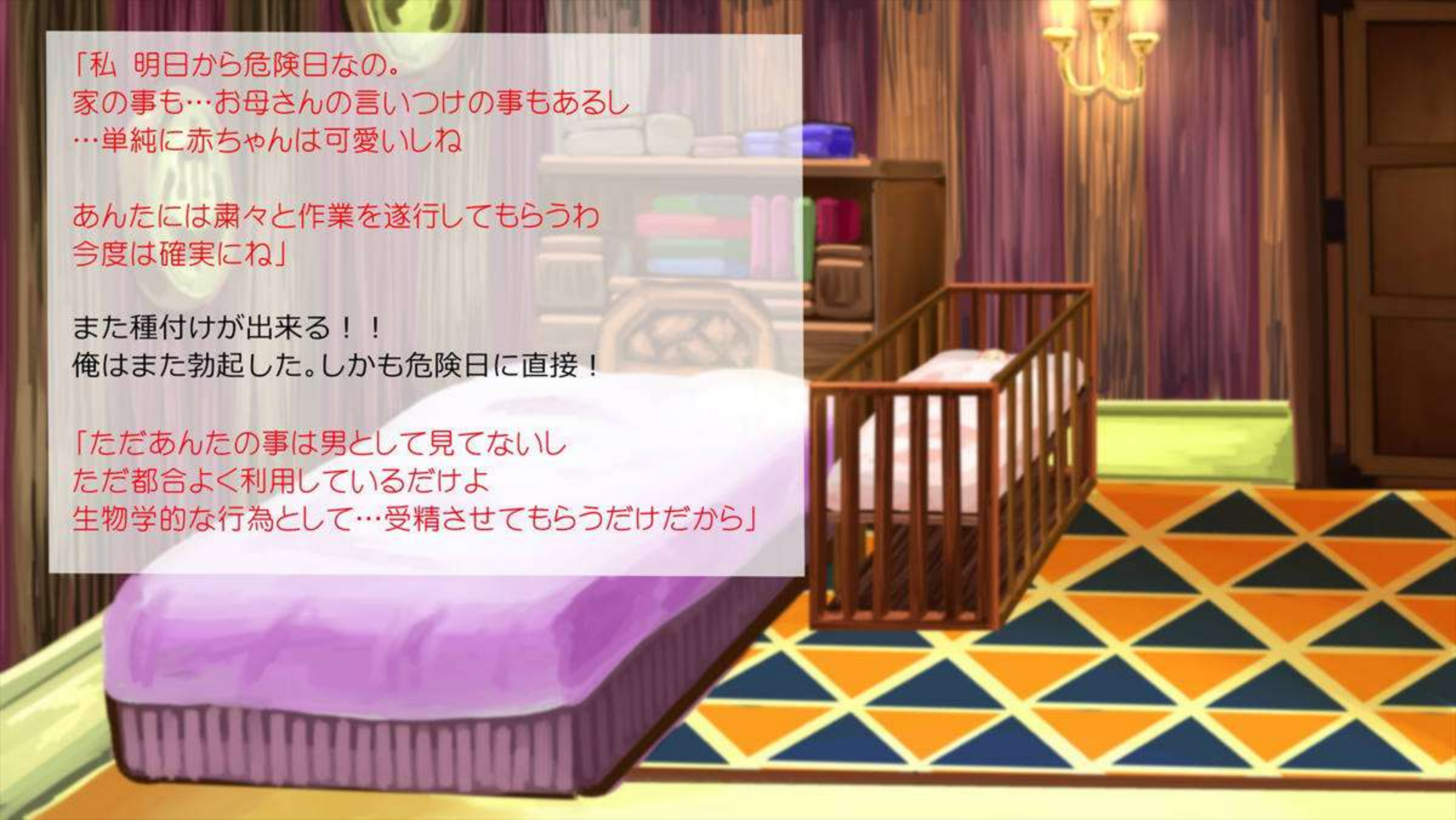
「…明日から5日間…臨時のお手伝いを  
雇って子どもたちを見てもらうことにしたわ」

「5日間もですか なぜです」

「外に泊まるから一緒に来て」

「…まさか前回、1発で当てるとは思わなかったけど  
またあんたには”作業”をしてもらうわ」

「んなっ…！！？」

A bedroom scene with a bed, a crib, and a bookshelf. The bed has a purple blanket. The crib is wooden with a white sheet. The bookshelf is filled with books. The floor has a blue and orange geometric pattern. A chandelier hangs from the ceiling.

「私 明日から危険日なの。  
家の事も…お母さんの言いつけの事もあるし  
…単純に赤ちゃんは可愛いしね

あんたには肅々と作業を遂行してもらおうわ  
今度は確実にね」

また種付けが出来る！！  
俺はまた勃起した。しかも危険日に直接！

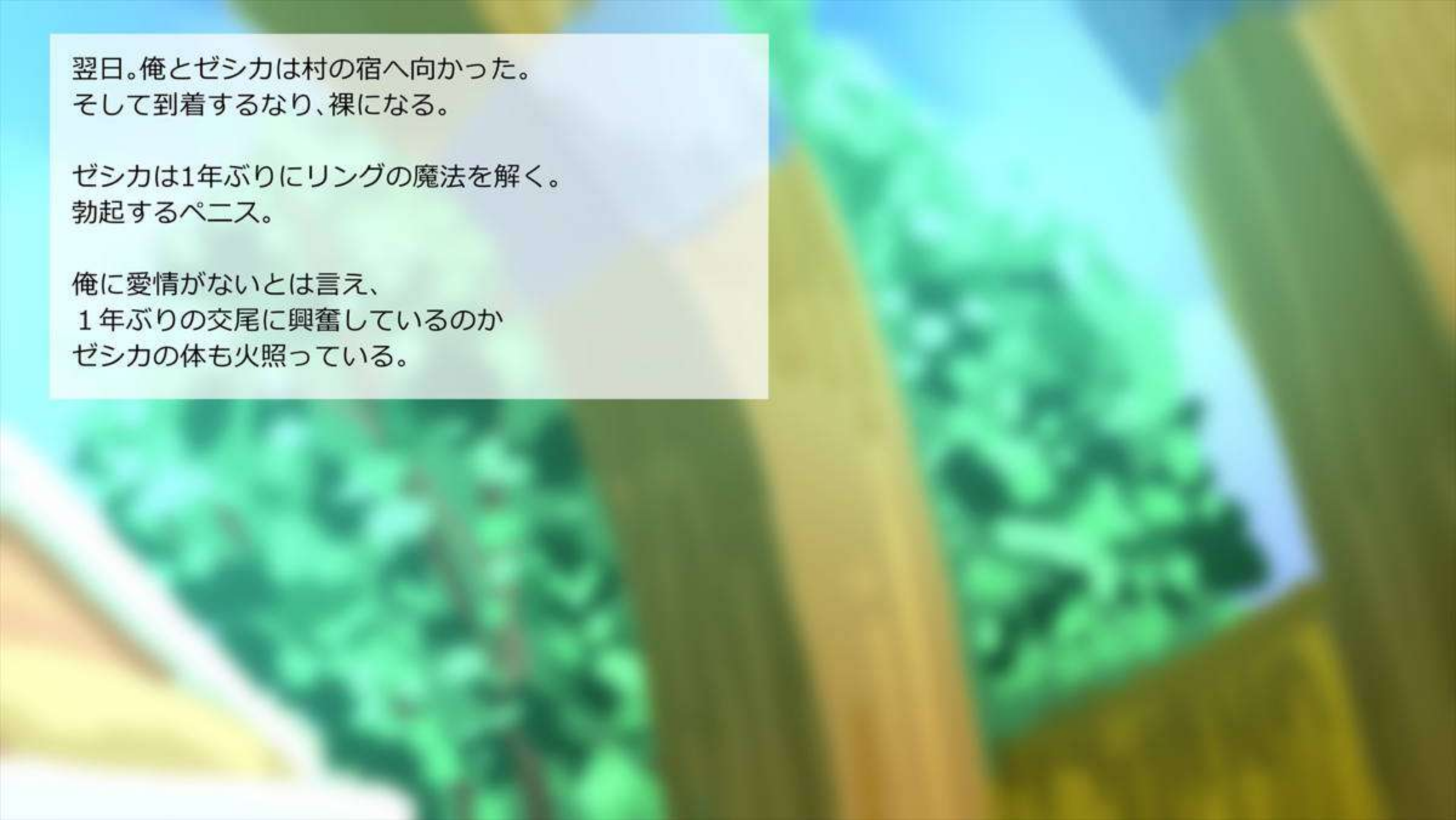
「ただあんたの事は男として見てないし  
ただ都合よく利用しているだけよ  
生物学的な行為として…受精させてもらうだけだから」

A bedroom scene with a bed, a crib, and a bookshelf. The bed has a purple blanket. The crib is wooden. The bookshelf is filled with books. The room has purple curtains and a chandelier.

「ゼシカ様…なんだか余計エロいんですが…」

「うるさい！1年我慢してるやつ、  
ちゃんと力を発揮するのよ」

精子にまで活を入れられてしまった。  
これは頑張らないわけにはいかぬ。  
明日が楽しみで寝られない…！



翌日。俺とゼシカは村の宿へ向かった。  
そして到着するなり、裸になる。

ゼシカは1年ぶりにリングの魔法を解く。  
勃起するペニス。

俺に愛情がないとは言え、  
1年ぶりの交尾に興奮しているのか  
ゼシカの体も火照っている。

あの頃のような性欲も  
復活してきているだろうか。

前戯もせずとも濡れている  
ゼシカの肉壺に、生の種付けペニスを挿入した。

危険日1日目、すでに数時間も  
交尾を続けている二人。

「はあああもう出るっ…出ますよお  
ゼシカ様…!!孕ませますよお!  
妊娠して下さいよお!」

「いいわ危険日の間だけだからね…♡  
出さないよ…♡」

「ああゼシカ様に1年ぶりに種付けします…!  
出るっ!出ます!おおおお!

孕んで下さいゼシカ様!!1年ぶりの!  
特濃精液でっ!あああああ!

「出さないっ…♡あっ♡あ!  
あああああーっ!!!♡」

出っ  
あああ!!

ピョッ!  
ピョッ!

フニッ♡  
フニッ♡

フニッ!

グッ!  
グッ!  
グッ!





危険日3日目。あれからずっと  
繋がりが合っている二人。

「はあ…はあ…出しますよゼシカ様…  
また…孕ませますよ…精液…」

「あんたほんとに…魔物並の体力よね…  
はあ…♡はあ♡魔物より凄いかも  
しんない…！ああんっ♡」

「ゼシカ様に種付けできるんだったら  
何日でもやりますよ！このために  
1年間我慢してたんですから！

また…出ますよ…孕ませますよ！  
ゼシカ様っ…！おおおおっ！！！！」

「ああああ♡すごっ♡気持ちいいっ♡もうっ♡  
妊娠しちゃうっ♡こんなすごい…  
絶対妊娠しちゃうっ♡」

ああああ♡♡ 妊娠 (ちやう)♡♡

R7♡♡ R7♡♡

「おほっ♡おおおおお♡はあぁううう♡  
中に…すごくっ♡あぁあ！♡」  
「おっあぁあぁあ♡ゼシカ様！ゼシカ様！  
気持ちいい！何回出しても気持ちいい！！♡」

「はううっ♡もうっ…イキすぎてっ…♡  
あぁあ♡気持ちよすぎてえ♡」

「妊娠して下さいっ！  
今もう受精してるかもっ！  
ゼシカ様と僕の…！！  
まだまだ出し足りませんっ！」

「はううう♡あぁっ♡あ♡あ♡  
やばい…こんなのやばすぎりゅ…♡」

危険日5日目。

「もうっ…もういいでしょ…もう…  
妊娠するっ…妊娠してるからあ…♡  
5日は長すぎたあ…♡もうセックスするの無理いい…」  
「ゼシカ様あ…まだです…最後の一発…」

「こんな…何十回も出されたら…確実に  
妊娠してるわよお…♡もうっ…  
こっちも…気持ちよすぎて…おかしく  
なってるから…もうやめ…っ♡」

びっしょり! びっしょり!

びっしょり!

びっしょり!

ちゅぽっ!

ドキョッ!

ドキョッ!

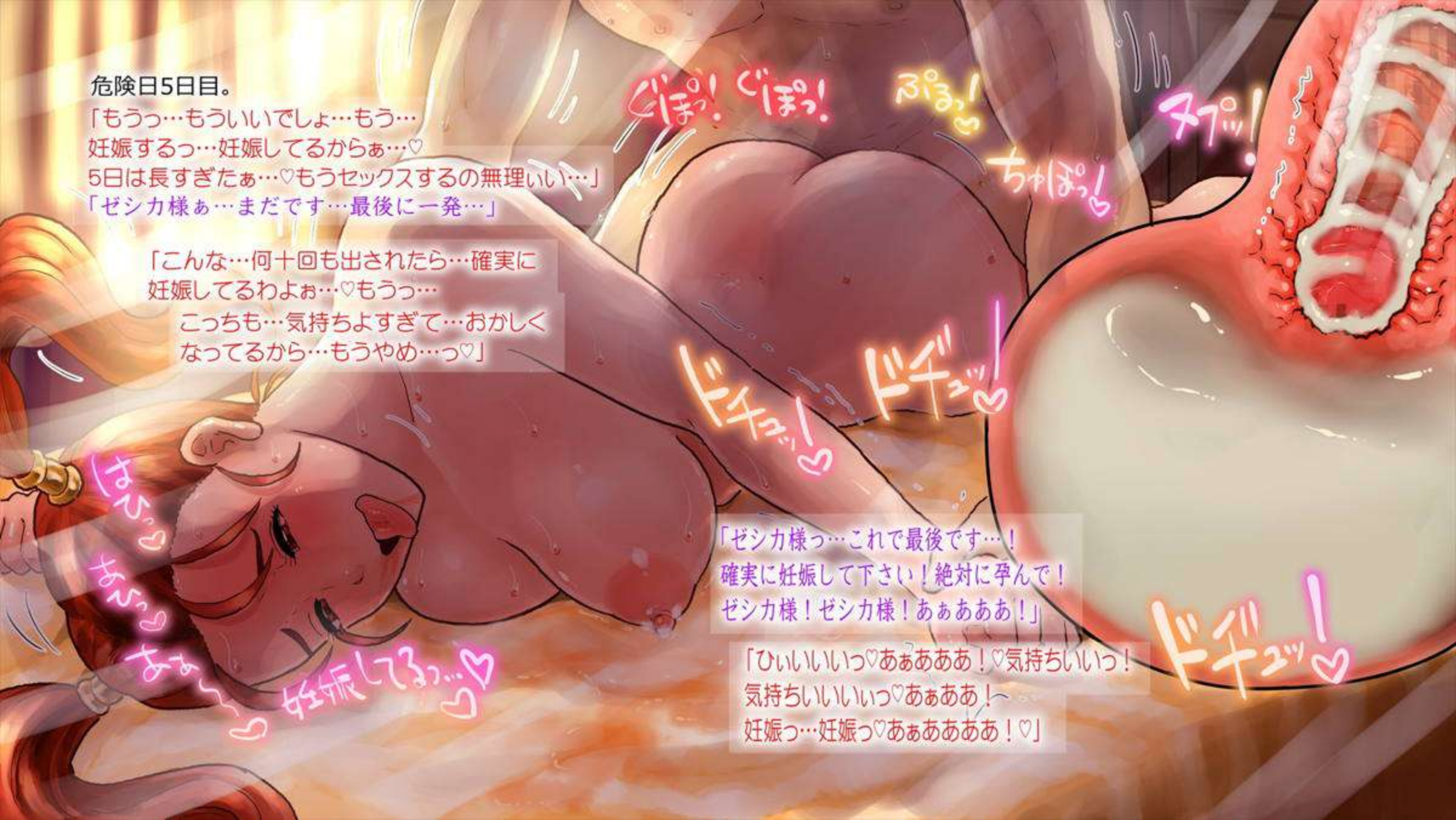
ドキョッ!

「ゼシカ様っ…これで最後です…!  
確実に妊娠して下さい!絶対に孕んで!  
ゼシカ様!ゼシカ様!あああああ!」

「ひいひいっ♡あああああ!♡気持ちいいっ!  
気持ちいいっ♡ああああ!  
妊娠っ…妊娠っ♡あああああ!♡」

あま♡  
あま♡  
あま♡

妊娠してるっ♡♡



「おおおっ！おううっ！  
おっ！おおおお！」

「ひああああ♡あうふっ！  
あああっ！おぼっ！  
んおおお♡ああああ♡」

「ゼシカ様っ…おお…  
ゼシカ様にこんなに  
中出しできるなんてっ…！  
ああああ！」

「ひうっ♡うう♡はううう♡  
あっ！あ！あはああああ♡」

「ぜ…ゼシカ様あ…最高でしたあ…」

「はあ…はあ…はあ…あんたヤバすぎ…」

わかってはいたけど…どんな魔物よりもヤバいわよ…」

5日間で60回以上種付けしただろうか。

交尾以外のなにものでもない行為。

二人は交尾を終えて泥のように眠ってしまった。

5日間の危険日種付けの結果、  
当然のようにゼシカは第3子を妊娠。


そしてここに来て、なんとリングの魔法が解除された。

「ぜ…ゼシカ様…いいんですか!？」

「オナニーくらい自由にさせてあげようと思ってね」

俺はオナニーできる喜びに震えた。だが。





「でもセックスはしないわよ  
恋人でも夫婦でもないんだから」  
「は…はあ…ゼシカ様…」

お仕置きこそ終わったものの、  
ゼシカの心の扉を開けるのはまるで容易じゃない。

もう無理なのかもしれない。3人も子供が居るのに…！  
俺はオナニーしながらも寂しい気持ちになった…。



そしてゼシカは第3子を出産。  
今回も女兒。それはそれでめでたい事だが…。

やはり家のことや母のことを考えても男児が  
望ましい、それに自分としても男の子を生みたいと  
思い始めていたゼシカは占い師に診てもらうことに。



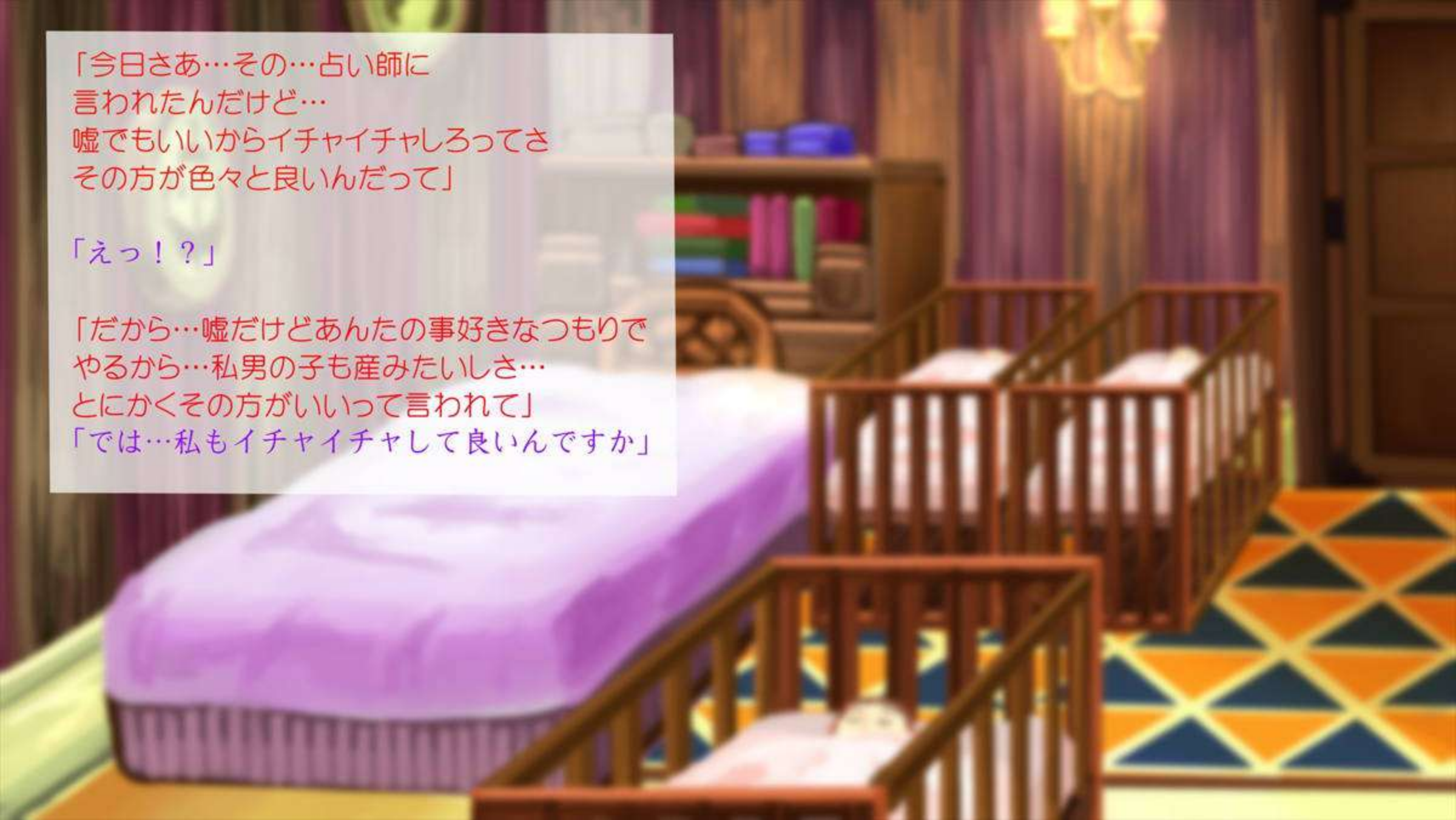
するとセックス時にラブラブな方が  
望んだ子を生みやすいと言われたのである。

「え…ラブラブで…」

「たとえ嘘でも愛情があるように交わったほうが良い」

「なっなーんだ！嘘でもいいんだ！だったら楽勝じゃない」

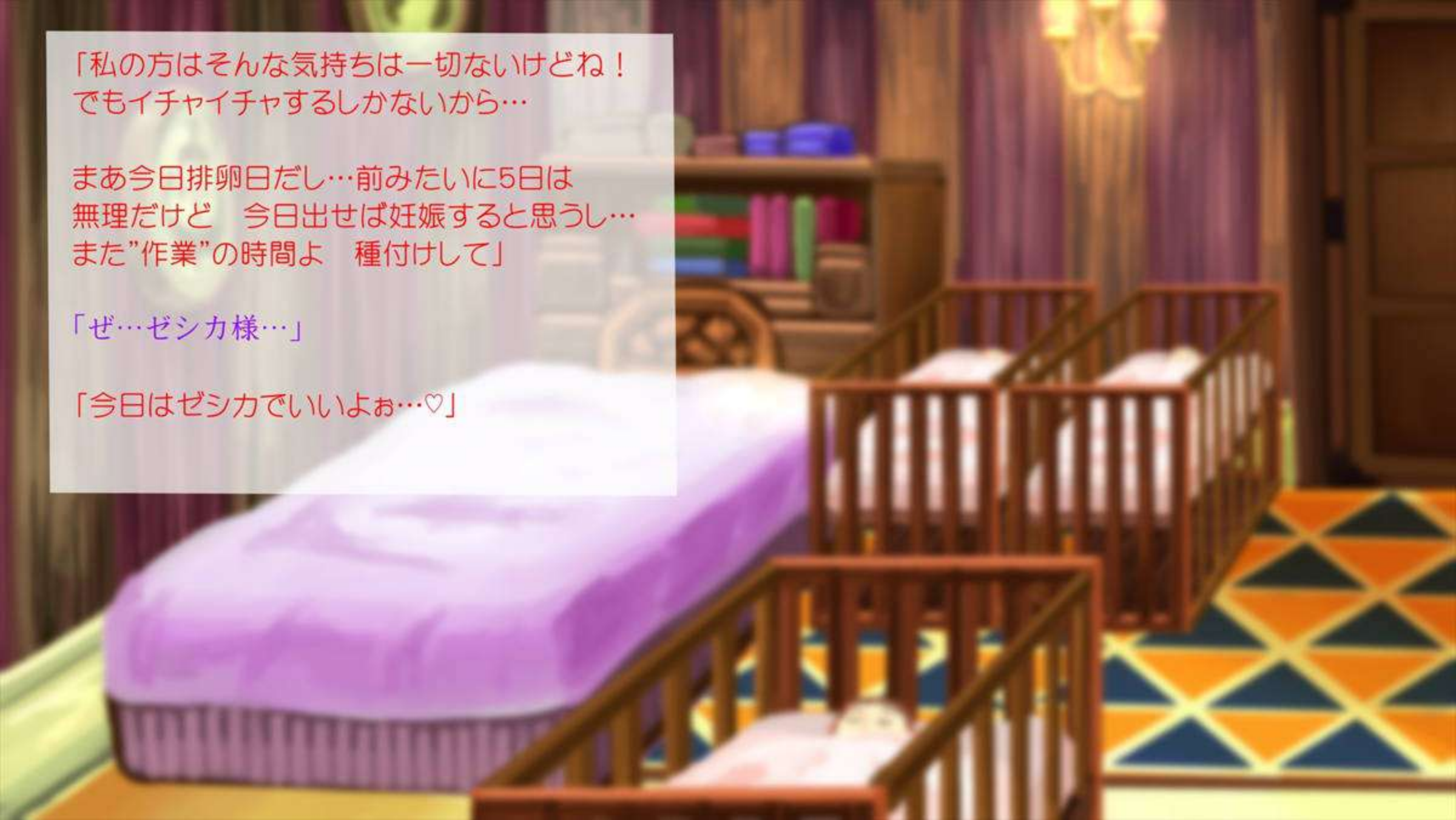
ゼシカは家に帰ると育児の間を縫って男を呼び出した。

A room with a bed and cribs. The bed has a purple blanket. There are three wooden cribs with white bedding. The floor has a blue and orange geometric pattern. A bookshelf is visible in the background.

「今日さあ…その…占い師に  
言われたんだけど…  
嘘でもいいからイチャイチャしろってさ  
その方が色々と良いんだって」

「えっ!？」

「だから…嘘だけどあなたの事好きなつもりで  
やるから…私男の子も産みたいしさ…  
とにかくその方がいいって言われて」  
「では…私もイチャイチャして良いんですか」

A room with a bed, cribs, and a bookshelf. The bed has a purple blanket. There are three wooden cribs with white bedding. A bookshelf with books is in the background. A lamp is on the wall.

「私の方はそんな気持ちは一切ないけどね！  
でもイチャイチャするしかないから…

まあ今日排卵日だし…前みたいに5日は  
無理だけど 今日出せば妊娠すると思うし…  
また”作業”の時間よ 種付けして」

「ぜ…ゼシカ様…」

「今日はゼシカでいいよお…♡」

The background is a detailed anime-style illustration of a bedroom. In the foreground, a bed with a purple blanket is partially visible. To the right, there are three wooden cribs arranged in a row. In the background, a wooden bookshelf is filled with books, and a lamp with a warm glow is visible. The floor has a patterned rug with orange and blue triangles.

「ぜ…ゼシカっ！」

「私も…そうだな…今日はダーリンって呼んであげる…」

“様”を付けずに名前だけで呼べるのがこんなに嬉しいなんて…。

そして俺はズボンを下ろし、ゼシカも服を脱ぐ…。

「はあ…あ…ゼシカのおまんこ  
気持ちいいよお…セックス気持ちいいよ！」  
「ダーリンのおちんぼもすごいよお…♡」

「ゼシカっ…好きだ…ずっと…  
ずっと好きなんだ…ずっと前から…！」

ズプッ♡

くちゅ♡  
めちゅ♡

シユッ♡  
シユッ♡

フニッ♡

「んんっ♡わ…私も好き…かも？ダーリン…♡  
その…ら…ラブラブしようね…」

「ああ…ゼシカが…ゼシカが  
受け入れてくれてる…」

ダーリン♡

ズリ♡  
ズリ♡  
ズリ♡



ゼシカの頬すりすりが最高に気持ち良い。

「お…おお…こんなのは今までになかった…！  
柔らかくてあったかい…」  
「い…イチャイチャしょ…♡」

ぎこちないながらも密着してくれるゼシカ。  
絶頂時以外でゼシカから密着してくれることは  
まで無かった。故に、今の密着が単純にすごく嬉しい。

「ゼシカ…ゼシカとちゃんと  
抱き合ってるう…！ああ♡」

もちろんまんこでも激しく抽送を繰り返す。

「んあぁっ♡あぁ♡気持ちいい♡  
あぁあッダーリンっ…♡」

3時間後。たっぷり愛撫、  
抽送してよいよ種付け射精。

「ダーリンいっぱい注いでえ…種付けしてえ…♡」  
もともと色気のあるゼシカの色気が  
こちらに向けた時の破壊力はとんでもなかった。

「ぜっ…ゼシカあ…出るよお…大好きな  
ゼシカの子宮に…いっぱい出すよお…!!!  
あっあっ♡あっ!あっ!!!」

「いいよおダーリン…っ♡出してっ…  
一緒に赤ちゃんつくろう♡」

「ゼシカっ…妊娠してっ! 孕んで!  
俺の赤ちゃん産んでくれっ♡ああああっ!!」

「はあああうっ♡いっぱい出してええ♡  
妊娠するっ♡からああっ♡ああああ♡」


ドスッ! ドスッ!

ド  
ス!  
ドス!

はああ♡  
ダーリン♡  
いっぱい出してえ♡  
妊娠するから  
ああ♡  
♡

赤ちゃん!  
赤ちゃん!





「おおおおおっ♡ゼシカっ♡  
ゼシカの中にいっぱいっ！  
あはあああああっ♡」

「あううううっ♡あっ♡ああ♡  
気持ちいい♡はあああっ♡  
ダーリンっ♡ああ♡気持ちいいっ♡」

どほほっ♡  
ぽぽぽっ♡  
ぽぽぽっ♡  
ぽぽぽっ♡

は♡ま♡あ♡め♡

熱っ♡  
精子♡  
いっぱい♡  
中に♡

「妊娠してくれえゼシカっ！  
また妊娠してくれ！」

「はううっ♡もっと出してえ…♡」



「おおっ♡好きだっ…好きだゼシカ…！  
まだ出るっ…！妊娠するまで出るっ♡」

「熱いのがいっぱいくるよお…♡はうう♡  
もっと甘えて良いんだよお♡」

ゴッゴッ♡  
ぽぽぽッ♡

あぁあぁ♡  
妊娠するから♡  
ゴッゴッ♡

「ゼシカっ♡あああ♡気持ちいいっ♡  
受精っ！受精してくれええ…あああ♡」

「もっと♡もっと出してえっ♡  
あああ♡妊娠するからあ♡」

射精が終わったあとも、  
イチャイチャと密着してくるゼシカ。  
今まではこんなことは一切なかった。  
事後までこんなにラブラブなんて…。  
たとえ嘘でも興奮し感動する。

「はあ…はあ…いっぱい  
精子入ってる…♡  
…もっと…もっとしよ…♡」

「ゼシカ…今日はずっとセックスできる…？」  
「そうだよお…いっぱい…いっぱい出してダーリン…♡」

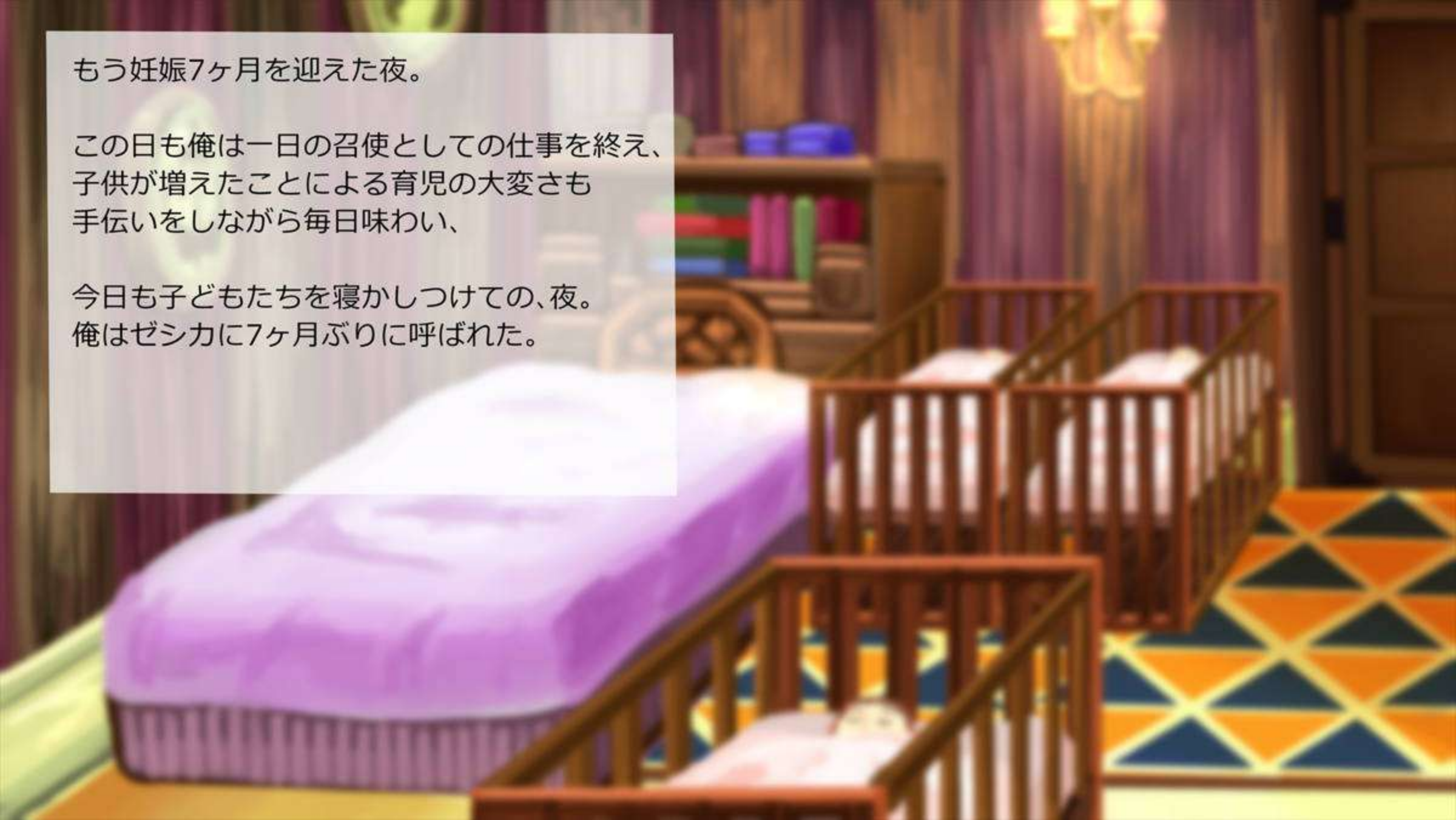
俺はまったく勃起が衰えず、  
すぐに腰を振り始めた。



そしてゼシカは第4子を妊娠する。

男はオナニーこそ出来るがゼシカと  
まだ安定期後もセックスできて  
いないが…。



A child's nursery room. In the foreground, a bed with a purple blanket is partially visible. To the right, there are three wooden cribs arranged in a row. The floor has a patterned rug with orange and blue triangles. In the background, there is a bookshelf with colorful books and a doorway. The lighting is warm and soft.

もう妊娠7ヶ月を迎えた夜。

この日も俺は一日の召使としての仕事を終え、  
子供が増えたことによる育児の大変さも  
手伝いをしながら毎日味わい、

今日も子どもたちを寝かしつけての、夜。  
俺はゼシカに7ヶ月ぶりに呼ばれた。

A child's bedroom with a bed, cribs, and a bookshelf. The room is dimly lit with a warm glow from a lamp. The bed has a purple blanket. There are three wooden cribs with white bedding. A bookshelf is visible in the background.


「ゼシカ様」

「もう安定期だしさあ…なんだかムラムラしてきちゃって」

「ゼシカ様？」

「やっぱりさあ 次にセックスする時だけじゃなくて普段から多少は仲良くする必要があると思うの」

「そのうちあんたが父親だって子供達も気づくだろうしたとえ嘘でも仲良くしたほうが」

A bedroom scene with a bed, a crib, and a bookshelf. The bed has a purple blanket and a white pillow. The crib is wooden with a white blanket. The bookshelf is filled with books. The room has purple curtains and a chandelier.

「わ…私もそう思ってます！」

「ね…安定期だからさ 本番のときのためにも  
今からイチャイチャごっこ練習しましょ」

「もちろんです！ゼシカ様」

「じゃあイチャイチャしよ…練習だけど」

ついにゼシカ様と危険日以外もセックスできるのか！  
キスはまだだけど…7ヶ月ぶりに！

「はあっはあっ♡この中に…  
二人の子供が…入っ  
てるんだね…ゼシカ♡」

「んっ…そうよお…  
あんたが…孕ませて  
くれたから…」

「んんっん〜♡好きだよお  
ゼシカ…♡」

おっぱい  
飲む?

んんっ  
♡

んんっ  
♡

「ん♡私もあんたのこと…  
好きだよお…♡おっぱい飲む？」  
「えっ?!いいの!?!」

ついに母乳が解禁された!



「うおおおおおっ！おっぱい！  
おっぱい！母乳っ！

妊娠ミルクっ！！はあっ♡

ゼシカっ♡ゼシカの  
おっぱい美味いよお！」

ついに飲むことのできた  
ゼシカの母乳に俺は感動しきり。

「ゼシカっこの子産んだら  
また種付けしようなあ♡  
男の子でも女の子でもっ」

「いいよお♡また種付けして  
お腹膨らませてえ♡」

ああ♡おっぱい

おいしい♡

あ〜♡

おちんぼ

硬くなってる♡

ロロ♡  
チゅっ♡  
ロロ♡

「まちきれないよっ♡んぐっ♡  
ゼシカと交尾するのがあ♡」

「はあああ♡んっ♡私もまた孕ませてほしい♡」

「あっ！母乳うまっ！甘っ！  
これでもう3人も育ててるなんて…！  
うちの子たちは幸せだなあ！」

ブルウー♡

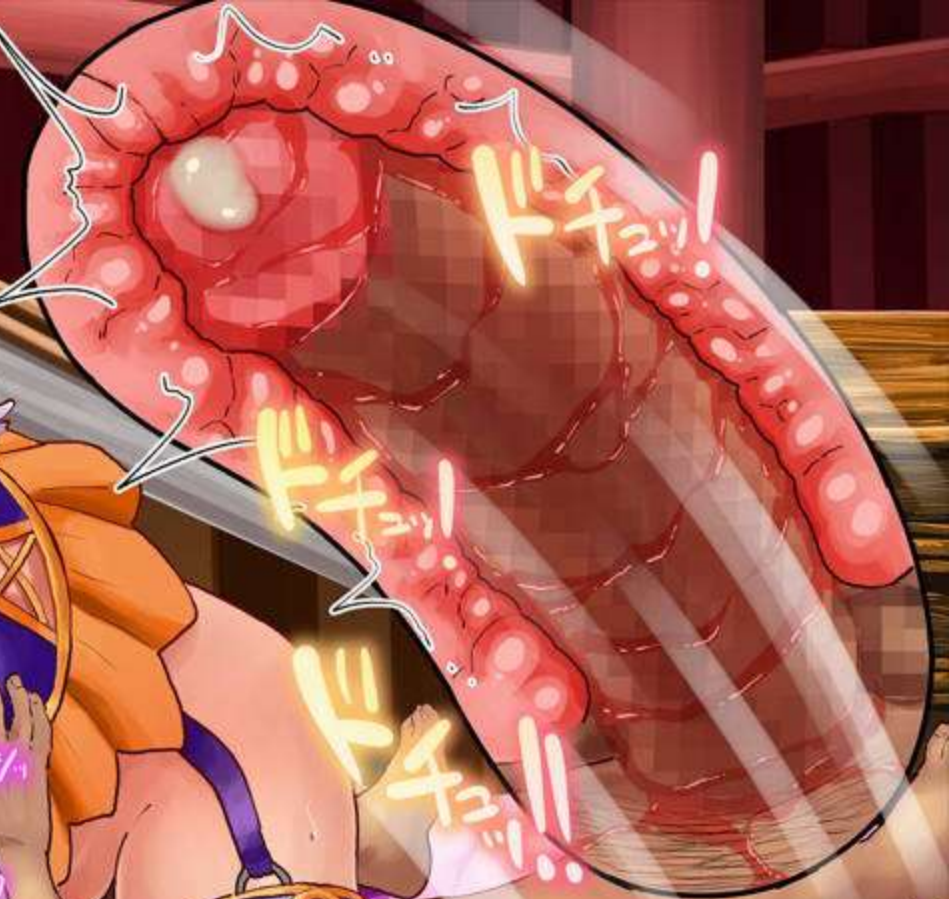
♡  
♡  
♡  
♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡  
♡

「ああゼシカは全部最高だよ！  
ああもう射精しそう…！  
ゼシカあ…出すよお…  
出すよゼシカ…！」

「んうう♡出してえ♡  
いっぱいエッチなの出してえ♡」

あああ  
ああ～♡  
いっぱい精子  
出してえ♡♡



「ああおっぱい甘いつ♡あああっ  
出るよおゼシカ♡  
ゼシカあ！あああああ！」

「あああはあ♡私もなんか出ちゃうっ♡  
いっぱい出ちゃうううう♡」

ドキッ!  
ドキッ!  
ドキッ!  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
んっ♡  
んっ♡

ざっ  
ざっ  
ざっ♡



「ああああああ♡あああ一つ♡」

「はああああ♡おとおお♡  
おっおっ♡おっぱい！  
ゼシカのおっぱい！！」

「はああ♡  
いっぱい出てるうう♡」

あああ♡  
精子♡♡

はああ♡

うう♡

うう♡

うう♡

うう♡



「ゼシカっ！おとおおおお…  
気持ちいいっ…！！」

「いっぱい出てるうう♡  
ああ♡気持ちいいっ♡  
精液出てるの♡  
気持ちいいよおお♡」

「んぐっ！んぐっはああっ♡  
ああんんっ♡んっ♡」

「んうっ♡はやく次の子  
種付けしような♡」

また  
種付け  
してえ♡

はあ♡  
はあ♡

たふっ♡

LO LO  
LO LO♡

ずい♡

おは♡  
おは♡

んん♡

「ああん♡はやくまた赤ちゃん  
産みたい…♡種付けしてえ♡」

「ゼシカっ好きだよお…♡」

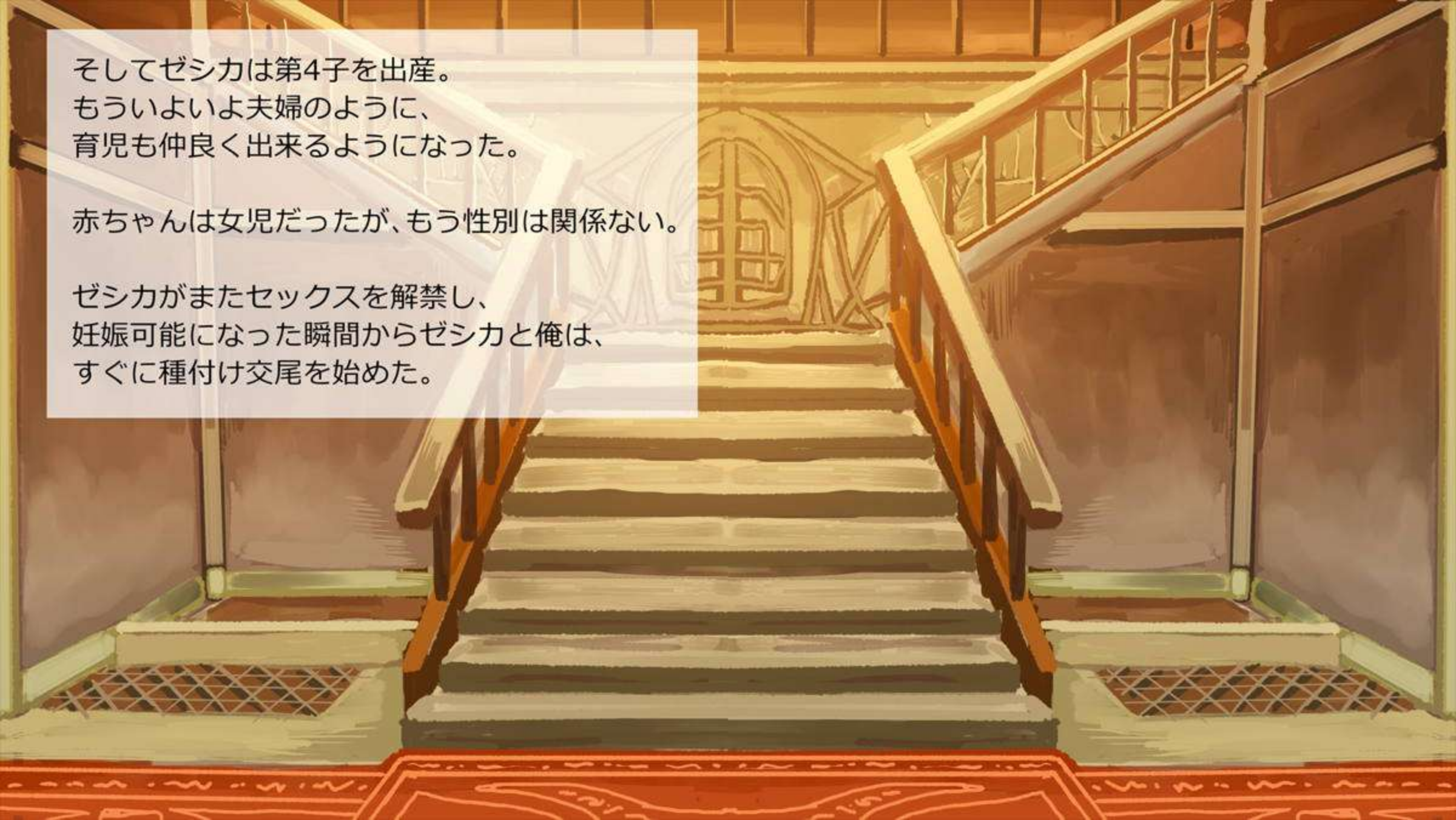
「私も…好きだよおダーリン♡」



このセックスを期に、少しずつ嘘の恋愛から  
徐々にゼシカも雪解けするように  
男に心を許すようになっていった…。

セックスは少しずつ解禁され、  
出産の前日も二人は結合した。





そしてゼシカは第4子を出産。  
もういよいよ夫婦のように、  
育児も仲良く出来るようになった。

赤ちゃんは女兒だったが、もう性別は関係ない。

ゼシカがまたセックスを解禁し、  
妊娠可能になった瞬間からゼシカと俺は、  
すぐに種付け交尾を始めた。

5人目の種付け。

いちゃいちゃごっこも  
もうゼシカは半分以上、

"ごっこ"じゃなくて自分の気持ちも  
混じってきている。

誰も居ない部屋で、排卵日に思う存分種付けする…。

挿入して1時間。

そこで、はじめて二人はキスをした。

今まで一度もしていなかったキスを…  
ゼシカにとっては演技上のキスとは言え  
ついにゼシカが唇を受け入れてくれた。

「はうっ♡あ…ゼシカ…あ…♡」

泣けてきた。

「んっ♡あ…”ごっこ”だったのに…キスしちゃった…  
なんかすごく幸せで…気持ちよかったから…」

「ゼシカっ！あ…もっと…。もっとキスしたい…」

「しょうがないわねえ…♡んちゅっ♡」

「ああ♡ゼシカ♡ああああ♡」

実に出会って4年越しのファーストキスだった。  
キスの快感と交尾の快感で、  
男は腰を振るのをやめられない。



「ちゅっ…ああ…キス気持ちいいかも…  
孕ませてえ♡ダーリン♡ちゅっちゅ」

「おおおたまらん！こんなの我慢  
する方が無理！しかも種付け！」

ゼシカは男の乳首をいじりながら母乳を流し、  
まんこを締めてキスをする。

「乳首いじりも最高だよお！」

出る！出るよおゼシカ！キスしながら  
1ヶ月分の精子で種付けするよおゼシカ！第5子っ！」

「種付けしてえ♡ダーリンの精子でえ…♡  
排卵してるから♡精子受け入れるから  
1ヶ月分の精液いっぱいまんこに出してえ♡」  
「おおお！ゼシカっ！おおおおおお！」

「んぐっ！んおおおお！おおおお！  
種付け♡ゼシカとキスしながら種付け交尾っ！！！」

「はうっ♡んああ♡んはああああーっ♡

んっ♡ん♡ん♡あ♡気持ち良いつ♡♡」 キスしながら射精したのは  
もちろん初めて…！

どぼぼおっ♡  
どぼぼおっ♡  
どぼぼおっ♡

おまんこ  
なるっ♡  
♡  
♡  
♡

「やばあっ…気持ちよすぎい…！♡  
ゼシカあ♡孕んでくれ♡受精してくれ〜！！♡」

「ああ♡精子いっぱい♡んん♡  
熱いのおお♡どぼどぼ私のおまんこに入ってる♡  
妊娠するよおお♡」

「おお…出る…まだ出る！溜めたの全部出る！  
ゼシカを何回も孕ませたいっ！」

「出してえ…♡精子全部出して孕ませてえ♡  
おまんこに飲ませてえ♡ちゅっちゅ♡」

キスしながら、射精しながらも腰を振って  
ゼシカの子宮の奥へ奥へ精子を送り込む。  
ゼシカの子宮口とキスしながら男は亀頭で精子を塗り込む。

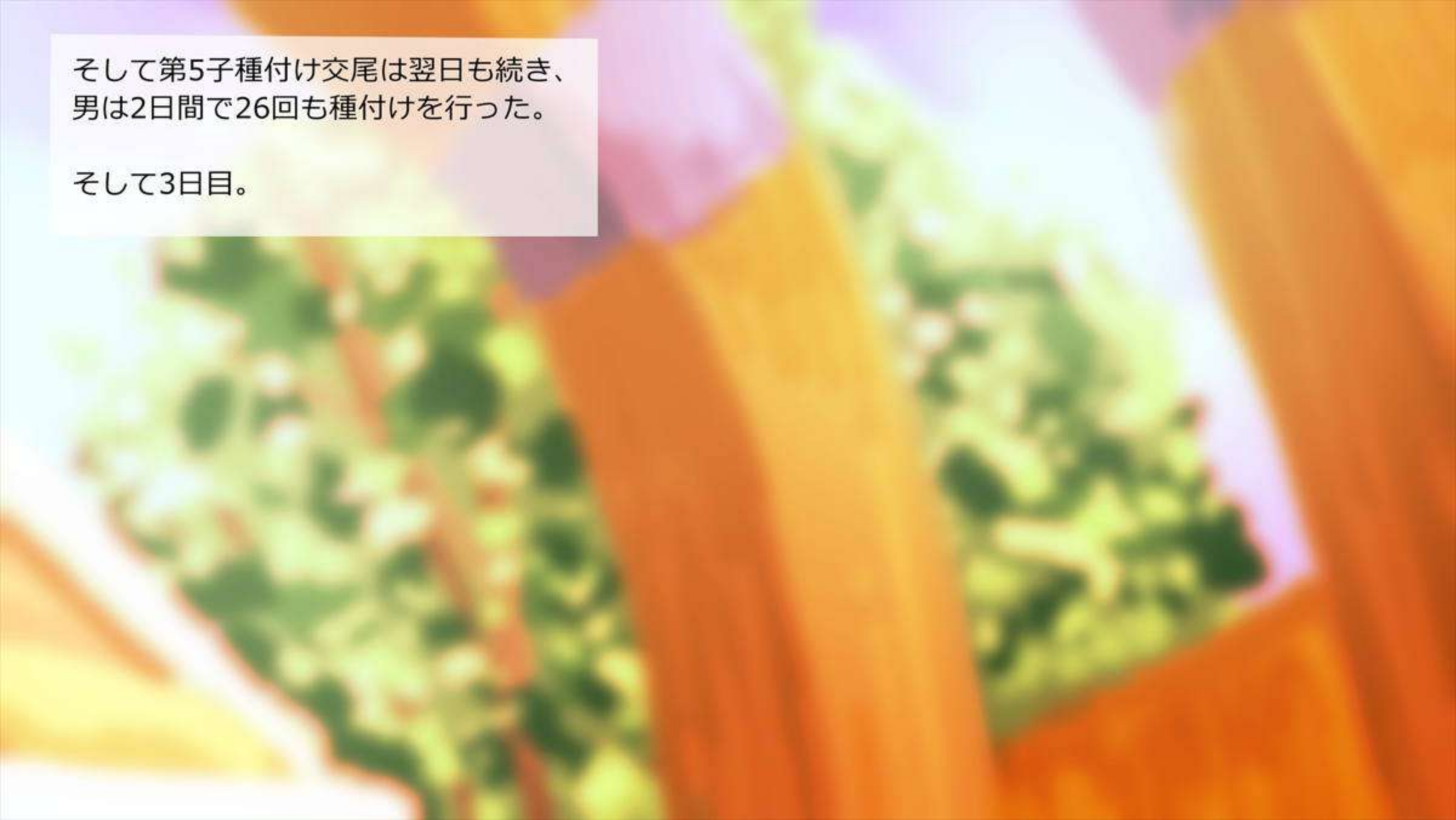
「ゼシカあああ～♡妊娠してくれえ～♡！  
まだまだ出すからあ…♡好きだあゼシカあ…！」  
…「んっ♡うっうっ♡受精するよおお♡  
こんなにだされてえ♡これだけでも絶対妊娠するっ♡」

どほっ！！  
どほっ！！  
どほっ！！



そして第5子種付け交尾は翌日も続き、  
男は2日間で26回も種付けを行った。

そして3日目。



まだまだ続く種付け。ほぼ3日間、  
交尾しながら、唇を重ね続けたままの二人。

（栄養のふだんに詰まった果実を愛でるように、  
男はゼシカの唇を堪能をやめず離そうとしない。

「ゼシカ確実に妊娠してくれよなっ♡まだ…出すから…♡」  
「ああ♡まだ出してくれるのお♡もう絶対妊娠してるよお♡」

「よ…四人も孕ませてるけどまた…  
妊娠してくれ…好きだゼシカあ…」  
「私もす…好きい…♡もっと精子出してえ♡」

「出る…出るよお…！ゼシカ…！♡  
ああああ！♡妊娠してゼシカああ！」

「あああ！はあ♡妊娠するううう♡  
孕ませてえええ♡！」

♡マンコを挿入して♡  
♡挿入して♡  
♡挿入して♡  
♡挿入して♡

♡グチャッ♡  
♡グチャッ♡  
♡グチャッ♡

♡グチャッ♡  
♡グチャッ♡  
♡グチャッ♡

♡グチャ♡  
♡グチャ♡  
♡グチャ♡  
♡グチャ♡

「うおおっ！ああ♡ゼシカの妊娠まんこに搾られてっ…！  
種付け射精が止まらないっ！孕んで…ゼシカっ…！♡」  
「はああ♡絶対もう受精してるのにつ♡また精子送られて  
托卵しちゃううう♡赤ちゃんまた作っちゃううう♡」

キスは続けている。大量に吐き出した精液。  
まだ腰を振る男。徹底的な種付け。

「はああ…！僕のことが好きですよ…ゼシカ様…！」  
「好きい…好きよお…♡んっ…ちゅう…♡」

ゼシカは男にまだ完全に心を許してはいないが、  
演技でもイチャイチャするうち、  
75%くらいは本心で男を好きになりかけている…。



ゼシカは5人目を懐妊。  
そして生まれたのは男児だった。

だが乳児の性別は、受精時の思いなどとは  
ほぼ無関係だろうし、第5子で男児が  
生まれたことはおそらく偶然だろう。

二人の周辺的には男児が生まれたことは  
良い結果にはなったが…。

そこは重要じゃない。なにしろ、  
二人の種付け生活はまだ続いていく…。



6人目の種付け。

排卵日に合わせてまた二人は  
子供を預けて宿を取り、種付けする。

いちゃいちゃごっこは続いているが、  
もうゼシカはほぼ本心で男に心を許し交わっている。



夕方。

「ああ♡おちんぼ気持ちいい♡  
すごくガチガチっ♡中にいっぱい  
精子がつまってるのねえ♡」

「おおお…ゼシカっ♡まんこの  
締めりがすごいぞっ♡やっぱりもう僕のこと  
本気で好きなんじゃないかっ♡  
今ももう演技じゃないもんな！」

「ぐう…♡そ…そうね好きかもね…♡  
早く次の子孕ませてほしいもん…♡」

「バニーガール経産婦まんこっ♡たまらんっ！  
早く中出し種付けして受精させたいなあ～♡  
早く出したいなあ～♡」

深夜…

「ああまんこ気持ちよすぎる…  
ゼシカとの交尾最高すぎる♡  
今から生で出しまくれるなんて…  
また種付けできるなんて！」

早く  
精子出して  
よお♡

「♡うっ♡うう♡早く出さないよお♡  
出せばいいでしょ♡待ってるんだから♡  
まんこにあなたの精液早く出してよお♡」

「で…でも本心を言わないと出さないぞ  
僕のこと本気で好きなんだろ?!」

ゴッ  
ゴッ♡

「そんな事いいから早く出さないよ…!♡  
私も妊娠準備できてるしっ♡  
あんたの精子も孕ませたくて  
ウズウズしてるでしょ♡♡あんっ♡」

ぶち  
ぶち♡

翌朝。

「ゼシカっ！演技じゃなくても  
もう好きなんだよな！？  
言わないと出さないぞお！」

妊娠する♡

妊娠するから♡

「はああ♡あうう♡出してほしいい  
ああ♡すっ…好きよ♡  
好きだよお…♡演技じゃなくてえ…♡」

「それが聞きたかった 僕も愛してるっ!!!  
ああやっと思えるっ♡  
孕ませたくて我慢できないっ♡♡」

「馬鹿っ♡早く！…早く妊娠させてえ♡  
卵子がずっとあなたの精子待ってるのお♡」

今なら絶対妊娠するから♡私の体全部…  
子宮が一番妊娠したくて仕方ないのっ♡」

「たっぷり種付けするぞ！」

「ゼシカっ！！妊娠してっ♡  
卵子で受け止めてっ！  
卵管まで大量に流し込むから！♡」

「妊娠したいっ♡受精したいい♡  
あなたの精子で妊娠させて私のお腹膨らませてえ♡  
次の赤ちゃんつくるのおおお♡」

「ああああ♡子宮が妊娠したがるっ♡  
精子欲しがってるの♡元気な卵子排卵してるっ♡  
受精したくて待ってるからああ♡」

子宮が妊娠  
したいがるっ♡  
絶対受精するっ♡  
出してっ♡

「おおおおお♡ゼシカっ出る！出るぞお！  
孕ませ精子っ子宮に全部出すぞお！！♡」

「おおおおおっ♡妊娠しろっ♡  
妊娠しろおゼシカああ♡！おおおっ♡」

「んあああああ♡はあ♡妊娠するう♡  
妊娠するっ♡ああ♡精子入ってきてる♡嬉しい♡」

「孕んでくれっ！ゼシカ…！  
次の子を…♡！

卵子で受け止めるっ♡♡」

ああ♡♡♡  
妊娠するう♡♡♡  
妊娠するう♡♡♡

ビュルルルル！

グ  
ビュルルル！

ドヒュルルル！！

「あうう♡受精するっ♡  
今から受精するよおお♡おまんこっ♡  
精子欲しくて全部まんこで吸ってるからああ♡」

「はあ…はあ…♡…私…嘘ついてた…♡」

「はあ…はあ…気持ちよかった…」

「はあっ…♡…嘘…？」

「私…あんたの事…  
好きってレベルじゃないのお♡」

「本当は大好きよお…本当に…  
大好きになっちゃったあ…♡」

「おおっ…♡ああああ♡ゼシカああ♡  
そんな…言われたら…  
やっど…やっど…！！」

出したばかりのペニスにたちまち  
硬さが戻り、さっきよりも硬くなる。

苦節6年、男はついに本当の意味でも  
ゼシカと結ばれたのだ…！

そして二人はその後4日間、  
40回もの種付け交尾を繰り返した…。

大好き♡♡

ゴビ♡

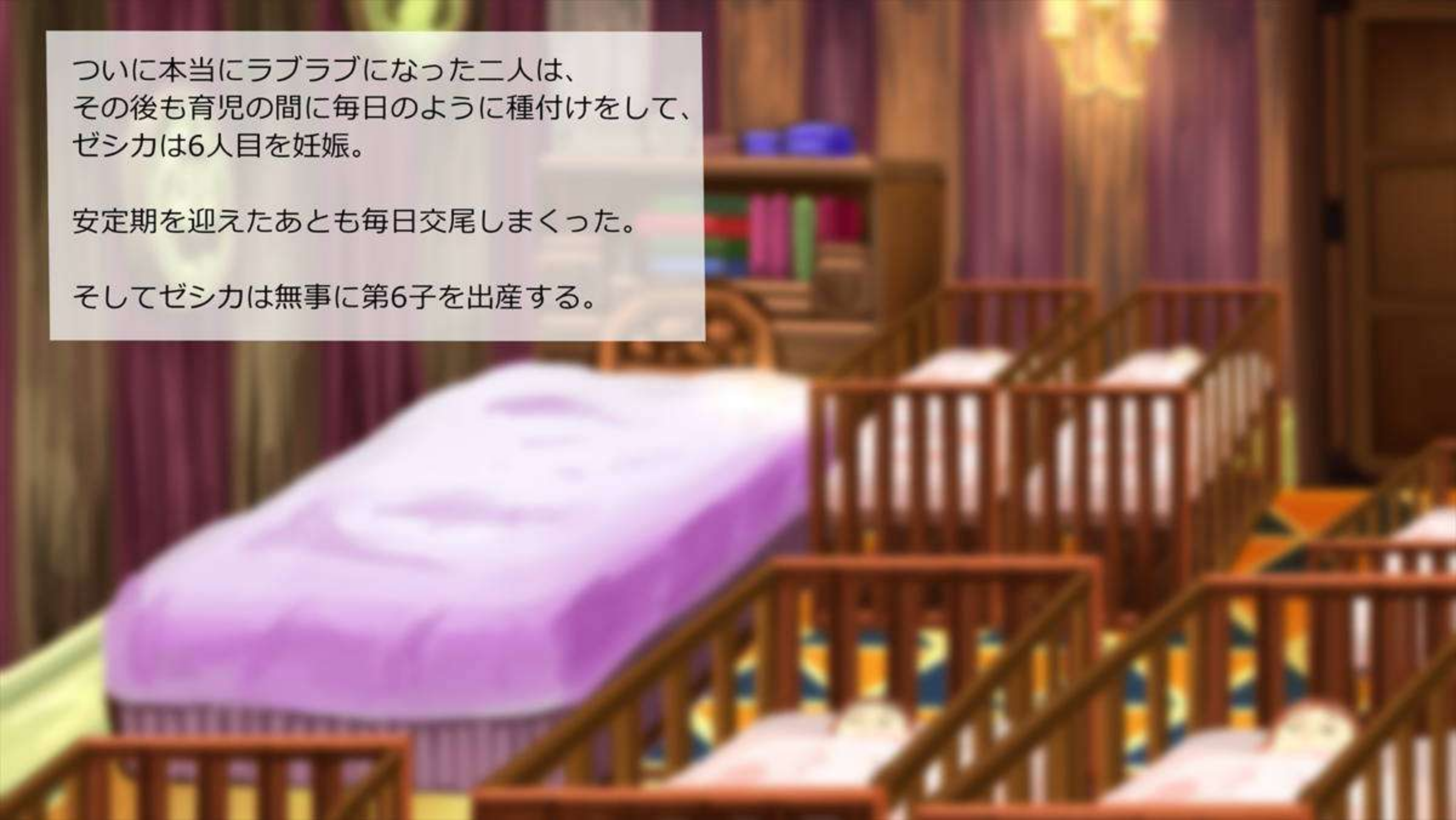
ゴビ♡

ホク  
ホク

ピキ♡

ギキ♡

ピキ♡

A warm, dimly lit nursery room. In the foreground, a bed with a purple blanket is partially visible. To the right, several wooden cribs are arranged, some containing babies. The room has a cozy atmosphere with soft lighting and a bookshelf in the background.

ついに本当にラブラブになった二人は、  
その後も育児の間に毎日のように種付けをして、  
ゼシカは6人目を妊娠。

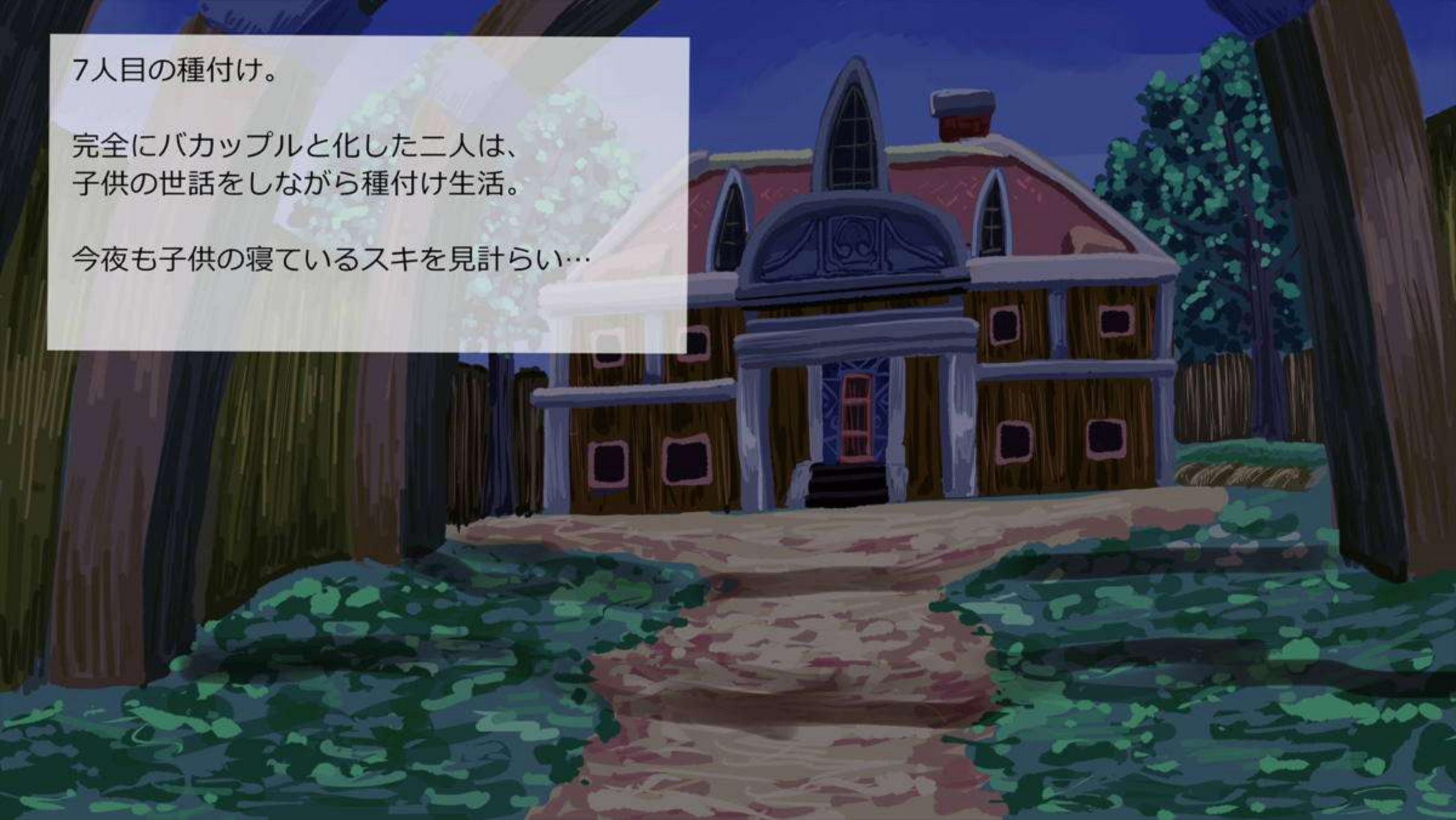
安定期を迎えたあとも毎日交尾しまくった。

そしてゼシカは無事に第6子を出産する。

7人目の種付け。

完全にバカップルと化した二人は、  
子供の世話をしながら種付け生活。

今夜も子供の寝ているスキを見計らい…





「はぁ♡あぁあぁ♡最初はすごく嫌いだっけど今は大好き♡  
あなたが好き♡ちゃんと子供たちの世話もしてくれるし私と協力してくれるし♡  
夜の相手も每晚してくれるし♡

だからまたあなたの子供が欲しいのっ  
本気で思ってるよお♡あなたの子供を産ませてえ♡一緒に育てたいのっ♡

「ゼシカっ…！絶対また妊娠させるからなっ！好きだぞっ！」

思えば長かった。だが、今ようやくこうして、ゼシカと本気で愛し合っている。

「妊娠させてっ！大好きっ！  
あなたの子供が欲しいのっ！！」







「はあああっ出るっ！出る出る！ゼシカの子宮に！  
何度も孕んで馴染んでる子宮に！

また孕ませ汁いっぱい出すよお！  
いっぱい！俺の妊娠精液送るよお！」

妊娠したい♡  
赤ちゃん♡  
また♡  
妊娠♡  
したい♡

「はあああああはああああう♡  
ああ♡いっぱい出してえ♡妊娠したい♡孕ませてえ♡

受精したいの♡あなたの赤ちゃん♡  
絶対今妊娠したいのおおお♡」

「ゼシカ♡ああああ！気持ちよすぎるっ！  
出る！ゼシカのまんこで気持ちよくなって出るっ！  
妊娠してっゼシカ！赤ちゃん産んでくれっ！」

「いっぱい子宮に精子出してえ♡赤ちゃん産ませてえ♡  
私とあなたの赤ちゃんつくらせてえ♡  
受精するから♡絶対妊娠するからあああ♡  
あああーっ！♡」



「あああっ！あああああ！ゼシカあああああ！  
気持ちいいっ！気持ちよすぎるっ！種付けしてる！  
中出ししてる！ゼシカを受精させてるううう！」

「はあああううう♡ダーリンの精子いいいいいい♡  
いっぱい子宮にきてるよおお♡  
ああああ♡気持ちいいいいいい♡」

「ゼシカ！ゼシカ！妊娠させてる！  
ゼシカを孕ませてる！ゼシカ！あああああ！」

「もっと♡もっと出してえ♡あああったかいい♡  
卵子まで♡卵子までいっぱい精子運んでええっ♡」

あまりの気持ちよさと、幸せで意識が飛ぶかと思った。  
今までで一番気持ちいい。あのゼシカに…本物のゼシカに  
受け入れられながら堂々と本当に種付けしてるなんて。

精子  
おっぱい  
おまんこ  
おまんこ  
おまんこ

トビユッ♡

トビユッ♡

トビユッ♡



「おうううううっ♡まだっ♡まだ出るううう♡  
ゼシカが好きすぎてっ…！  
止まらないっ…！♡おおお！」

「はあああああっ♡いっぱい精子  
入ってくるううう♡ああっ♡嬉しいっ♡  
私の事好きなのが伝わって…ああんっ♡」

「好きだよおゼシカっ♡だからまた  
妊娠してくれええ♡  
おおおっ…！お…！おおお♡」

「んっ♡ああああ♡妊娠するよお♡  
私も大好きだよお♡あなたの赤ちゃんっ♡  
今っ♡妊娠してるからあ♡」



「はあ…はあ…まだ出てるよお…ゼシカ…  
ほんとに…本当に好きなんだ…」

「んっ♡ああ♡気持ちいいよおお……♡  
あなたの気持ち…伝わってるよお…♡」

「あ…あ…ゼシカ…  
孕んで…妊娠して…」

「受精するよお…あなたの赤ちゃん♡  
大好きな…あなたの…」

「ゼシカっ…♡あ…あああ…♡  
好きだ…大好き…」

子育てももちろんしているが、  
今になってラブラブになった二人。  
二人きりになると生活は子作りのことばかり。

今までの分を取り戻すように、  
空いている時間が少しでもあると  
二人は体を重ね合わせた。



排卵日の期間は子ども達を  
使用人に見てもらい、  
二人きりで思う存分種付する。

今日も朝から二人だけの種付け交尾…。

今日はまた神秘のビスチェを着てもらい…。



「さあ今日も種付けするぞお♡」

「はやくあなたの  
種付けちんぽ欲しいなあ♡」

「うわっ やっぱしんぴの  
ビスチェの長手袋エロっ…!!」

ゼシカは男の乳首を指で弄びながら  
ペニスを手袋で掴んで挿入する。

「今日もいっっぱい♡出してよねえ♡  
排卵してるから♡人目妊娠  
準備万端まんこだから♡」

「大好きなあなたの子作り  
精子、まんこに全部ドピュドピュ  
お漏らじしなさいよね♡」



まず亀頭だけゼシカの熱く  
とろけるまんこに挿入。

「ああ♡入ってくる♡大好きな  
子作りおちんぼ♡」

「あ～あったかい♡ゼシカのまんこ  
何千回挿れても甘くて  
とろけそうに気持ち良いよ♡」

「わ…私も…あんたのおちんぼ…  
いつもいつも…気持ち良くて  
大好きなだから…あんたの事  
好きだから余計に気持ち良くて…!!」

「あ～ゼシカっ我慢できないっ!  
はやく子作りしようよ…!!」

あ♡  
おちんぼ♡  
大好きな♡  
おちんぼ♡

♡  
おちんぼ♡  
♡

おちんぼ♡  
♡



「私だってしたいんだからあ♡  
ほら♡もう半分…♡」

「あ～この光景エロすぎっ！  
長手袋がちんぽを握ってゼシカの  
まんこに導いてくれるなんてっ！」

「はあ♡もうすぐで入るよお♡  
排卵子宮とラブラブな  
キスしようね♡」

「ああ…！ゼシカ…！  
ゼシカのまんこ…！  
子宮っ…！おおおお！」



「はうううっ！」

「ほおおおっ！」

「はあ♡はあ♡全部入ったあ  
♡ちんぽとチュ〜してるよお♡  
これで種付け準備完了だね♡」

「ゼシカ…今日も  
いっぱい出すよお！  
20発くらい出すかも！」

あまっ♡♡  
入った♡♡

いっぱい  
精子♡♡  
出して♡♡

ズッ♡

「いいよお♡全部  
受け止めるから♡  
私をまた妊娠させて♡」

2人のラブラブ  
赤ちゃん、つくる？」

ズッ♡  
あまっ♡♡  
入った♡♡  
いっぱい♡♡  
精子♡♡  
出して♡♡

「ああ〜♡ゼシカ〜♡最高の光景だよっ♡  
ゼシカと交尾してる光景っ♡  
愛してるよゼシカ！」



あゝちゅっ♡  
ぬちゅっ♡

「んあっ♡んあ♡私も大好きい♡  
もっとおちんぼ動かさなさいよっ♡  
ポルチオ責めてえ♡そうそこお♡  
気持ち良くて排卵しちゃうから♡」

「いっぱい出すよっ！絶対妊娠させるから！  
全部出すから！あ おっぱい気持ちいいっ！  
あーゼシカ好きだっ！」

「ちゅっ♡ちゅ♡もっとキスしよ♡  
キスしながら赤ちゃんつくるのっ♡ちゅー♡  
あああそこおもっと突いてえ♡」



ちゅっ♡  
ちゅっ♡

ちゅっ♡ちゅっ♡

んちゅっ♡

レニッ  
フニ

30分後。

「べろお♡べろお♡れろお♡  
ああ♡大好きい♡  
もっとペロチューしよ♡  
あは♡もっと硬くなってきた♡」

「ゼシカのおっぱいと母乳と！  
カラダのふかふかの感触最高♡  
しかもディーブキスしながら！  
生であったかまんこ交尾しながらっ！」

「いまっ♡排卵してるよ♡  
あなたの精子待ってるから♡  
はやくおちんぼドビコドビコしてえ♡  
私のまんこにお漏らししていいから♡」

「ああああ！ゼシカ！たまらんっ！出すよ！  
絶対孕ませるから！絶対命中させるから！  
大好きなゼシカの卵子っ受精させるからな！」

さらに40分後。

「もう出すっ！ゼシカっ！妊娠させるっ！  
ゼシカのまんこで生射精するからっ！  
ゼシカのこの気持ちよすぎるエロまんこで！  
精子出しちゃうからっ！」

「ああ大好きい♡あなたの精子っ♡熱いの  
はやく出して♡全部私のまんこにちょうだい♡  
子宮で飲み干して受精してあげるから♡  
赤ちゃん作りたいのおお♡」

「ゼシカっ！出るよっ！妊娠させるよ！  
種付けするよ！子供っ産んでくれっ！  
二人の子供受精してくれっ！ああっあああっ！」

「出してっ！妊娠させてえ！あなたの赤ちゃん産みたいっ！  
あなたの赤ちゃん作りたいのおお！出してえ孕ませてえ！  
おちんぼドピユドピユまんこで精子お漏らししてえええ！」

「はうっ！ああああ気持ちいいっ！！  
まんこめっちゃ締まってっ…！  
ああああめっちゃ出るううっ！」

「ああああ♡出てるううう！排卵まんこに  
種付け精子いっぱいっ！ああっああっ！  
気持ちいいっ！ああ♡排卵してるっ♡  
精子来るの待ってるっ♡」

あああああ〜！！  
あ〜！！  
受精するっ♡

「ああ♡ゼシカとキスしながら種付けっ♡  
最高すぎるっ♡あ〜天国だっ♡ゼシカと  
子作りしまくれるなんてっ！  
ゼシカ！俺だけのゼシカ！！」

「んああ♡私もあなたと子作り出来て幸せ♡  
ラブラブ種付け♡今っ♡三人の赤ちゃん  
受精してるよおお♡」

♡♡♡♡♡



「はあっはあっはあ…最高だった…  
今でも信じられない…ゼシカと  
子作りしてるなんて…♡」

「ちゅっ♡ちゅ♡ちゅ♡何言ってるの  
愛し合ってるんだから当たり前じゃない♡  
まだまだ出来るよね♡もっと裸であなたと  
愛し合いたいな♡あなたとの子供…  
愛の結晶作りたい♡ちゅ♡」

「ああああ～♡ゼシカ…♡もう一生抱き続ける…！  
一生愛するよお♡ずっとゼシカとセックスして…！  
もっと子供作るから…！」

「へへ♡嬉しいな♡ちゅっ♡私ももっと  
妊娠したいな♡大好きなあなたの赤ちゃん♡♡  
もっと作って産みたいから♡  
ちゅ～っ♡もっと種付けしよ♡」



その後も5発も種付け射精し、  
すっかり夕方に…。

(ゼシカの甘い吐息が至近距離で感じる。  
俺は世界一の幸せ者だ…！)

勃起は硬さが衰える事がない。  
今度は寝バックで種付けする。

ゼシカをうつ伏せに寝かせて…。

「あ～やっぱり神秘のビスチェ  
後ろもエロ過ぎるっ！  
この尻のガーター紐が  
エロすぎて堪らん！」

「はやく♡まんこっ  
妊娠したくて待ってるから♡  
5、6発じゃ全然足りないっ♡」



30  
Bっー

「はあはあ…。その前に  
ゼシカの尻を  
堪能しないと…。  
すごくいい跳めだ…。  
綺麗な尻…♡」

むわっ♡

「もお～お尻もいいけど  
精子タブタブで子宮  
膨らんでるんだからっ♡  
もっと注ぎなさいよお♡」

ぱんぱん

ぱんぱん

男は尻肉を開帳する。

「あ〜このムチムチの  
弾力っ♡うほ♡  
可愛いアナルと  
まんこが丸見えっ♡」

「やっ♡開いて  
見るなっつーの！」

「あ〜ゼシカのアナルっ！  
いつ見ても綺麗だ…  
まさかゼシカのアナルを  
この目で拝めるとは…」

「ジロジロ見ないでっば！♡」

むにっ♡

ぴらっ♡

ぶにっ♡

「ちょっとお! もっと  
拡げて見るなっつーの!」

ムニイ~~~~♡

「シワの一本一本まで  
綺麗だよね…  
色も綺麗なままだし…♡」

「ちょっと…いつも  
恥ずかしいのよ?  
こんなにジロジロ見るの…」

キュッ♡

「れるっ!!」

「ひゃうんっ!!」

びくんっ♡

「れるっ!じゅぶっ!  
べるれる!」

「もおっ ほんと  
舐めるの好きよねえ...♡  
あんっ!」

わっ...♡



「ちゅばっ!ちゅぽ!じゅぽ!」

「ひあうっ!もおっ…あんっ…  
くすぐった…いっ♡  
んあっ、きもひいいっ♡」

ちゅっ♡

ちゅぽ♡

「ああーいつも思うけど  
ゼシカの尻穴に  
こんなこと出来るなんてっ♡」

「あんっ♡ああ♡気持ちいいけどお♡  
はやくおちんぼ挿れてえ♡  
精子ドピュドピュして  
欲しいのお♡あんっ♡」

ちゅぽ!!



「ほらほらっ！  
ひゃくれつなめ！」

「ひあっ！ああんっ！馬鹿！  
気持ちよくなるだけだから！」

「あああ俺は！ゼシカの  
アナルを舐めまくっているっ！  
あのゼシカの！」

「もう何万回も舐めてるくせに  
未だに感動できるってすごいわ…。  
もお早くセックスするわよっ！  
セックスしてっば！しょ！」

「あ～ゼシカからセックスの  
おねだりをして  
もらえるなんて最高…。」

びく！びく  
びく♡

LO ハロ ハロ

LO ハロ♡

「はあっ…行くよお…  
ああ気持ちいい!!」

「あうう♡入ったあ♡大好きな  
あなたのおちんぼお♡」

「はあ♡  
おちんぼお♡  
いっぱい精子  
出して♡」

「あ～ゼシカのお尻の感触  
たまらないっ♡気持ち良過ぎるよ  
寝バック…!この羽も  
またエロくて最高だね♡」

「いっぱい突いてえ♡気持ちよくなったら  
ドピュドピュしてえ♡子宮  
膨らませて待ってるからあ♡」

アッ…  
B…  
B…

1時間後。「あああ～もう気持ちよ過ぎるっ！  
ゼシカの尻の感触を味わいながら寝バックで  
排卵中のゼシカに全力で  
種付け出来るなんてっ！天国過ぎるっ！」

「私もお♡寝バックすきい♡良い所に当たるのっ♡  
ずっと気持ちいい♡こんなに気持ち良く  
なりながら子作りしたら子作り  
やめられないっ♡ずっと孕んじゃううっ♡」

「あああ～ゼシカっ♡出すよっ♡  
ゼシカのまんこっ  
もっと満たしちゃうよっ♡」

「出して出してえ♡妊娠させて！  
絶対に赤ちゃん産ませてえ！あなたと  
私の赤ちゃん欲しいっ♡いっぱい私の  
まんこにお漏らしてえ！！」 「あああゼシカ！出るっ！！」

いっばい  
出して♡♡  
妊娠  
させて♡♡

ドス！  
ぬちっ！

♡♡♡  
♡♡♡

ぬちっ♡  
♡♡♡

グシッ！  
グッ！



「あああ♡あ～♡気持ちよくなって  
死にそうっ!! 寝バック射精で  
種付けっ! ゼシカに種付けっ!!」

はぁっ♡あぁあ～♡  
あはあ～♡

「ひいひいあっあぁあっ! すごっ♡  
すごいひいひい♡ドバドバ精子  
入ってくるうう♡子宮どんどん  
あったかくなってっ♡」

「でっかい尻に密着して中出しするだけでも  
すごい快感! ゼシカの2つの尻肉が  
ちんこを挟んで、ふかふかの大陰唇も  
竿を絞りまくって快楽で昇天しそうだっ!」

「はぁあ♡種付けされてるうう♡  
ダーリンに子宮満たされてる感覚っ♡  
幸せすぎて最高っ♡」

どほっ!

あはっ♡

どほっ!!  
あはっ♡

「はあ♡はあ♡はあ♡」

はあ♡  
はあ♡  
もっといっぱい  
中に出して♡

「んん〜♡寝パック  
気持ちいい〜♡もっとやってえ♡」

「いくらでもやるよ…♡」

「いっぱい私のまんこにシーシー  
お精子出してね♡絶対妊娠したいから…。」

ぐち♡

フニ♡

キュン

ぎゅ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

3時間後。

体位を変えながら4発の射精をキメて、  
まだまだ種付け交尾は続く…。

「はあっはあっはあ！れろれろべろっ！  
あ〜キスしながら寝バックで  
ハメられるなんて最高っ！」

じはんっ！ じはんっ！

「れろれろっ♡もっとチューしよっ♡  
あなたの唾液もって飲ませてっ♡  
精子も飲ませてっ♡」

「おしりのふわふわっ！包まれる盛りマンの  
柔らかさ！ゼシカのエロ顔！  
べろチューしながら種付けするっ！」

「精子出してえ♡赤ちゃん汁♡  
子宮にジョボジョボ注いで欲しいの♡  
あなたのおちんぼで私を妊娠させて欲しいのっ！！」

精子♡  
おちんぼ♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡

♡

♡

♡

「ゼシカの可愛い顔っ！大きなおっぱい！  
エロい体！見てキスしながら！妊娠させるよ！  
俺の子！孕ませるよ！精子ゼシカに  
中出ししちゃうよっ！！」

はぁあ〜♡

種付け  
して〜♡

孕ませ〜♡

「いっぱい出してえ♡全部出してえ♡あなたの  
赤ちゃん欲しい♡受精させて欲しい♡卵子に  
あなたの精子命中させてえ♡全部受け入れるからっ♡」

「ゼシカっ出すよおっ！妊娠してっ！  
受精して着床してっ！俺とゼシカの子供っ！  
産んでくれっ！♡ゼシカと子供つくるっ！」

「大好きい♡大好きなあなたのっ♡子供育てるからっ♡  
愛しいおちんぼでビュービューして♡私のおまんこで  
気持ちよくなって！いっぱい種付けして！孕ませてえ！」

ごっほ！  
ごっほん！

77°♡  
77°♡  
77°♡

たぶ♡  
たぶ♡  
たぶ♡



「うおっ！うおおお！出てるっ！  
出る！気持ちいい！ゼシカとキス  
しながら種付け射精っ！あ～ゼシカの  
まんこ気持ちよすぎいいい！」

もっ♡  
もっ♡  
もっ♡

「んんあああ♡熱いのいっぱい♡  
はああああ♡気持ちいいよおおお♡  
もっと、もっと出してえええ♡」

「全部出すよっ！ゼシカの子宮に  
全部出す！あ～ゼシカと子作り  
してるなんて！種付けしてる  
なんて幸せ過ぎる！」

「ああ♡精子っ♡お漏らしみたい  
いっぱい出てるっ♡絶対妊娠しちゃうっ！  
排卵してる卵子っ♡あなたの精子  
欲しくて待ってるの♡はやく受精させに来てえ！♡」

どほほっ！♡

どひゃっ！！

どひゃっ！！



その後も夜通し交尾を続け、  
19回分の精子が子宮を膨らませていた。

1日ぶっ続けの種付けも、  
いよいよ終わろうとしている。

「あ～母乳も美味すぎる！唇も！  
まんこも！ゼシカ全部美味しいよお！  
ゼシカのミルクっ！♡」

「おちんぼミルク出して！おっぱい  
飲ませてあげてるから私にも  
赤ちゃんミルクもって子宮で飲ませてえ！」

たーんっ

たーんっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡

いっぱい  
精子  
ちゅっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡

ぬち  
ぬち

「あ～大好きだよおゼシカっ♡  
愛情精液、最後にすっごいの飲ませるよお！  
全身全霊でゼシカに種付けするよお！」

「いっぱい、いっぱい飲ませてえ！  
赤ちゃんつくるから！大好きなあなたの  
赤ちゃん、受精して産むからあ♡  
いっぱい出してえ♡ああ愛してるっ♡」

っっっ

っっっ♡

「俺も愛してるよおお…ずっと好きだったんだよおお…ずっとずっと…!! あ〜ゼシカとセックスしてるっ! 子作りしてるっ!!」

「ん〜好き好き大好きっ♡早く精子出してえ♡  
(私のおまんこにあなたの精子いっぱい注いでえ♡2人の赤ちゃんつくろっ♡)」

赤ちゃん  
つくろ♡

LO  
LO♡

LO♡  
LO♡

「ゼシカの体っ! まんこっ気持ち良過ぎる! キスっ 唾液っ甘過ぎるっ!♡体臭っ♡甘過ぎるっ♡ゼシカとのセックス天国過ぎるっ!」

「ダーリンっ♡もっと突いてえ♡  
もっと動いてえ♡もっとおちんぼ動かしてえ♡  
いっぱいおまんこ締めて気持ちよくするからあ♡」

T=30ん

77♡

77♡

1452

77♡

30分後。「あ～やばい出る出るっ！大好きなゼシカに  
いっぱい精子出るっ！妊娠っ！妊娠してくれ！  
ゼシカっ！俺の子を産んでくれっ！」

妊娠させなっ♡

赤ちゃん  
産ませてっ♡

あぁ♡

「うおおっゼシカっ！出るっ！出る！  
孕んでっ！受精してっ！妊娠してくれっ！  
ああああ！出るううっ！」

「いっぱい！いっぱい出して！まんこにっ！  
気持ちいい精子っ！いっぱいかけてっ♡  
受精するからっ♡あなたの赤ちゃん  
つくらせてっ♡！」

「出してっ♡大好きなダーリンの精子っ♡  
いっぱい中に♡思いっきり全部♡最後まで  
沢山出していいからっ♡あなたの精子でっ  
絶対妊娠させてっ♡」

ぶっぶっ

ぶっぶっ♡

がががが  
がががが  
がががが

がががが  
がががが  
がががが

「うっ! ああ! 射精してるっ! ゼシカの子宮に  
生で思いっきり! 排卵中のゼシカに  
今全力で種付けしてるっ!!」

「はああ♡気持ちいいっ♡おちんちん  
ピクピクッ♡気持ちよさそうに  
精子お漏らししてるっ♡もっと  
ドバドバだしてえ♡卵子に命中させて♡」

「全部出すからっ♡全部受け止めてくれゼシカっ♡  
ゼシカとセックスするのっ、子作りするの  
気持ち良過ぎる! ゼシカの体、  
何回抱いても最高すぎるよっ!!」

「気持ちいいでしょっ私のまんこっ♡  
私と交尾するの気持ちいいでしょっ♡  
妊娠させてくれるの待ってるから♡あなたの  
赤ちゃんの素、もっとまんこに吐き出してえ♡」



「はー♡はあっ♡今日も最高だったあ♡  
絶対子供出来てるっ♡こんなに射精して…  
大好きなゼシカに…♡」

「私も…こんなにダーリンの精子もらって…  
絶対妊娠してると思う…♡すっごく  
気持ち良かったし♡愛情いっぱい感じたし♡  
卵子も子宮もすっごく喜んでるもん♡」

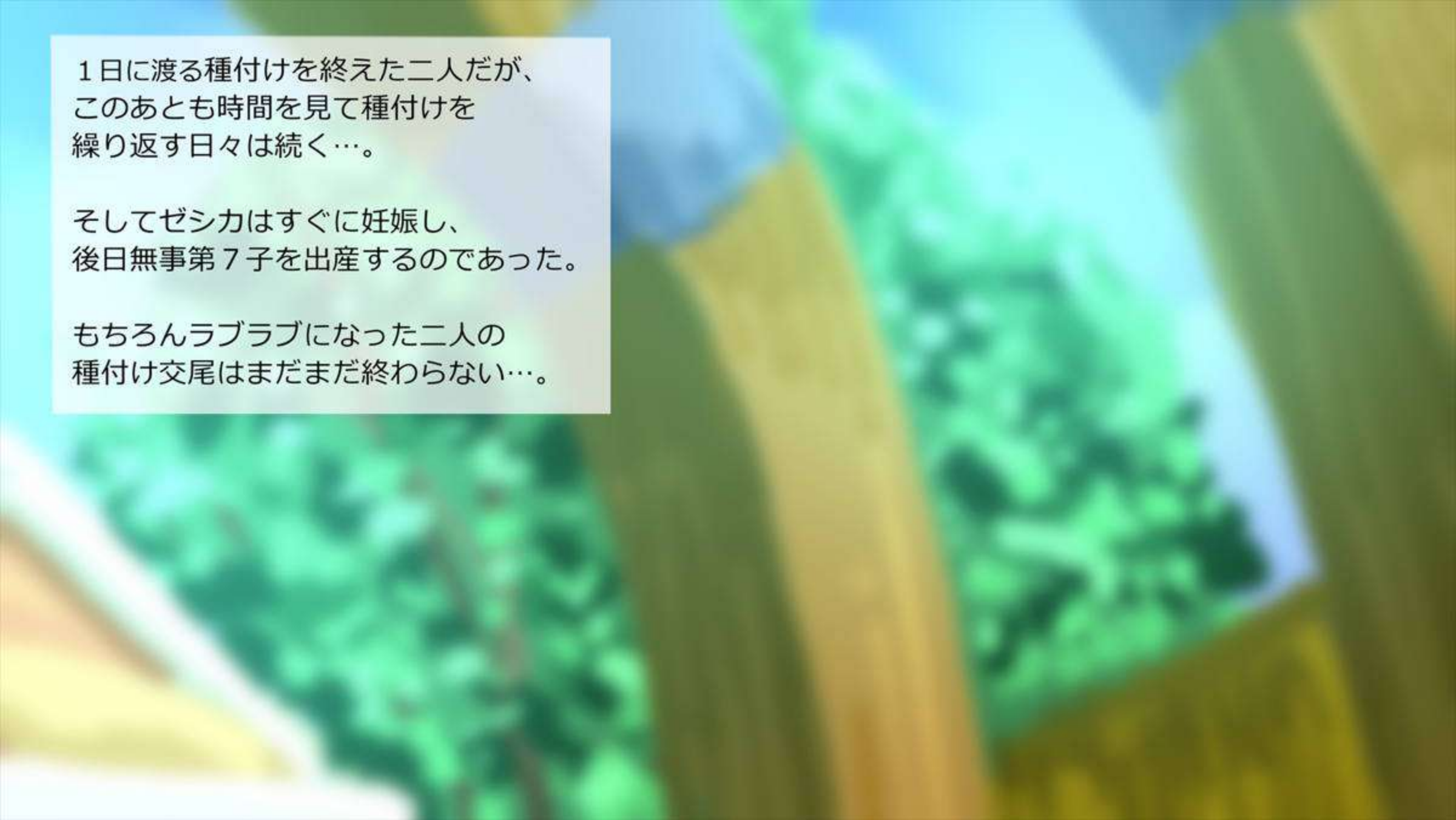
大好き♡

「まだまだ妊娠するまで  
交尾しようなっ♡ゼシカ！  
何回も種付けするから♡」

「嬉しい♡私も妊娠したい♡もっともっと  
赤ちゃんの素、子宮に送ってえ♡  
精子、私のまんこに出してね…♡大好きよ…♡」







1日に渡る種付けを終えた二人だが、  
このあとも時間を見て種付けを  
繰り返す日々は続く…。

そしてゼシカはすぐに妊娠し、  
後日無事第7子を出産するのであった。

もちろんラブラブになった二人の  
種付け交尾はまだまだ終わらない…。

8人目の種付け。

親としては失格かも知れないが、  
もう子どもたちを預けて、  
1ヶ月も交尾しかしていない二人…！

いよいよバカップル化は止まらず、  
交尾のことでいっぱいになってしまった。

「また出すぞおっ！♡ゼシカあ  
孕ませ種付けええ！♡」

「んっ♡んん♡早くもっと種付けしてえ♡」

ぬぼっ！ぬぼっ！

ズッ♡  
ズッ♡

♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡

「ゼシカっ♡俺も  
ずっと種付けしてたい…」

「はやくもっとダーリンの  
愛情精液子宮に注いでえ♡」

♡ちゅ♡♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡♡ちゅ♡

♡ちゅ♡♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡♡ちゅ♡

♡種付けしな♡  
♡ダーリン♡

「んうう♡んう♡好きだよお♡  
いっぱい精子ちょうだあい♡」

「ゼシカ♡出すよお♡  
今日もいっぱい♡」

「今日も準備出来てるよお♡  
また卵子が待ってるから♡  
ダーリンの精子おねだりしてるから♡」

「ああ♡ゼシカ♡俺の精子も今すぐ  
ゼシカの卵子と一つになりたいくて  
ウズウズしてるよお♡  
今から沢山出すからなっ♡」

マポッ♡

ズブ♡  
ジュポッ♡

マア♡  
マポッ!♡

ハッ♡  
LO♡  
ベチ♡  
ベチ♡

ベチ♡

精子いっぱい♡  
子宮に  
ちょうだい♡

♡

「はあうっ♡ああああ♡ゼシカあ♡  
出るよお8人目っ！孕ませるよお♡」

「はやくっ♡はやくう♡赤ちゃんほしいっ♡  
精子送ってっ♡大好きなダーリンの精子っ♡」

「ゼシカあ♡いっぱい出すからな♡  
愛してるぞゼシカっ！♡

俺の精子でまた妊娠するんだぞ！  
おっ！おっおっ！お！あああ！」

「はああ♡ダーリン愛してるっ♡  
私の卵子に精子ちょうだい♡  
また妊娠する♡妊娠させてえ♡

お腹膨らまさせてえ♡はああ♡  
あっ！あっ！あ！ああああ♡」

ドキョッ!

ドキョッ!!

ドキョッ!

あは♡  
妊娠したい♡  
赤ちゃん産ま♡

精子いっぱい  
出して♡  
まんにドピュドピュ  
して♡

「んおっ！おおおおおおっ！  
お！あああああ！」

「はああああううう  
あああっ！ああああ！」

どっ！おっ！  
おっ！

どぼどぼ  
おっ！！

「おおお！ゼシカっ！  
ゼシカ！ああああ！」

「んああああっ！来てるっ…  
熱いのが…たくさんっ…  
私の子宮に…来てるっ♡♡♡」

どっ！！♡

ああ♡あついの♡  
いっはい  
まてぶっ♡

アミ♡

精子♡  
もっと♡  
もっとまんこに  
出してん♡

「うぐっ…！おおおおお…  
妊娠っ…妊娠しろっ…ゼシカ…！」

「あっ♡はあぁあっ♡妊娠するっ♡  
妊娠してるっ♡8人目妊娠してるっ♡  
今受精してるよおおお♡」

びだ！どほほ！

「まだ出るぞ！いっぱい出してるぞ！  
ゼシカの子宮に…孕ませてるぞ！」

「うんっ♡受精してる♡  
あなたの子供また妊娠してるっ♡  
大好きなあなたの…♡」

「ゼシカっ…あぁあぁあ…  
好きだっ…あぁあぁあ！」

あ♡あ♡  
妊娠してる♡

受精してる  
おめ♡  
赤ちゃん  
できてる♡

「はあっ!はあ!はあ!はあ!」  
「まだ出てるね…」

「もっと出せるぞ…」  
「そうだよね♡もっと出して  
ほしいな♡2回戦…しょ♡」


「ああ…愛してるよ…  
幸せだ…ゼシカ…」

「私もよ…愛してる…♡こんなこと  
になるなんて思わなかったけど幸せ…  
はやく子供つくる♡」

「ゼシカ…ああっ♡」

もっと  
交尾しょ♡  
もっと子供して♡  
種付けしてねえ♡  
だーいん♡





ゼシカは8人目を妊娠する。

妊娠後もセックスはやめられない。  
合間を縫って交尾を続ける。

ようやくゼシカとラブラブになれたし交尾も  
受け入れてくれるのだ…。交尾をやめられる訳がない。

そしてゼシカ無事に8人目の子供を出産する…。

俺は子供達に囲まれる生活を送りながら、  
またゼシカと子作りを始める。

まさかこんなふうになぜシカと8人も  
子供を持てるとは思わなかった。

それはこれからも続いていくだろう…。  
もうあちらの世界に戻るつもりは一切ない。

俺は排卵日のゼシカと裸で抱き合って、  
生ペニスを挿入する。  
そしてまた、交尾を開始した…。



END



じゅわん  
じゅわん

じゅわん

じゅわん

ちゅぷ

ちゅぷ















はああああ

ひくひく

ひくひく

ひくひく

ひくひく

ひくひく

ひくひく













くじっ

ズンッ

くっ  
くっ  
くっ

くっ  
くっ

くっ  
くっ  
くっ

くっ  
くっ

くっ  
くっ

くっ  
くっ





























あぁあぁあぁ♡

いいからあぁ♡

魔法解くから♡♡

ドズ!

ドチュ!

ド!

ドチュ!

ジュポッ!

ジュポッ!

ジュポッ!























ボウ...

ビシッ!

ビシッ! ビシッ!

ビシッ!





ん

♡

3030 ♡

ニ  
3030  
B





ズンズン♡

ズンズン♡

んんん

ふんふん♡  
ふんふん♡

しゃほ!

しゃほ!













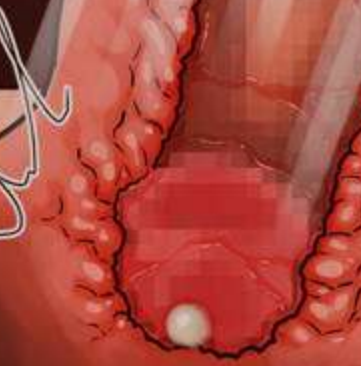
アハッ! アハッ!

アハッ♡ アハッ♡

アハッ!

アハッ! アハッ!  
アハッ! アハッ!♡

アハッ... ああぁ!!







7ニヤ♡  
7ニヤ♡

4ニヤ♡

ドキョ!!!  
ドキョ!!!

ドキョ!!!

おあおあ♡ 妊娠 (ちやぢぢ)!!♡

87°♡ .. 87°♡



하하하!

하하하!

하하하!

하하하!

하하하!

하하하!

하하하!

하하하!



C! C!

3! 3!

77!

ち+ほ!

ド+ド!

ド+ド!

ド+ド!

あま+あま!

始振してる...♡





あふれあふれ!

あふれあふれ!

あふれあふれ!

あふれあふれ!

あふれあふれ!

あふれあふれ!

あふれあふれ!







ドスッ! ドスッ!

ドスッ! ドスッ!

はあ! はあ!

はあ! はあ!

はああ♡

ドスッ♡

はいはい♡  
出して♡

妊娠するから♡  
あ♡♡♡



ま〜お〜め〜ん〜  
♡♡♡♡♡

熱い♡  
精気♡

いっぱい♡  
中に♡

お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜

♪♪♪

♪♪♪

♪♪♪







おっぱい  
飲む

ん、ん、ん

ん、ん、ん

はあ

はあ♡

さっさと

さっさと

ん、ん、ん

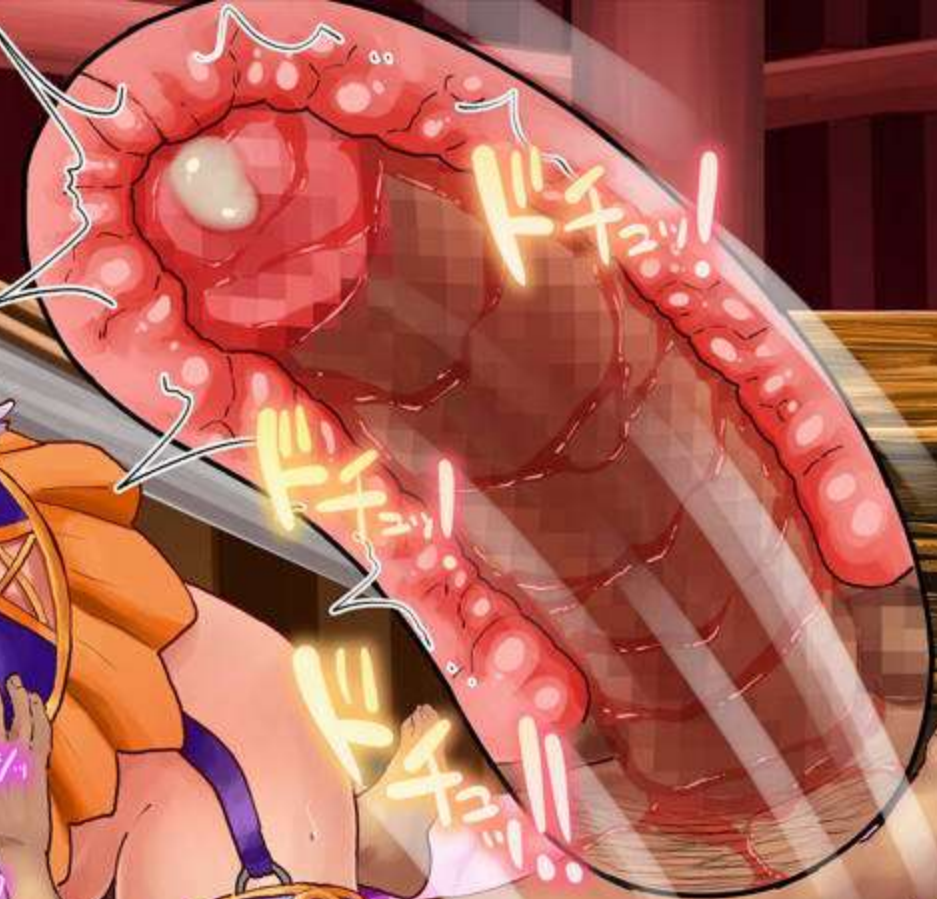
♡







あああ  
ああ〜♡  
いい精子  
出して♡♡



ドキッ!  
ドキッ!  
ドキッ!

ドキッ!  
ドキッ!  
ドキッ!

びびり♡  
びびり♡  
びびり♡





また  
種付け  
してえ♡

はあ♡  
はあ♡

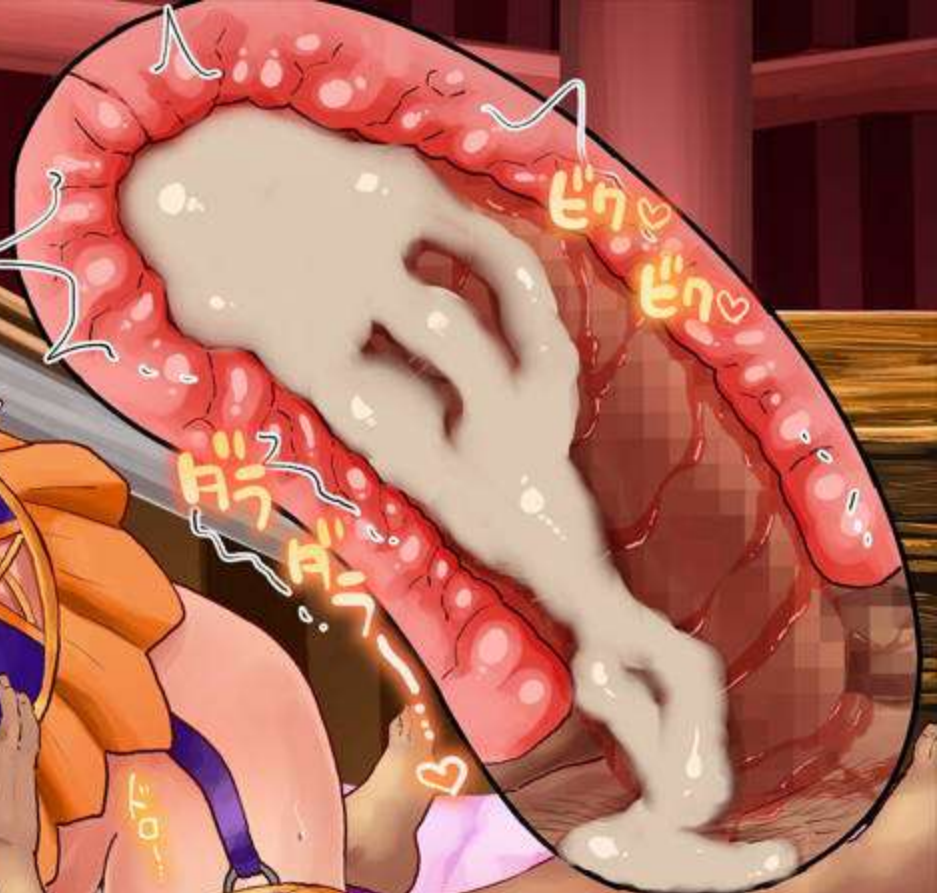
たふっ♡

LO LO  
LO LO♡

あは♡  
あは♡

んん♡

あ♡



ん♡  
ん♡

んん♡  
んん♡

♡





ドキドキ♡  
ハート♡  
ドキドキ♡  
ハート♡  
ドキドキ♡  
ハート♡

ドキドキ!!  
ドキドキ!!  
ドキドキ!!

ドキドキ!!  
ドキドキ!!  
ドキドキ!!

ドキ  
ドキ





どほっ!  
どほっ!

どほっ!  
どほっ!

どほっ!  
どほっ!











早く精子出して  
よおん♡

早く精子出して  
よおん♡

ズン  
ズン♡

ザン  
ザン

ザン  
ザン

ズン  
ズン♡

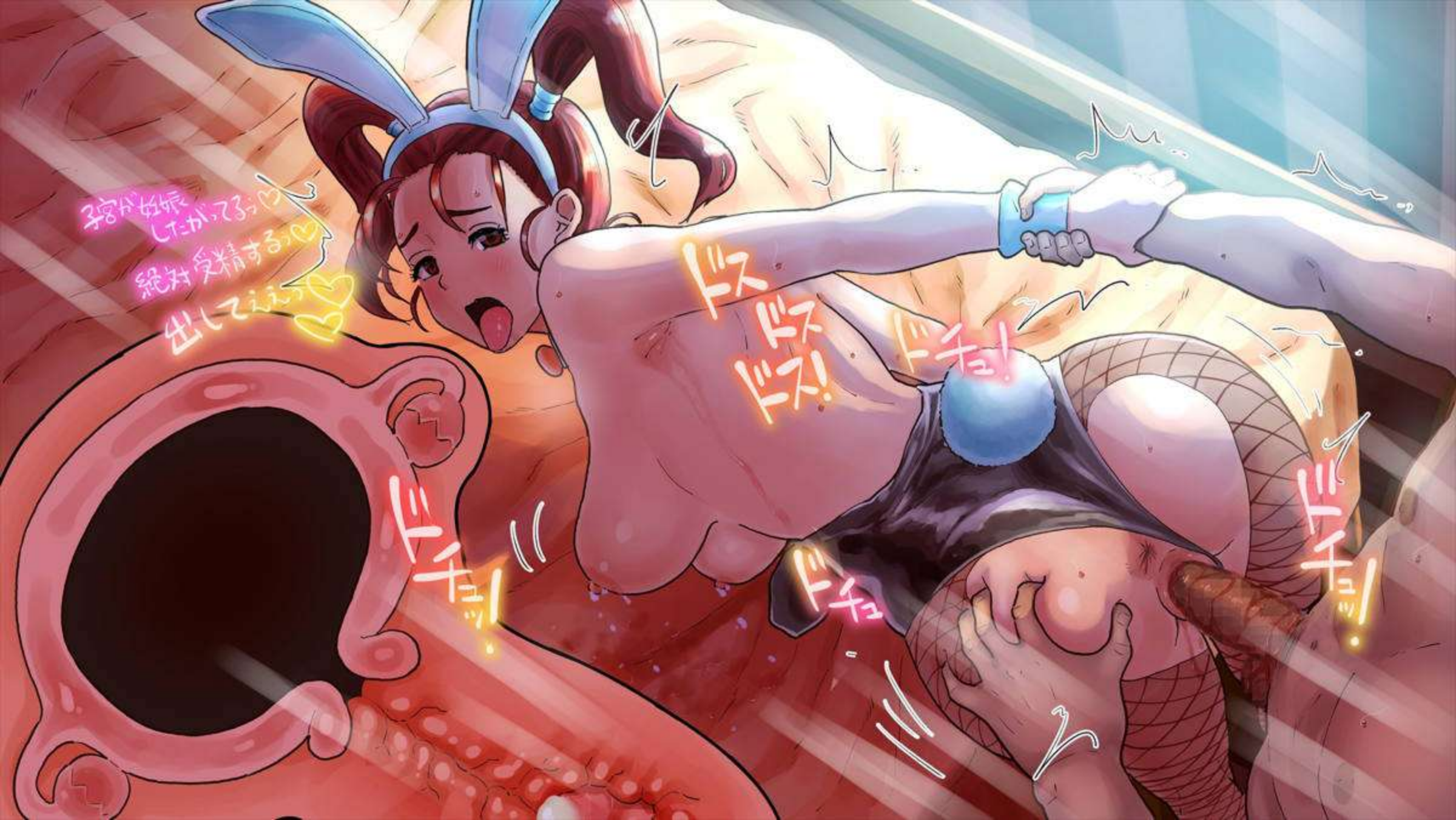


妊娠する♡  
妊娠するから♡

チビッ♡  
チビッ♡

チビ♡  
チビ♡

チビッ!  
チビッ!



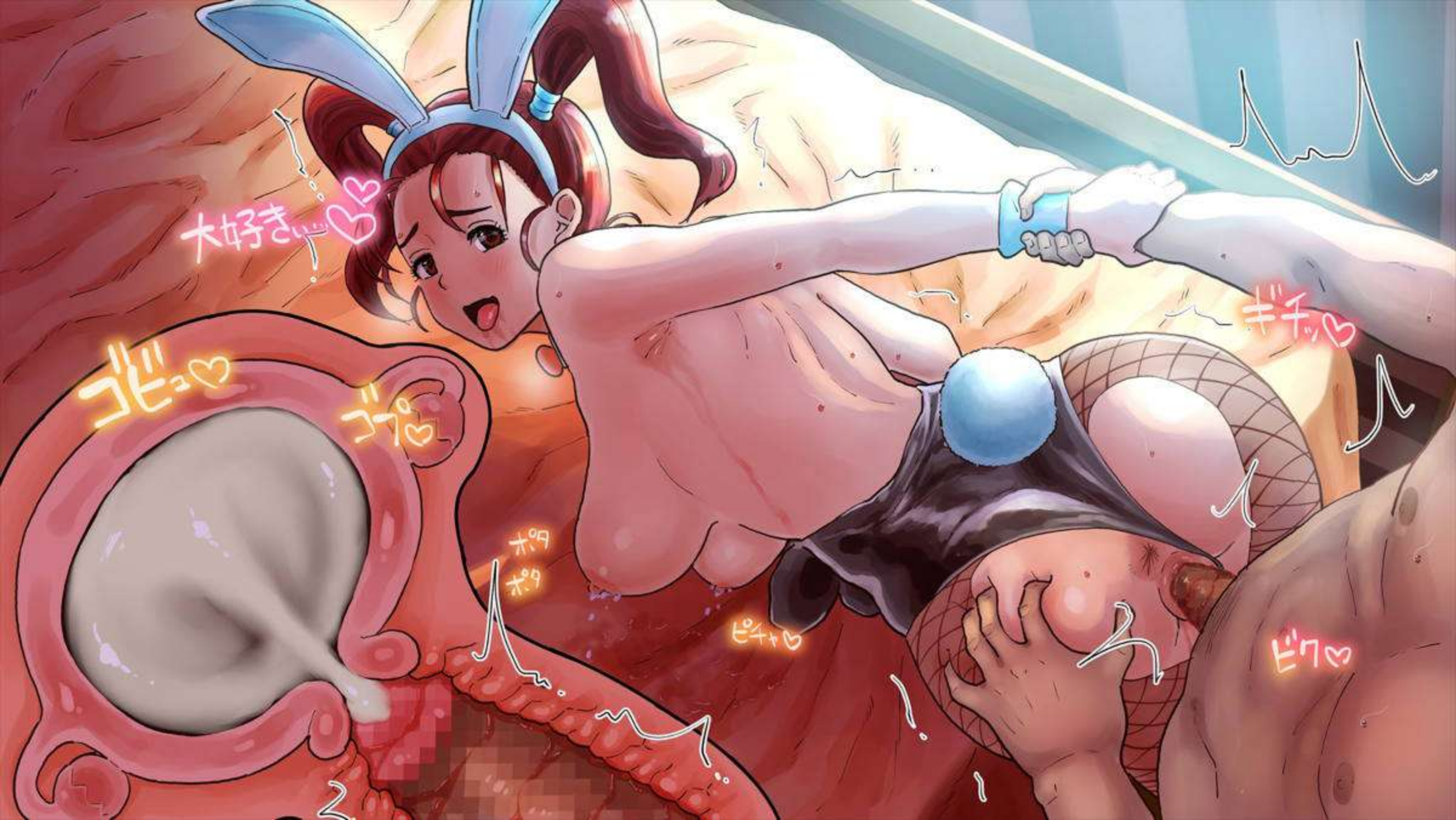


あぁ〜♡  
妊娠するっ♡  
妊娠してるっ♡

セッパッパッ!!

ドクドク!!

ドクドク!!



大好き♡

♡チ♡

♡チ♡

♡チ♡

♡チ♡

♡チ♡

♡チ♡



















あ♡  
おちゃんぽ♡  
大好きな♡  
おちゃんぽ♡

♡  
♡

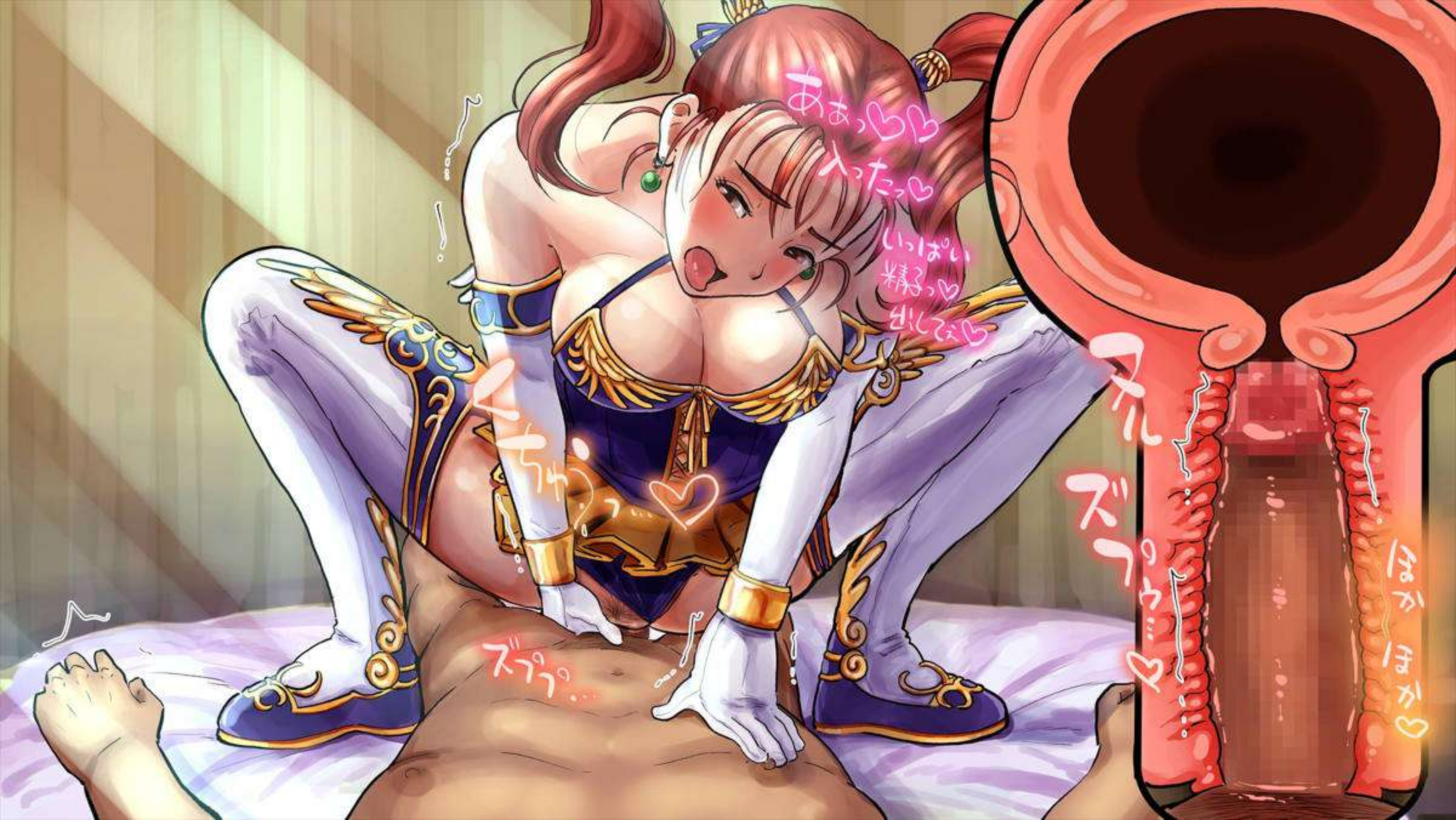
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

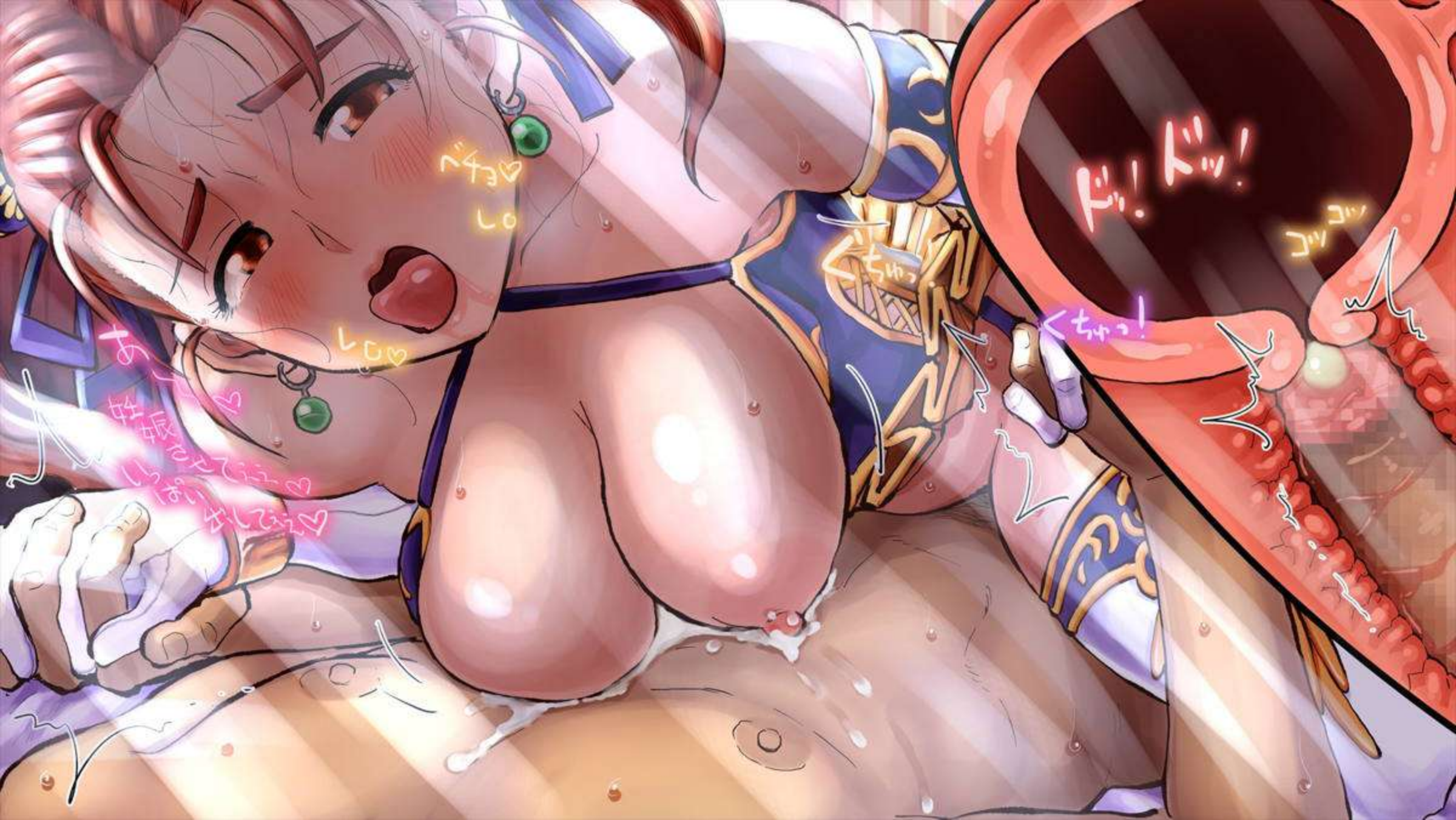












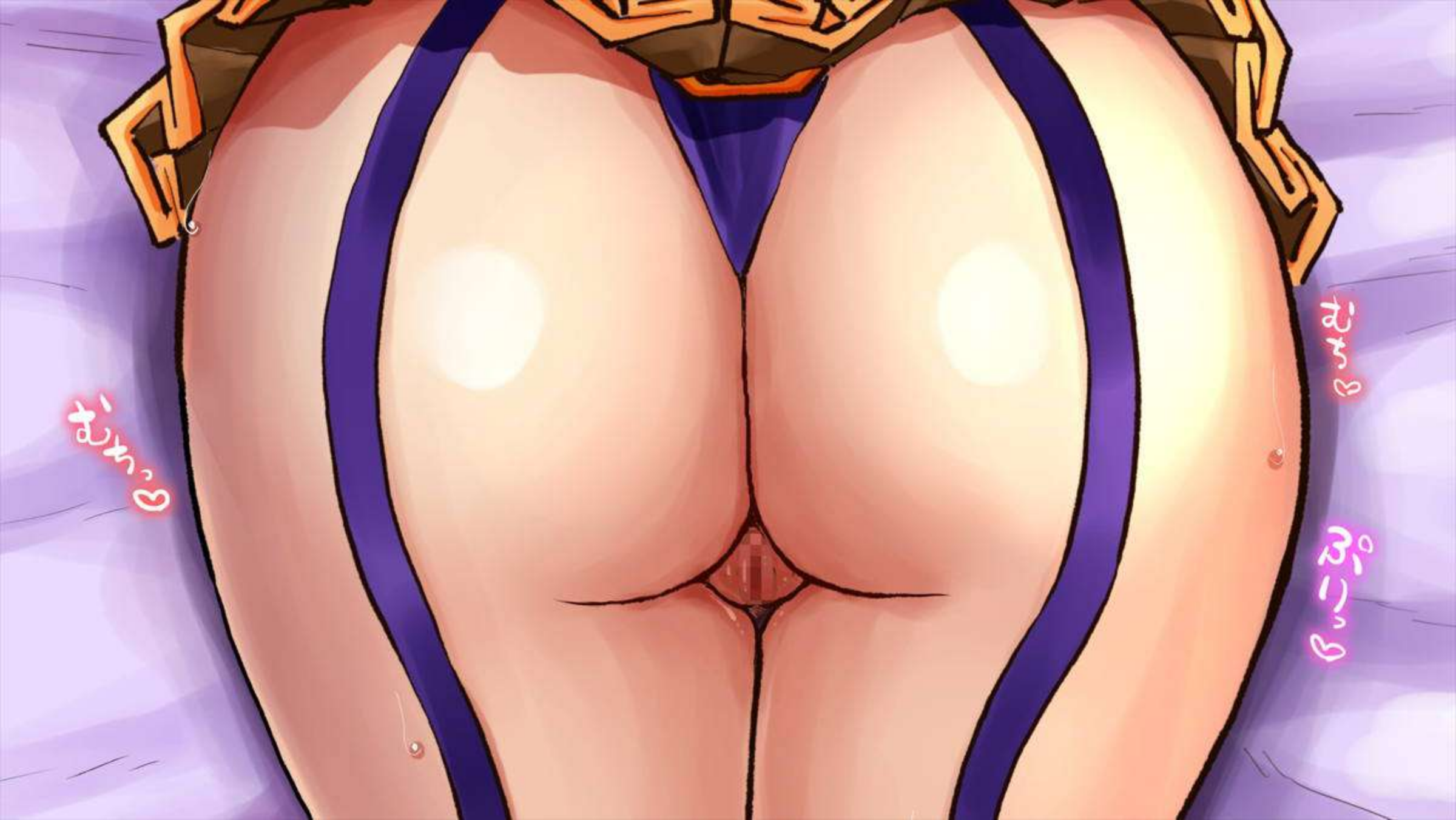






30  
130  
B=130





Butt

Butt

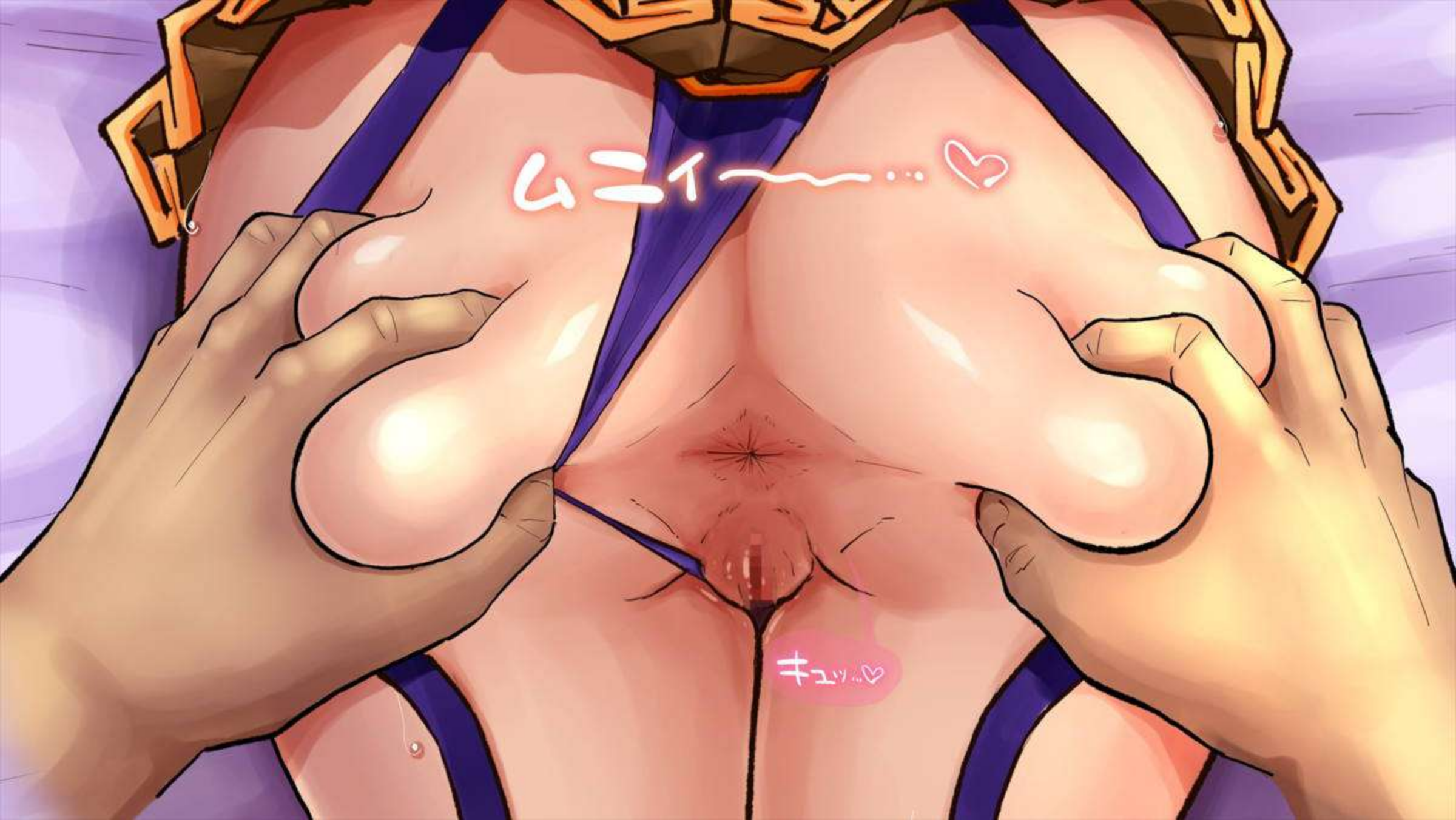
Butt



おに♡

ぶに♡

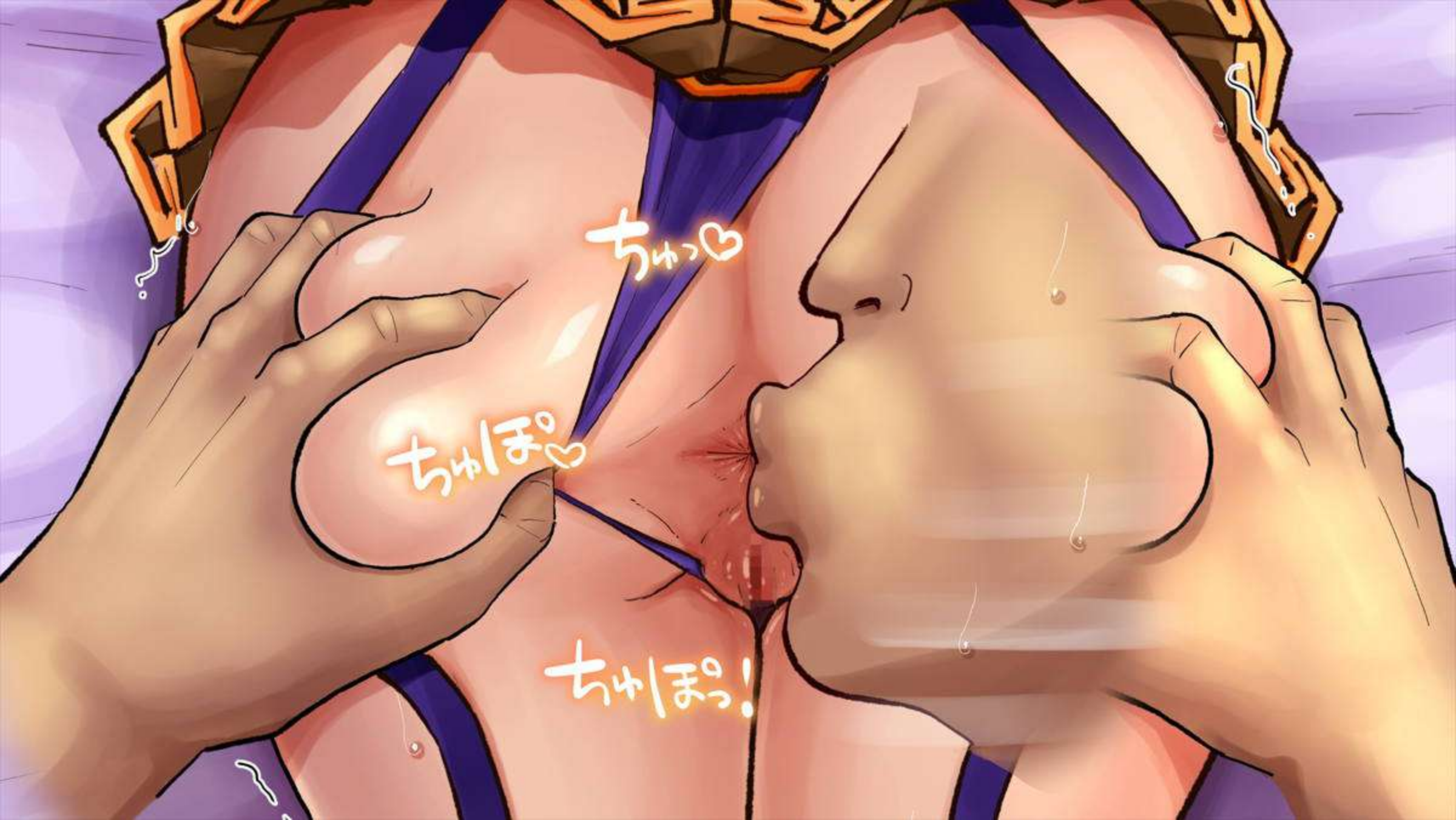
ぴん♡



L=I ~~~~~♡

#24...♡





ちよっ♡

ちよ/ま♡

ちよ/ま!















じはん! じはん!

あはれ  
あはれ  
あはれ

BOON

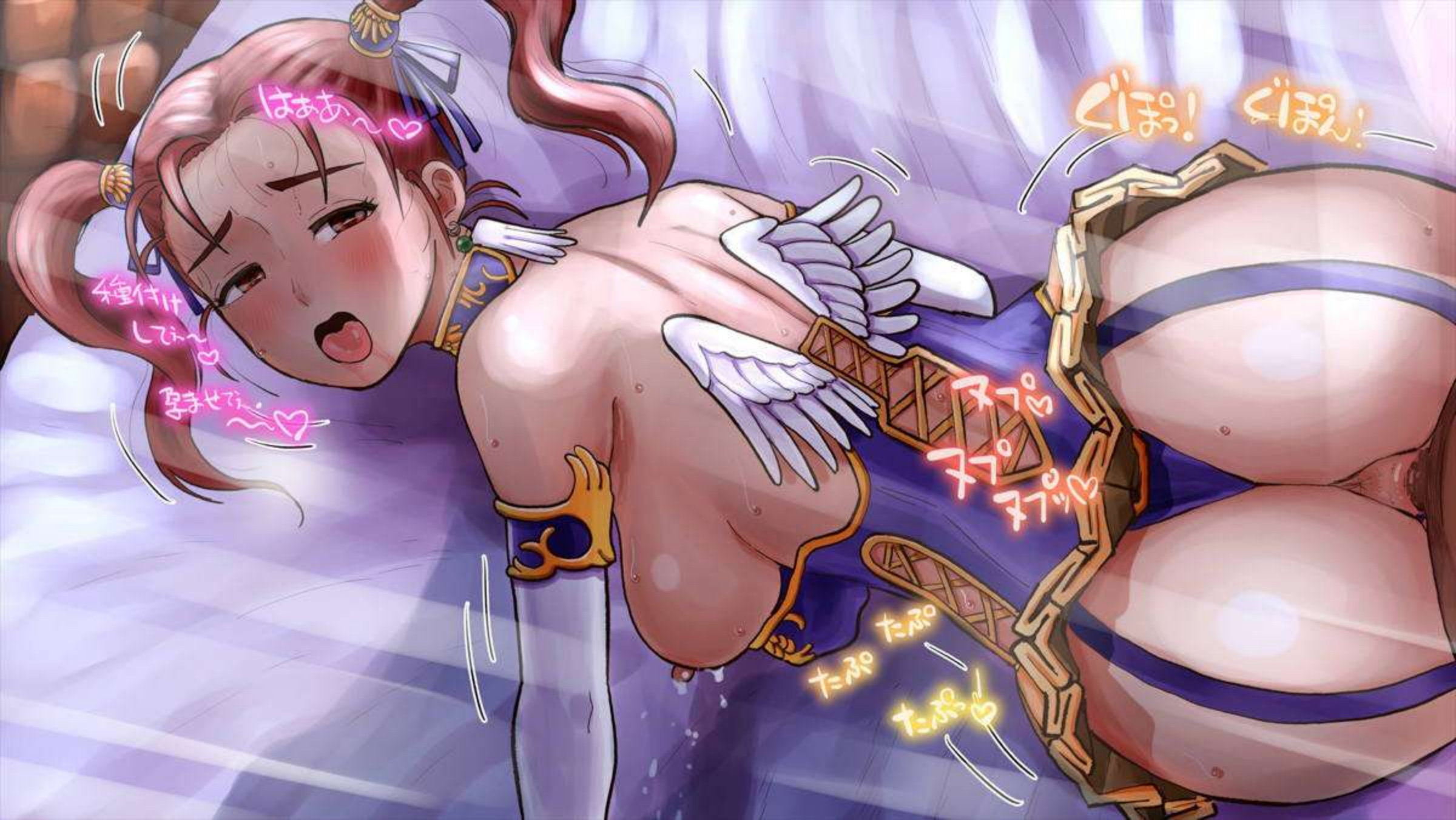
ア  
ア  
ア

うー

ア  
ア  
ア

ア  
ア  
ア

じはん  
じはん  
じはん



はぁあ〜♡

種付け  
して♡

孕ませ♡

ごっ! ごっ!

770♡  
770♡  
770♡

t=30

t=30♡



あー♡  
あー♡  
あー♡  
あー♡  
あー♡

とほほ♡  
とほほ♡  
とほほ♡

とほほ♡  
とほほ♡  
とほほ♡

とほほ♡  
とほほ♡  
とほほ♡

とほほ♡  
とほほ♡  
とほほ♡





たん

たんB

たん  
たん

い  
たん  
たん

たん  
たん

たん  
たん

たん

たん

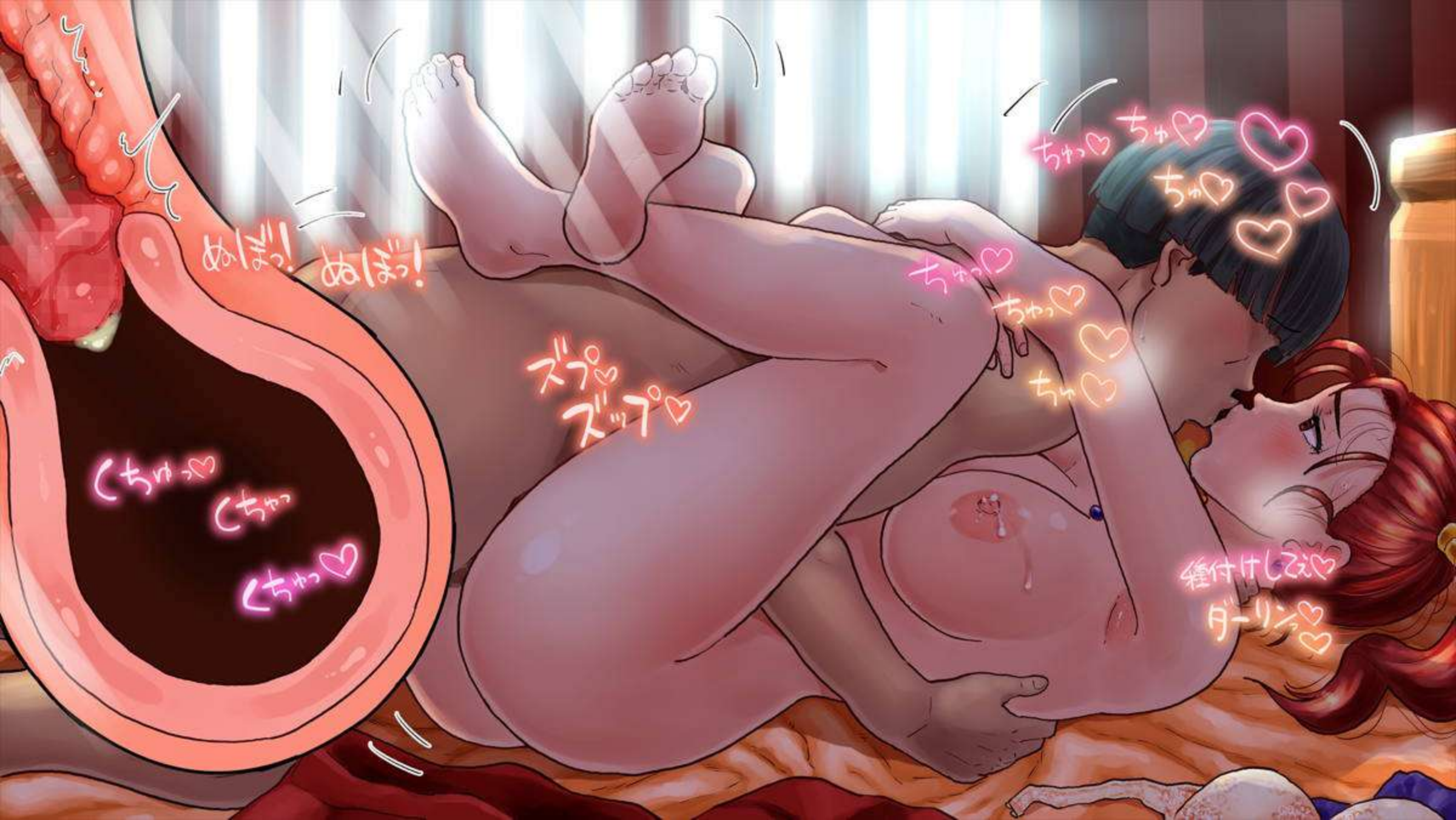












ぬぼっ! ぬぼっ!

ズッ♡  
ズッ♡

♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡

♡ちゅ♡ ♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡ ♡ちゅ♡

♡ちゅ♡ ♡ちゅ♡  
♡ちゅ♡ ♡ちゅ♡

♡箱付けしゅ♡  
♡ダーリン♡



アホッ!♡

ズグッ♡

ズグッ♡

アッ♡

アホッ!♡

♡

アホ♡

アホ♡

アホ♡

アホ♡

アホ♡

精子いっは♡

子宮に

ちゅたい♡

♡





あぁ♡あぁ♡の♡  
いっほい♡  
まじぶっ♡

とっ♡  
おっ♡  
おっ♡

とっ♡  
おっ♡  
おっ♡

♡  
♡

精子♡  
もっと♡  
まんこに♡  
出して♡

♡  
♡



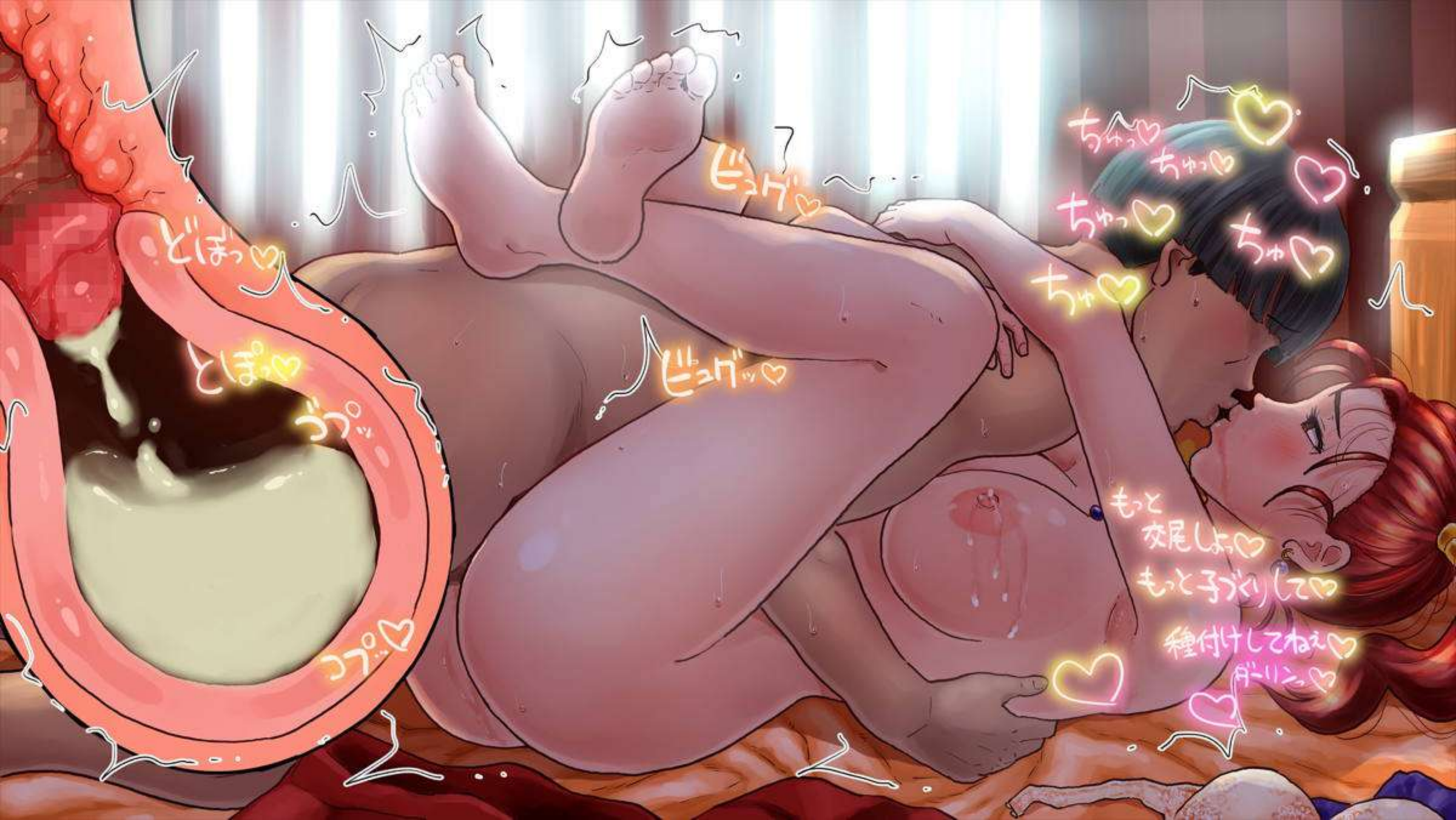
あ、♡あ♡  
妊娠してる♡

びびり！どほほ♡

どほほ♡♡♡

受精してる  
おめ♡  
赤ちゃん  
できてる♡♡





どほっ♡

とほっ♡

うっ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

もっと  
交尾しよ♡

もっと子供して♡

種付けしてね♡

っ♡



























































































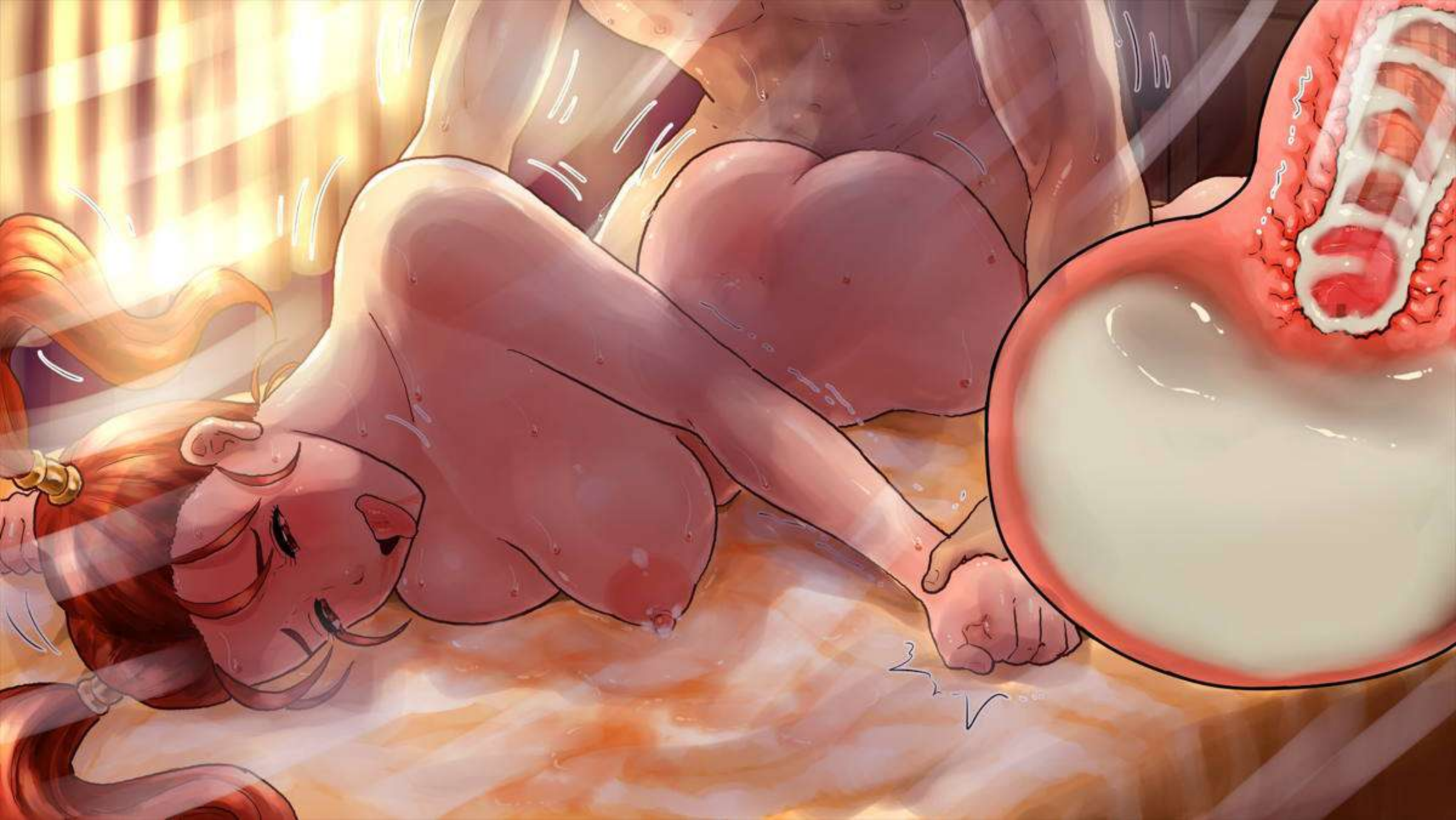
































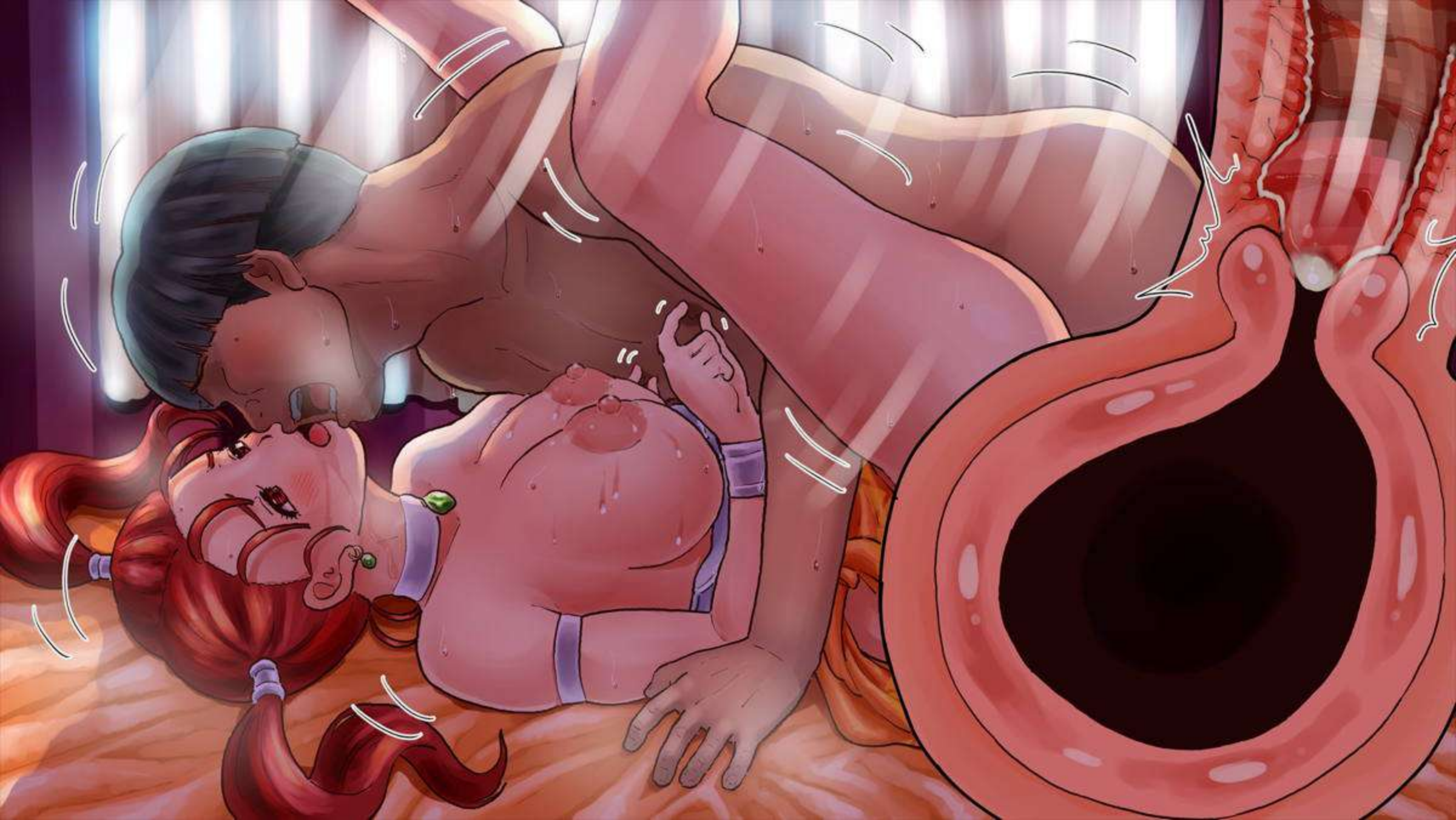


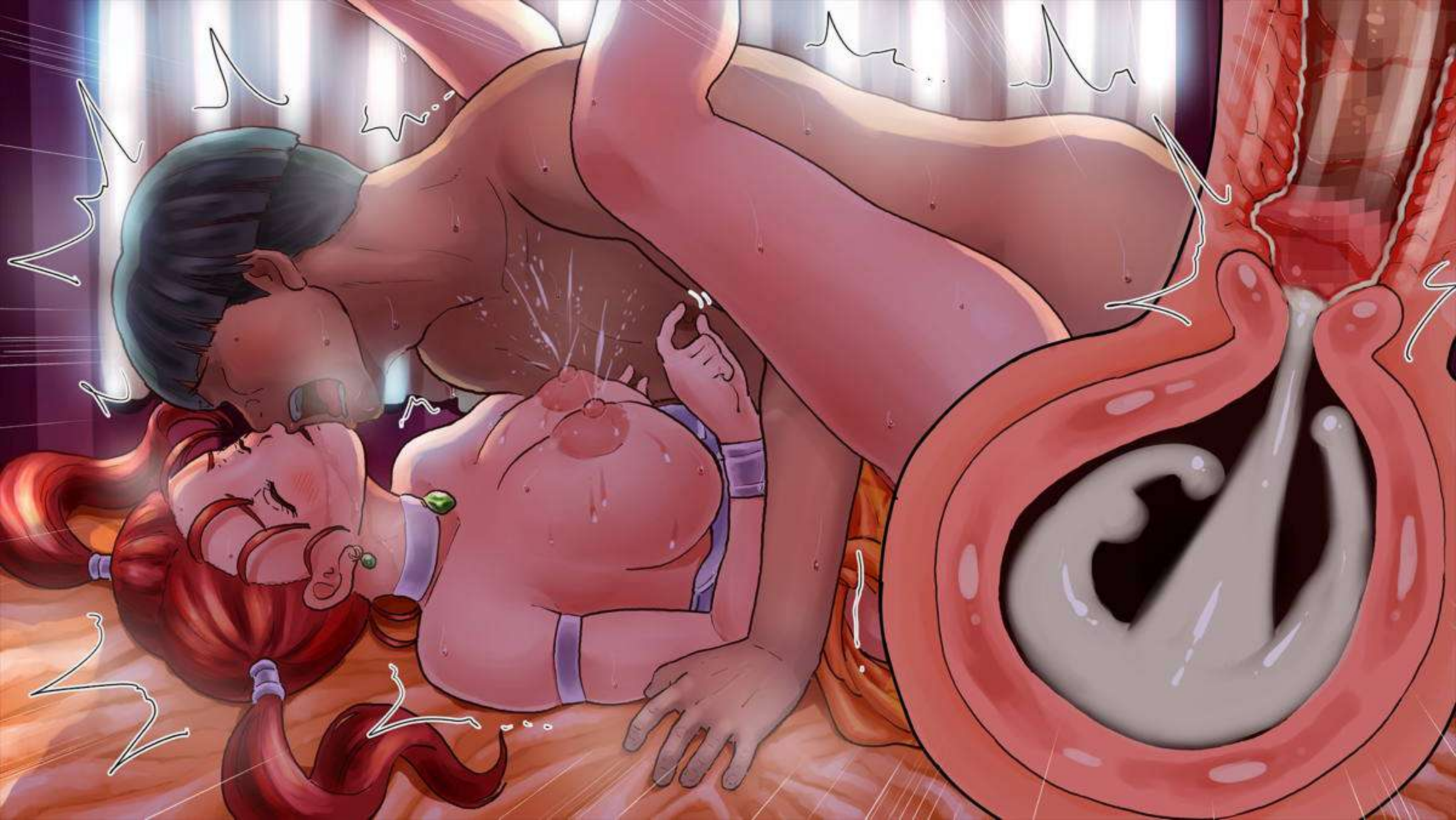














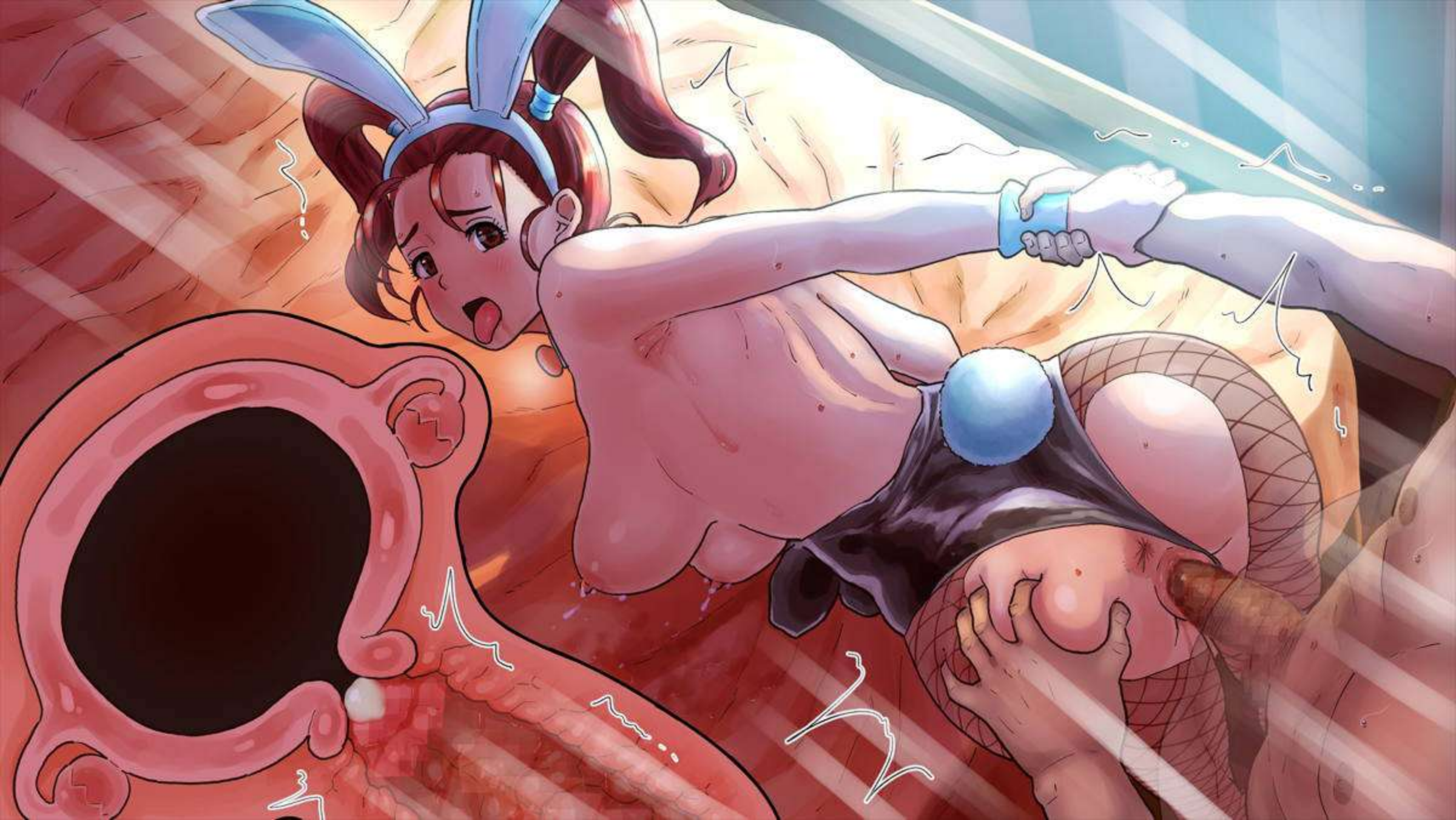


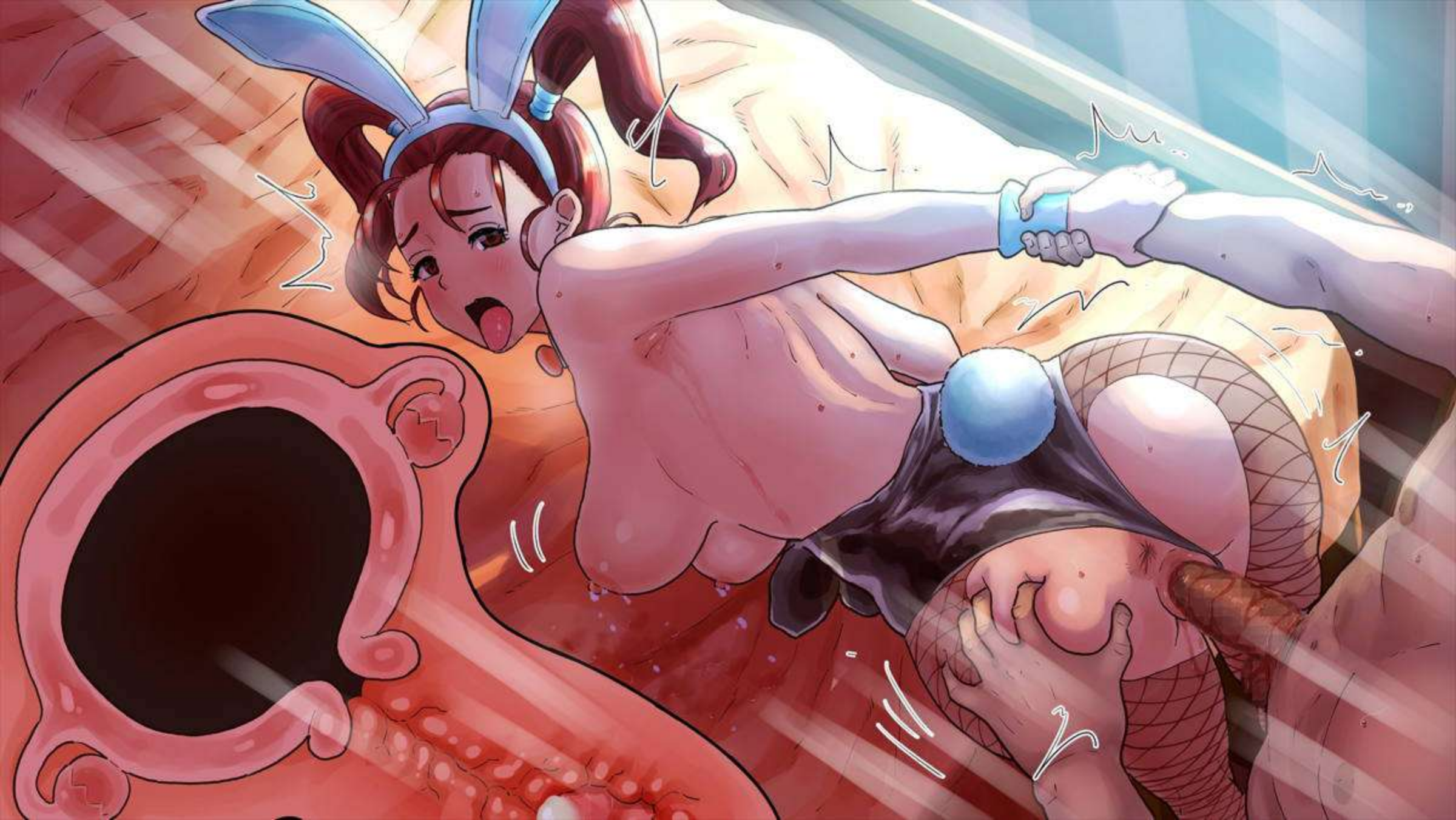
















































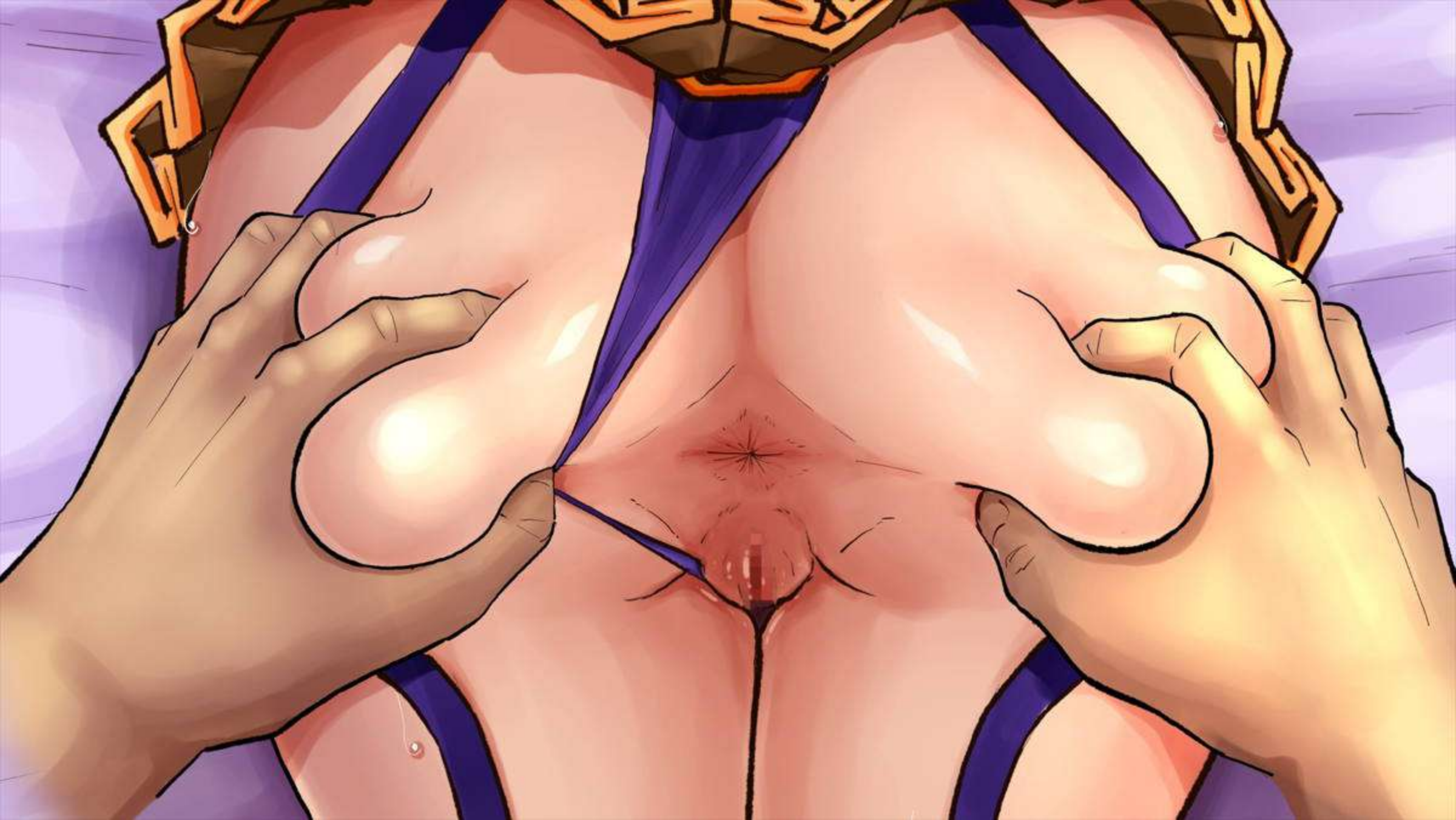




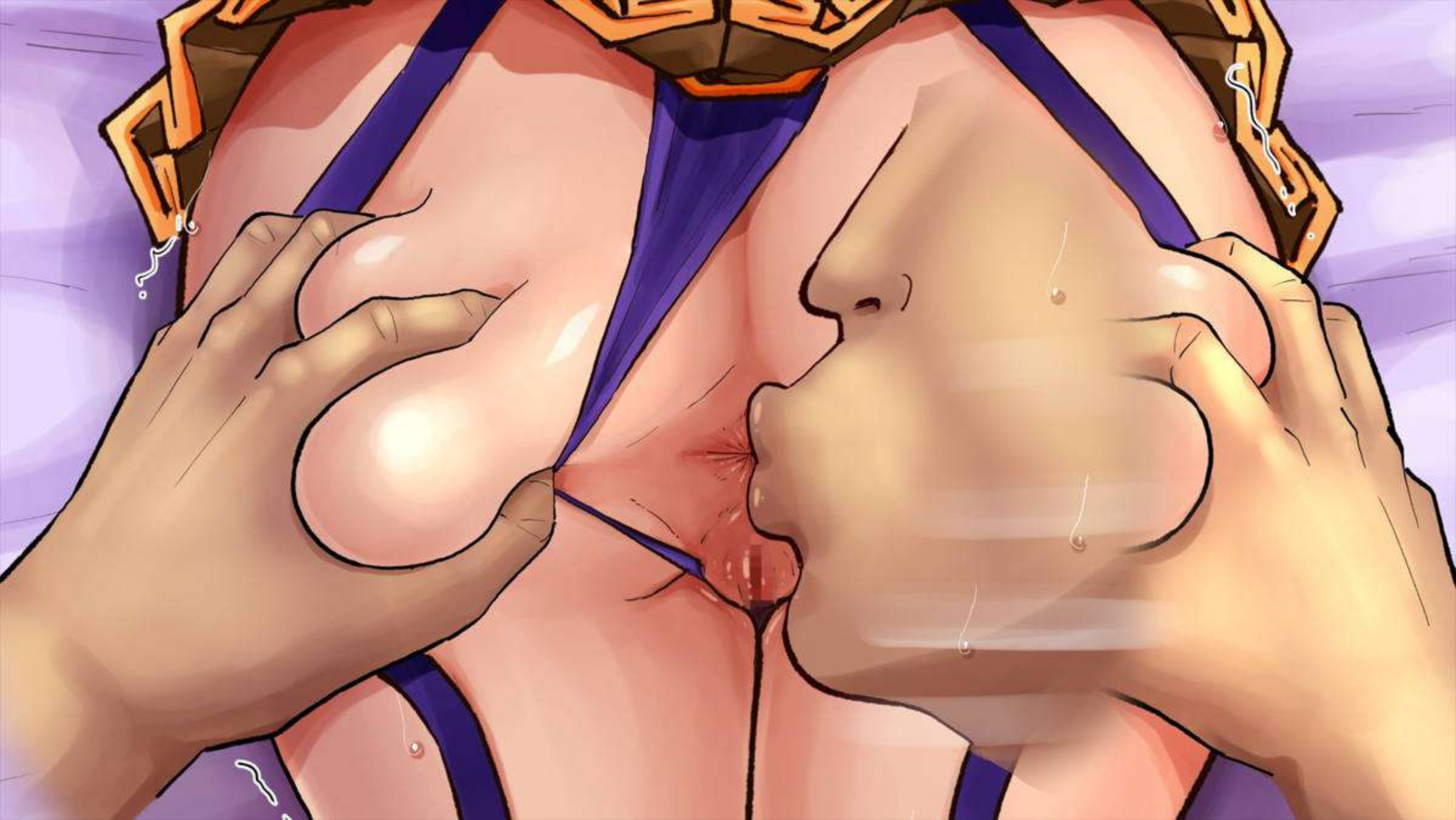


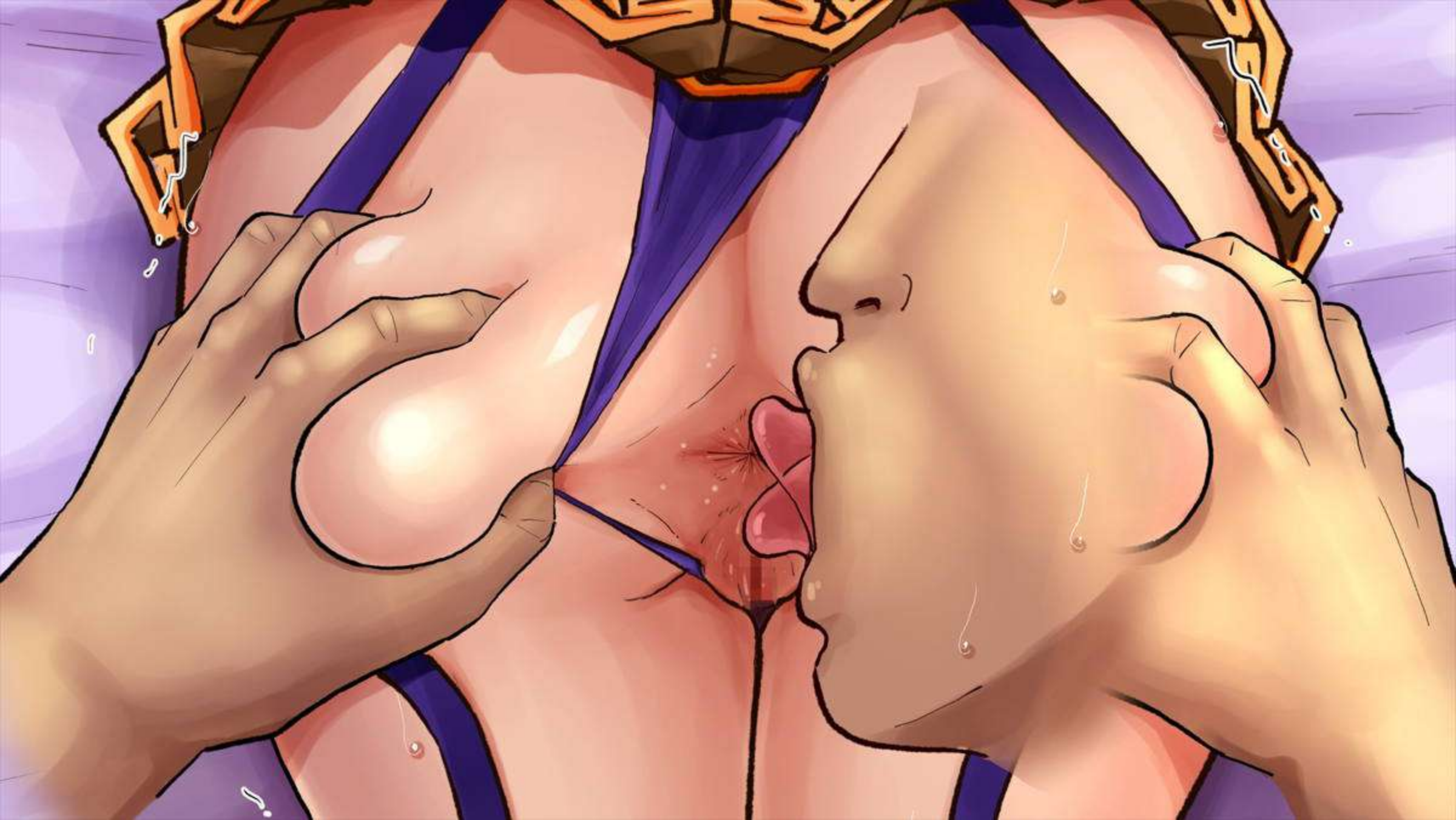












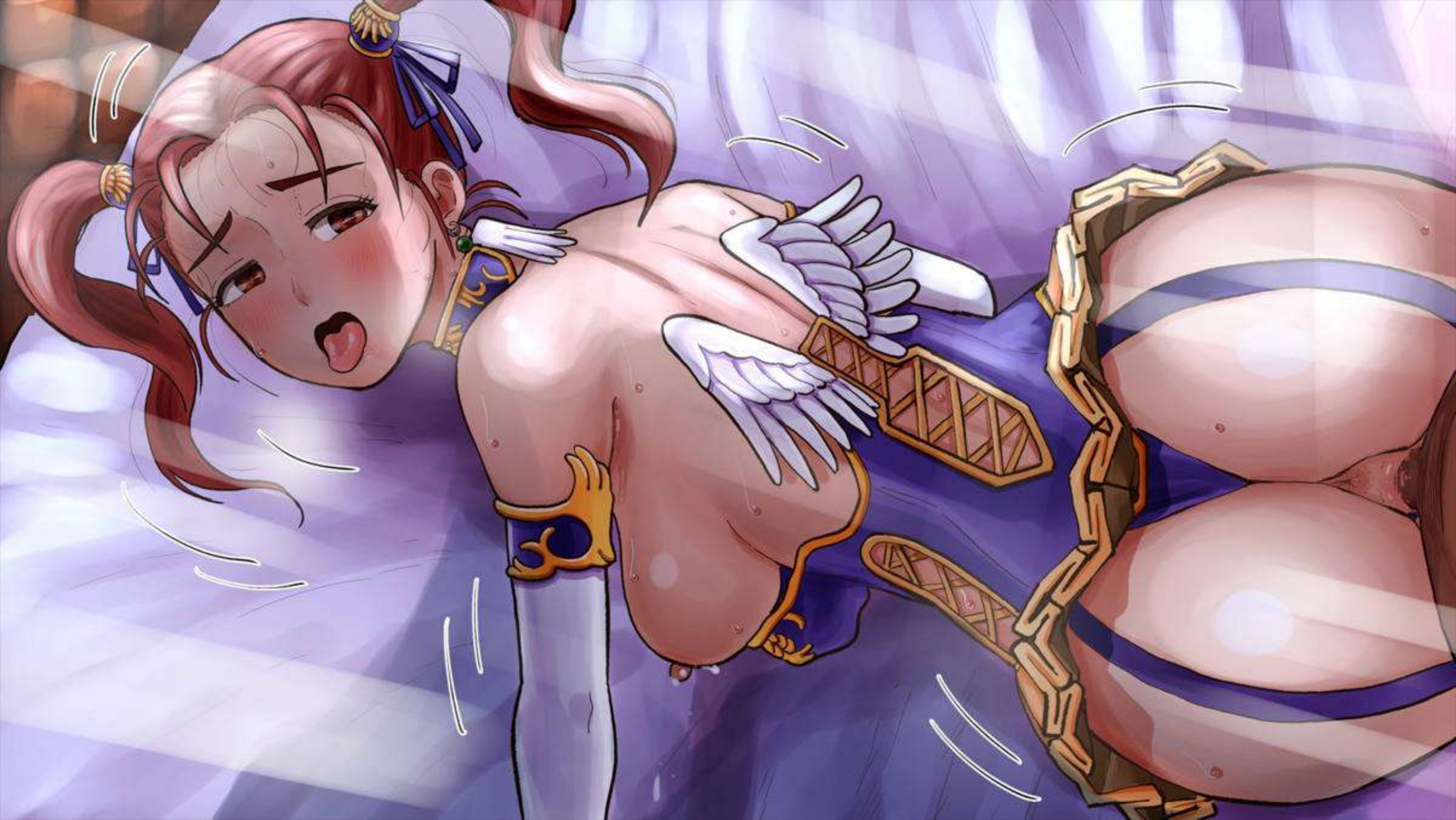


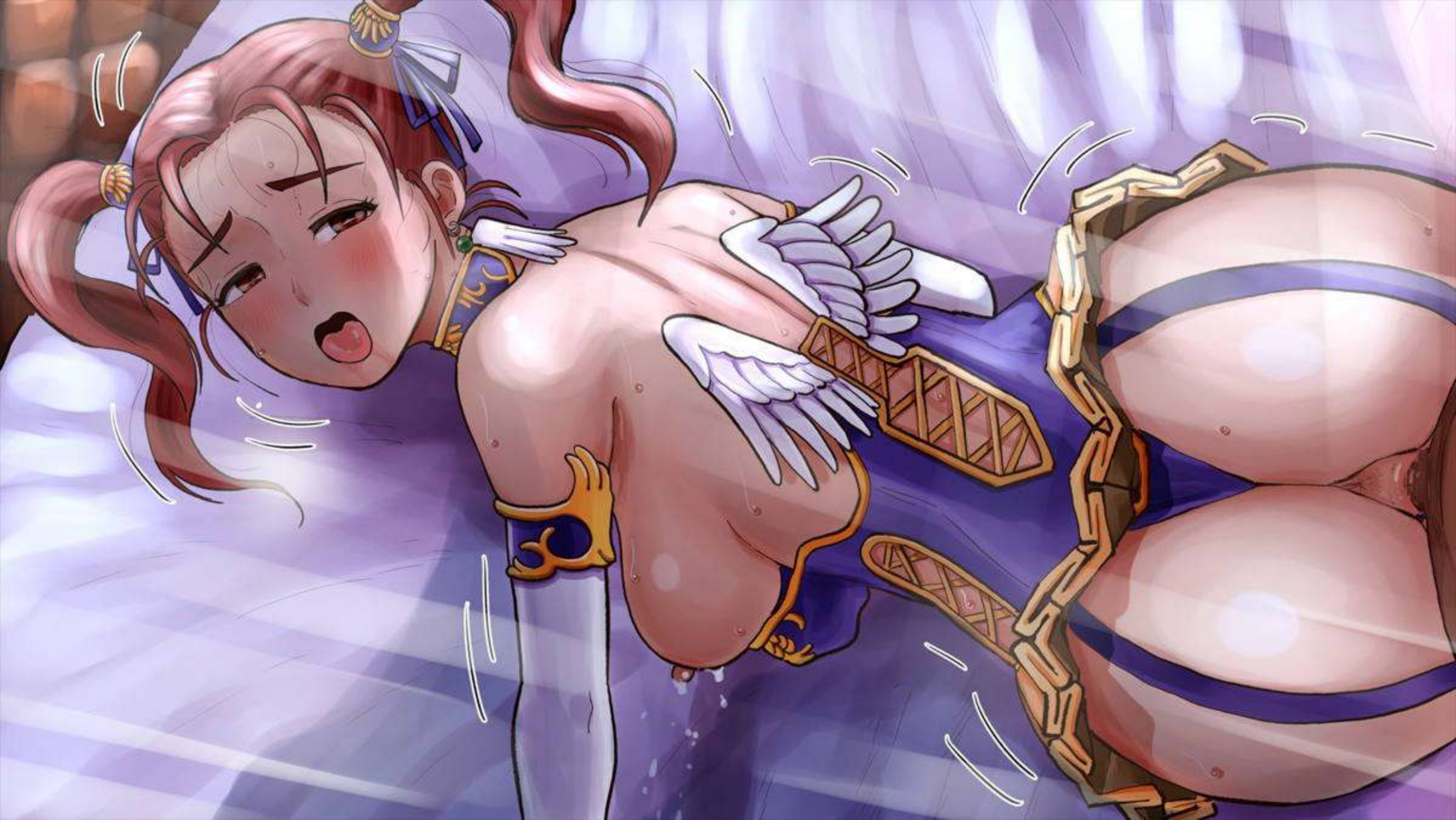






















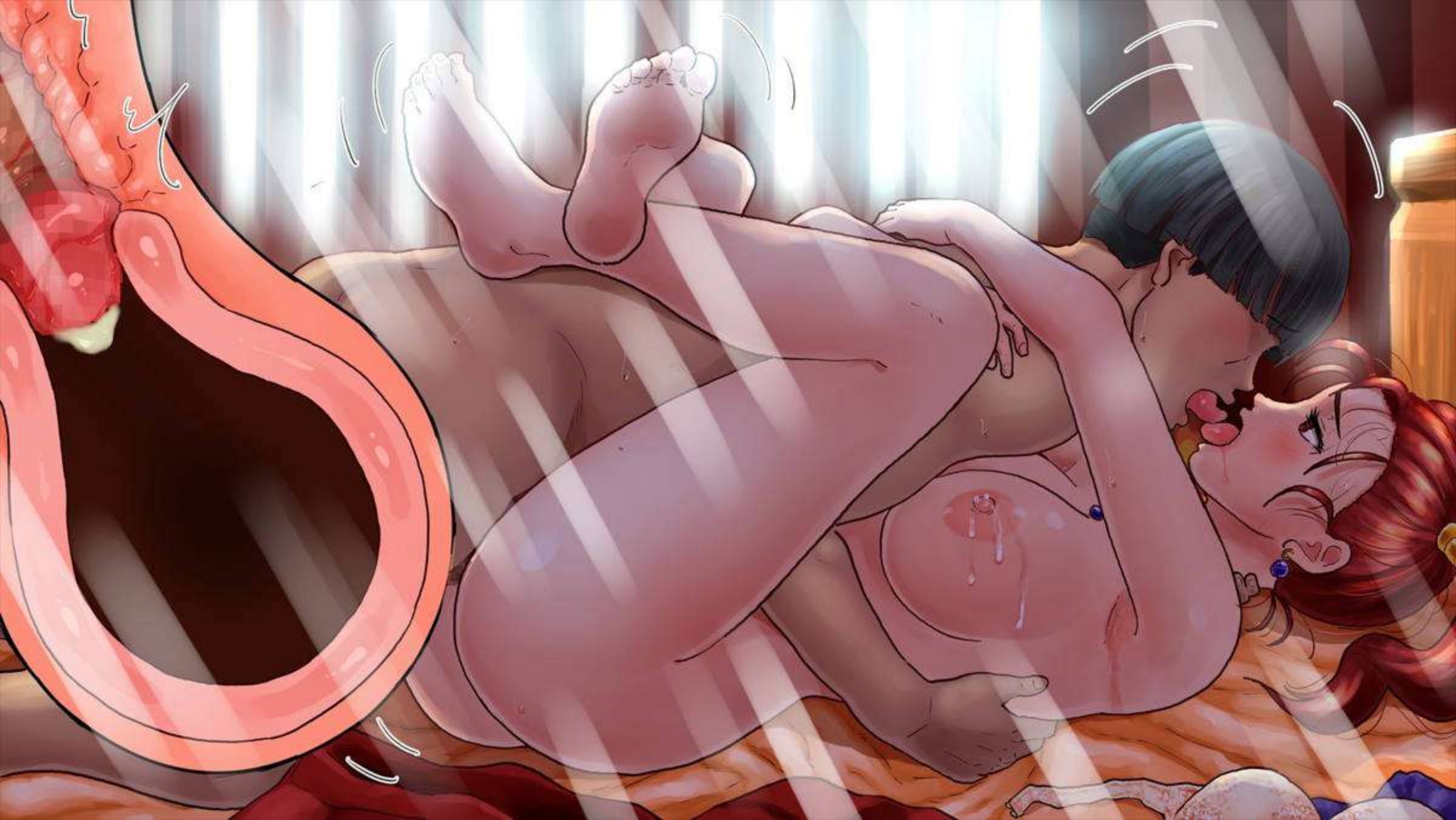




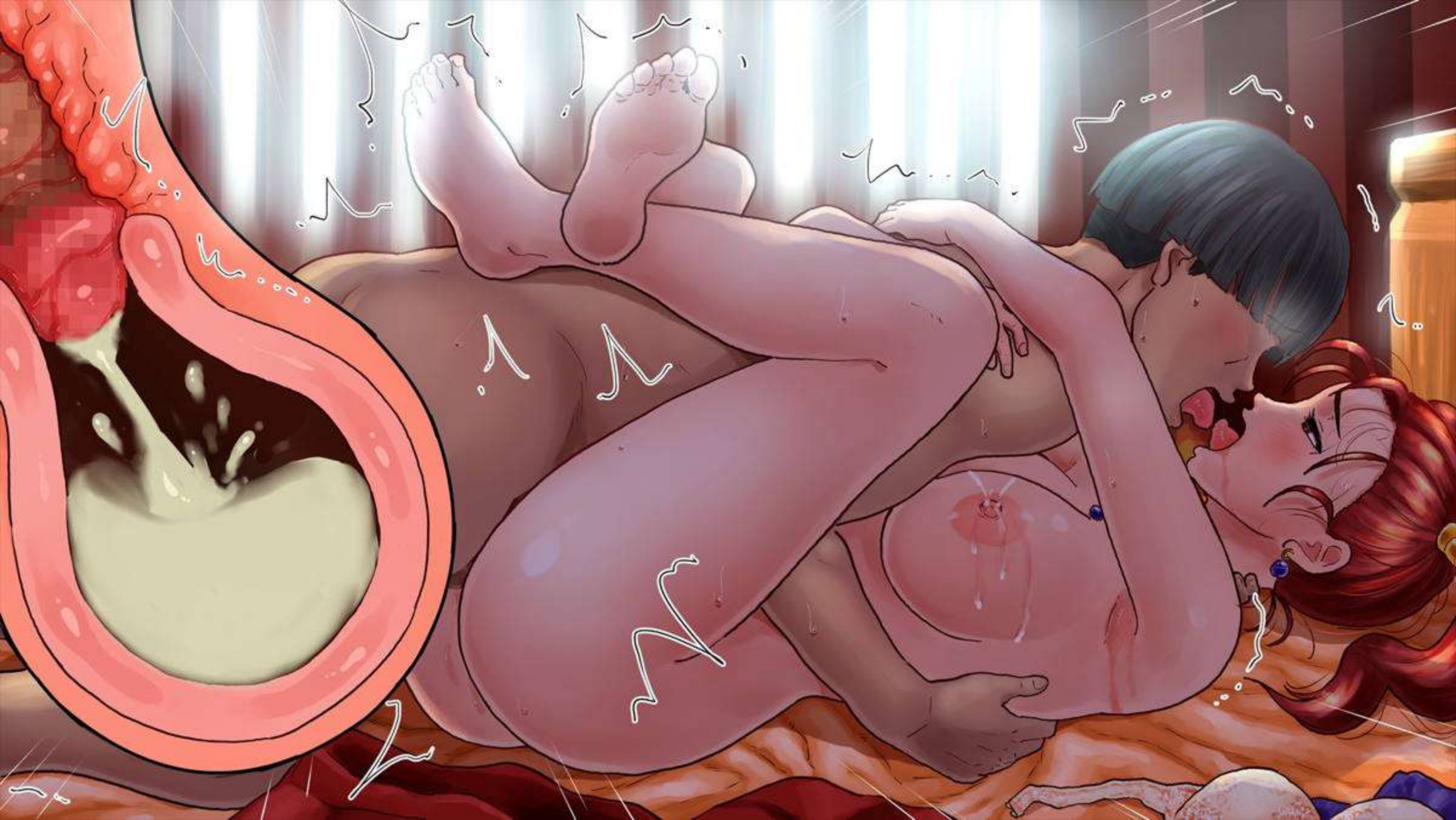


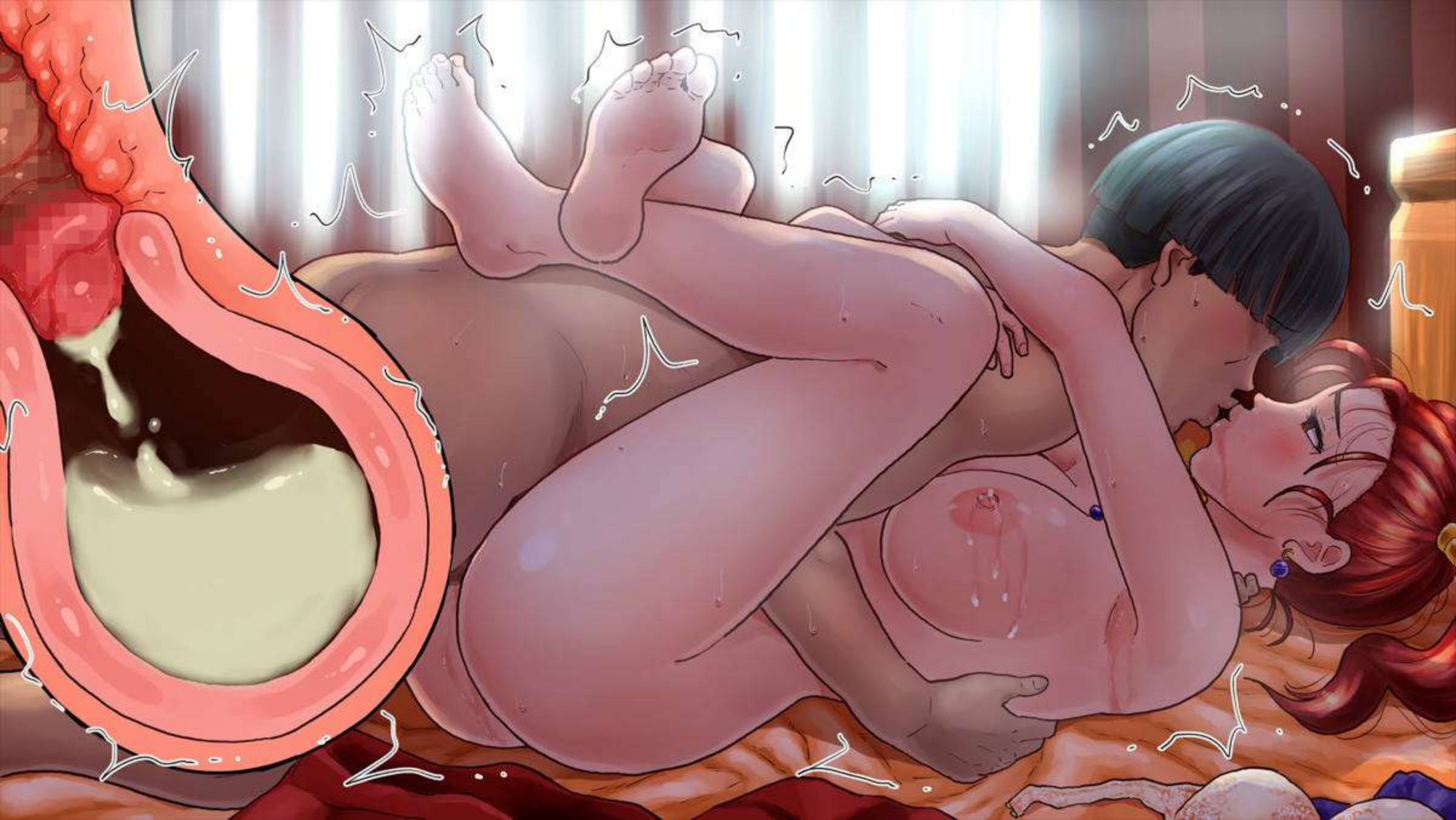














「ああ〜♡ゼシカ〜♡最高の光景だよっ♡  
ゼシカと交尾してる光景っ♡  
愛してるよゼシカ！」



あー♡ちゅっ♡  
ぬちゅっ♡

「んあっ♡んあ♡私も大好きい♡  
もっとおちんぼ動かしなさいよっ♡  
ポルチオ責めてえ♡そうそこお♡  
気持ち良くて排卵しちゃうから♡」

「いっぱい出すよっ！絶対妊娠させるから！  
全部出すから！あーおっぱい気持ちいいっ！  
あーゼシカ好きだっ！」

「ちゅっ♡ちゅ♡もっとキスしよ♡  
キスしながら赤ちゃんつくるのっ♡ちゅー♡  
ああそこおもっと突いてえ♡」

レニッ  
ツニ

30分後。

「べろお♡べろお♡れろお♡  
ああ♡大好きい♡  
もっとペロチューしよ♡  
あは♡もっと硬くなってきた♡」

「ゼシカのおっぱいと母乳と！  
カラダのふかふかの感触最高♡  
しかもディープキスしながら！  
生であったかまんこ交尾しながらっ！」

「いまっ♡排卵してるよ♡  
あなたの精子待ってるから♡  
はやくおちんぼドビコドビコしてえ♡  
私のまんこにお漏らししていいから♡」

「ああああ！ゼシカ！たまらんっ！出すよ！  
絶対孕ませるから！絶対命中させるから！  
大好きなゼシカの卵子っ受精させるからな！」

さらに40分後。

「もう出すっ！ゼシカっ！妊娠させるっ！  
ゼシカのまんこで生射精するからっ！  
ゼシカのこの気持ちよすぎるエロまんこで！  
精子出しちゃうからっ！」

「ああ大好きい♡あなたの精子っ♡熱いの  
はやく出して♡全部私のまんこにちょうだい♡  
子宮で飲み干して受精してあげるから♡  
赤ちゃん作りたいのおお♡」

「ゼシカっ！出るよっ！妊娠させるよ！  
種付けするよ！子供っ産んでくれっ！  
二人の子供受精してくれっ！ああっああっ！」

「出してっ！妊娠させてえ！あなたの赤ちゃん産みたいっ！  
あなたの赤ちゃん作りたいのおお！出してえ孕ませてえ！  
おちんぼドピュドピュまんこで精子お漏らししてえええ！」

「はうっ！ ああああ気持ちいいっ！  
まんこめっちゃ締まってっ…！  
ああああめっちゃ出るううっ！」

「ああああ♡出てるうう！ 排卵まんこに  
種付け精子いっぱいっ！ ああっああっ！  
気持ちいいっ！ あああ♡排卵してるっ♡  
精子来るの待ってるっ♡」

あ  
あ  
あ

受精おめでとう♡

「ああ♡ゼシカとキスしながら種付けっ♡  
最高すぎるっ♡あ～天国だっ♡ゼシカと  
子作りしまくれるなんてっ！  
ゼシカ！ 俺だけのゼシカ！！」

「んああ♡私もあんだと子作り出来て幸せ♡  
ラブラブ種付け♡今っ♡三人の赤ちゃん  
受精してるよおお♡」

♡♡♡

「はあっはあっはあ…最高だった…  
今でも信じられない…ゼシカと  
子作りしてるなんて…♡」

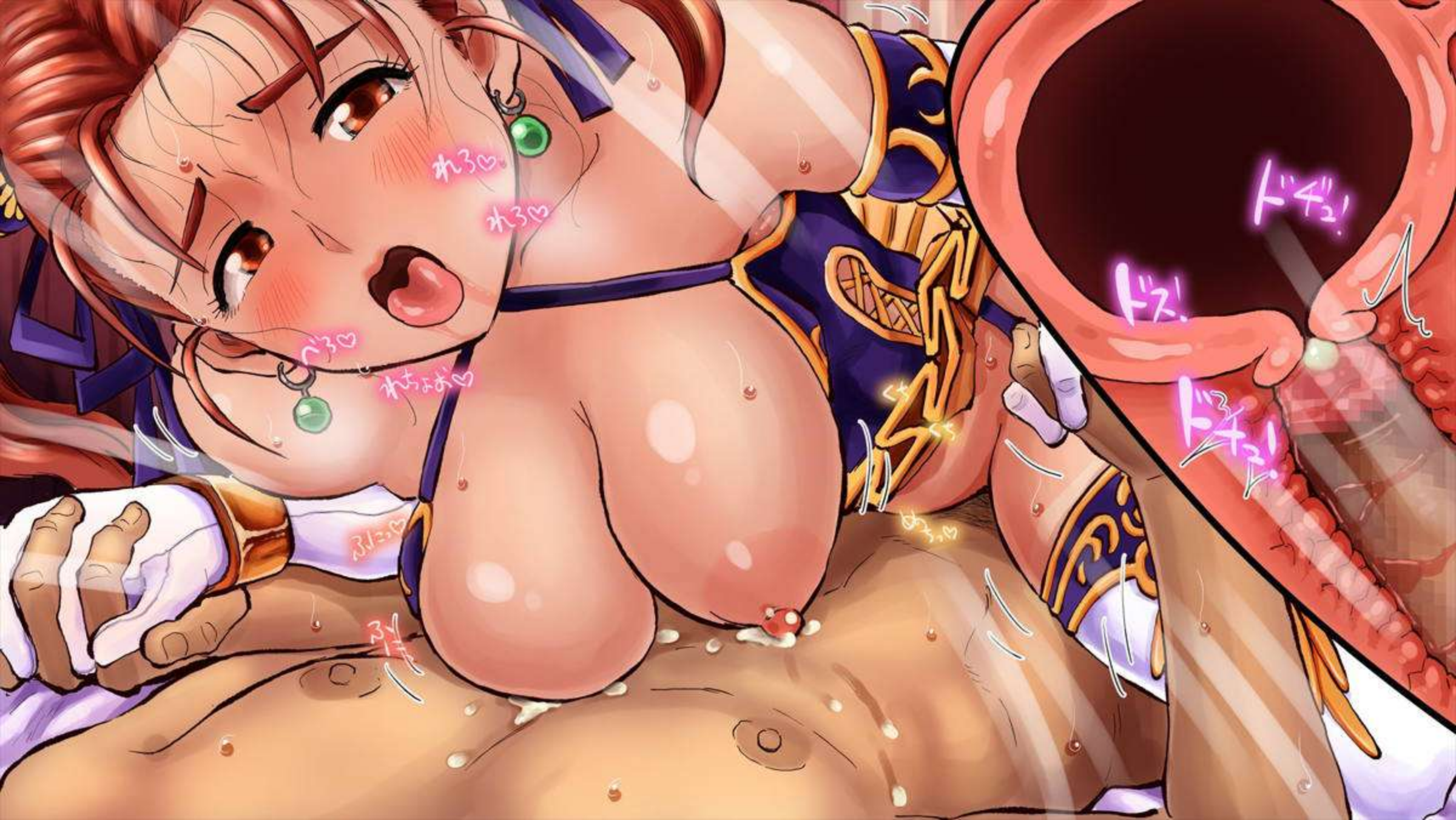
「ちゅっ♡ちゅ♡ちゅ♡何言ってるの  
愛し合ってるんだから当たり前じゃない♡  
まだまだ出来るよね♡もっと裸であなたと  
愛し合いたいな♡あなたとの子供…  
愛の結晶作りたい♡ちゅ♡」

「ああああ～♡ゼシカ…♡もう一生抱き続ける…！  
一生愛するよお♡ずっとゼシカとセックスして…！  
もっと子供作るから…！」

「へへ♡嬉しいな♡ちゅっ♡私ももっと  
妊娠したいな♡大好きなあなたの赤ちゃん♡  
もっと作って産みたいから♡  
ちゅ～っ♡もっと種付けしよ♡」







水3♡

水3♡

水3♡

水ちんち♡

水3♡

水3♡

ト4!

ト7!

ト3  
ト4!

水3♡











